

2 第2回アンケートの調査結果 (郵送調査)

2.1 定住状況について

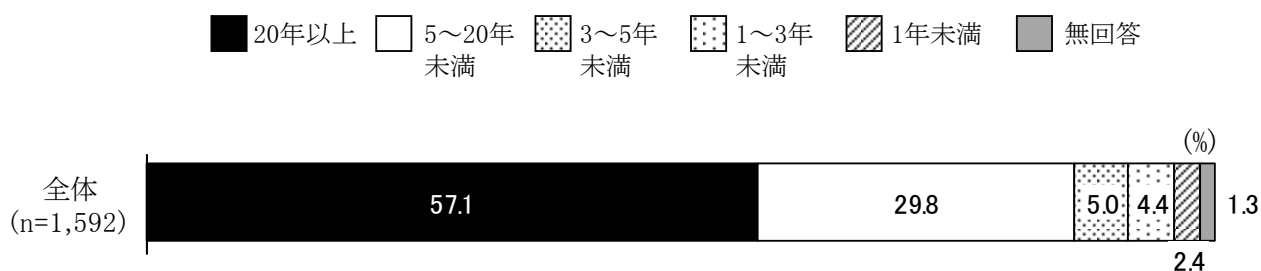
(1) 居住年数

問1. あなたは川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は57.1%、5年以上の居住者は86.9%となっている。

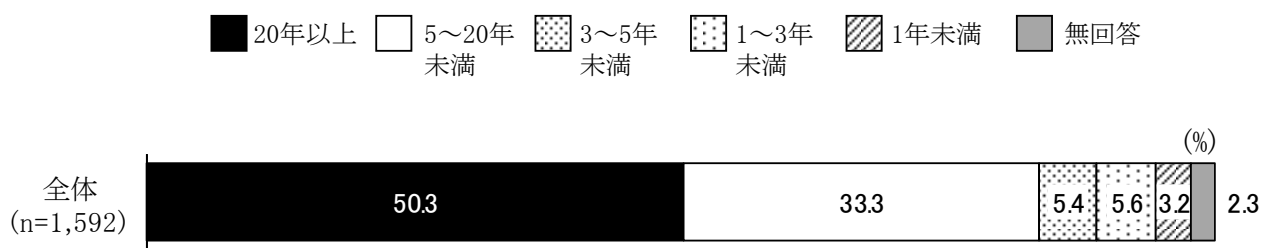
【図表 63】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

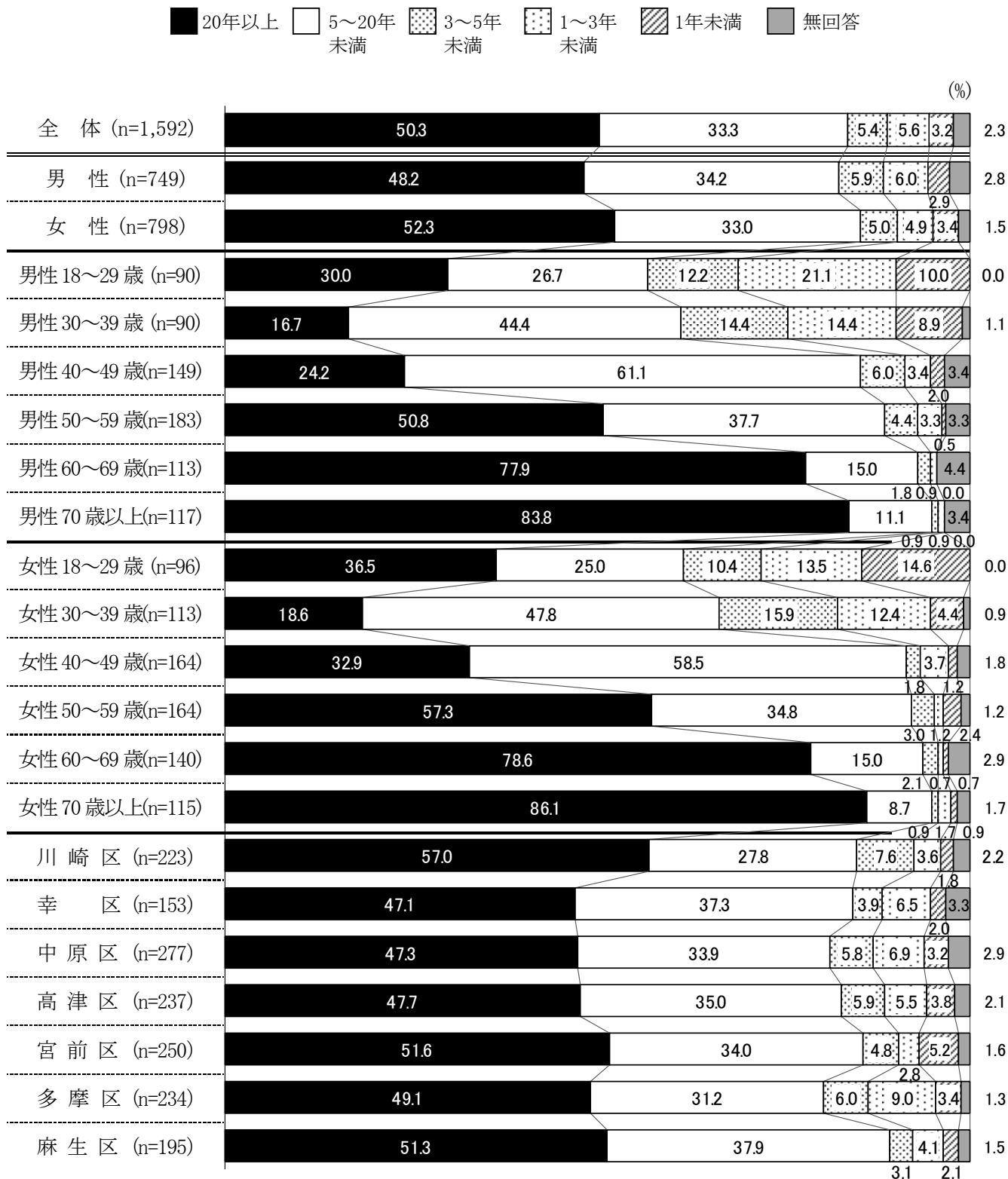
居住年数「20年以上」は50.3%、5年以上の居住者は83.5%となっている。

【図表 64】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が5割を上回っている。
 居住区別では、「20年以上」は「川崎区」(57.0%)が最も高く、次いで「宮前区」(51.6%)、
 「麻生区」(51.3%)と続き、「幸区」が47.1%で最も低い。

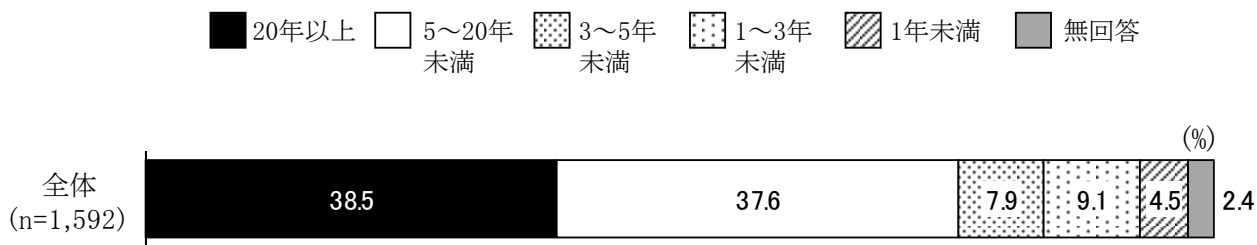
【図表 65】居住年数（現在お住まいの区）
 （性別、性／年齢別、居住区別）



③ 現在のお住まい

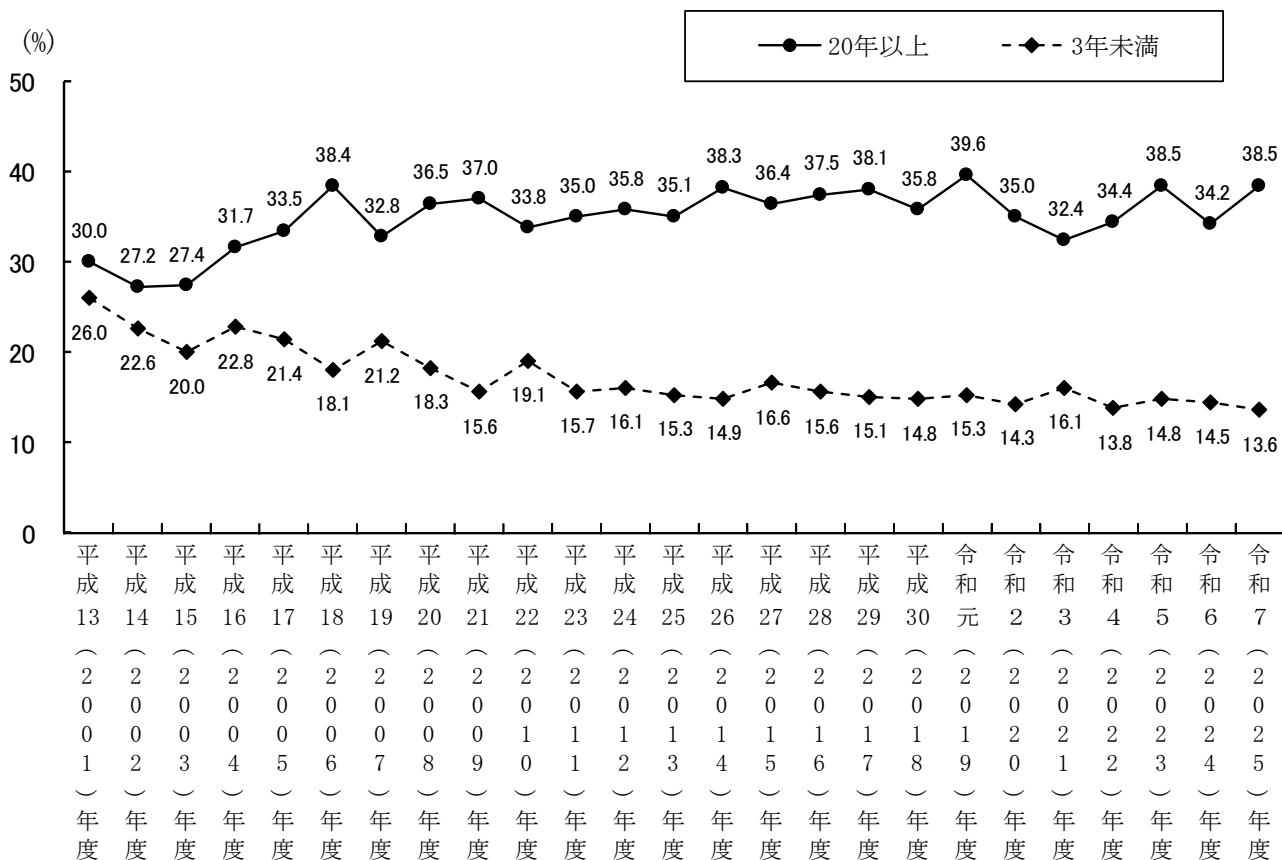
居住年数「20年以上」は38.5%、5年以上の居住者は76.1%となっている。

【図表 66】 居住年数（現在のお住まい）



過去の推移では、「20年以上」は昨年度（令和6年度）から4.3ポイント上昇して38.5%となり、「3年未満」は大きな変化が見られなかった。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は24.9ポイントとなっている。

【図表 67】 居住年数（経年比較）



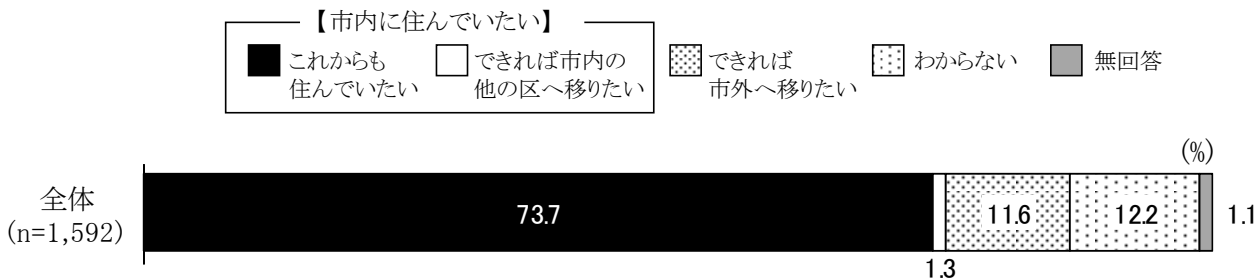
※令和2年度までの設問文は「今のところにお住まいになって何年になりますか」で実施

(2) 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

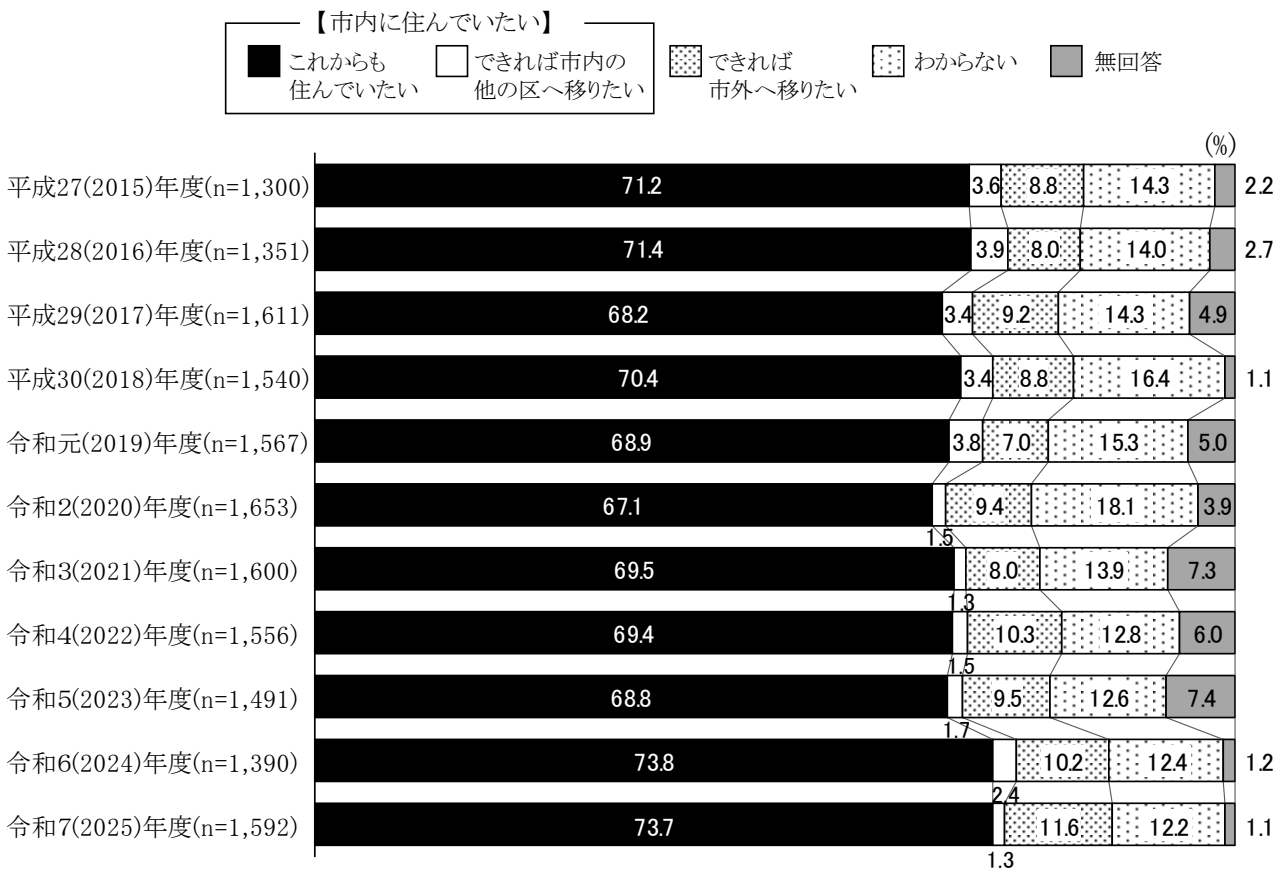
「これからも住んでいたい」(73.7%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.3%)を合計した【市内に住んでいたい】は75.1%、「できれば市外へ移りたい」は11.6%であった。

【図表 68】 定住意向



定住意向については、昨年度（令和6年度）から大きな変化は見られない。

【図表 79】 定住意向（経年比較）

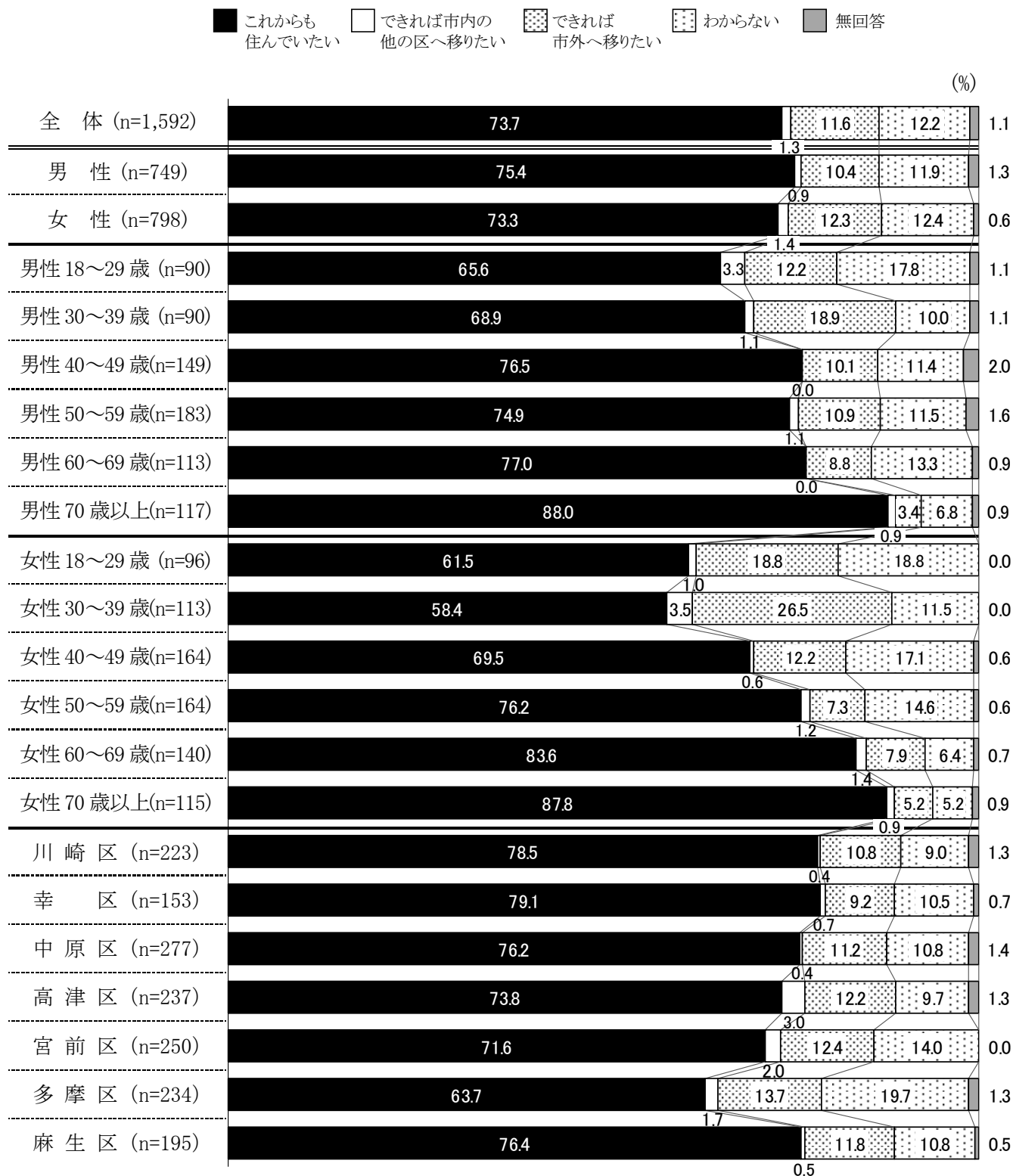


※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

性／年齢別に見ると、「これからも住んでいたい」は女性30～39歳を除いた性／年齢層で6割を上回り、男性は70歳以上、女性は60歳代以上が8割を超えている。

居住区別では、「これからも住んでいたい」は「幸区」(79.1%)が最も高く、「多摩区」(63.7%)が最も低い。

【図表 70】定住意向（性別、性／年齢別、居住区別）

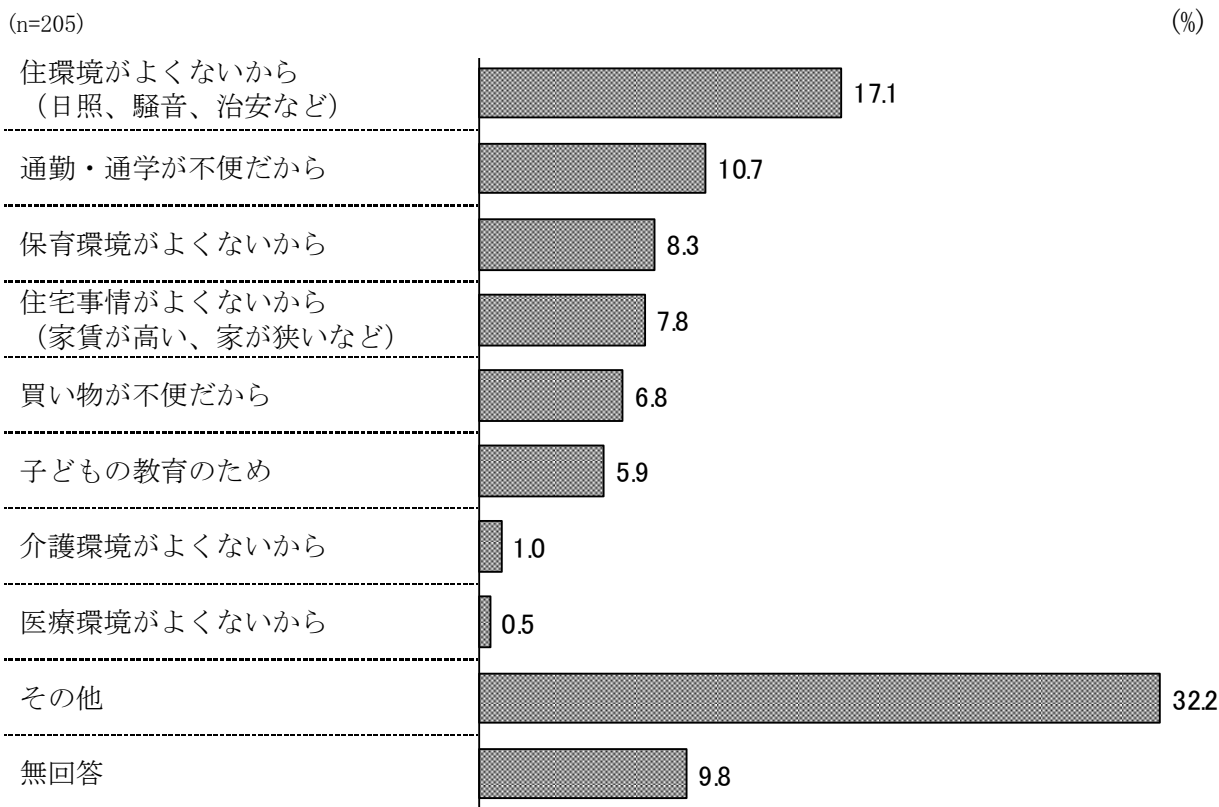


(3) 転居意向の理由

問3. あなたが、今のところから移りたい、または移る主な理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つだけ選んでください。

「できれば市内の他の区へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した転居意向がある人に転居意向の理由を聞いたところ、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が17.1%で最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」（10.7%）、「保育環境がよくないから」（8.3%）と続いている。

【図表 71】 転居意向の理由

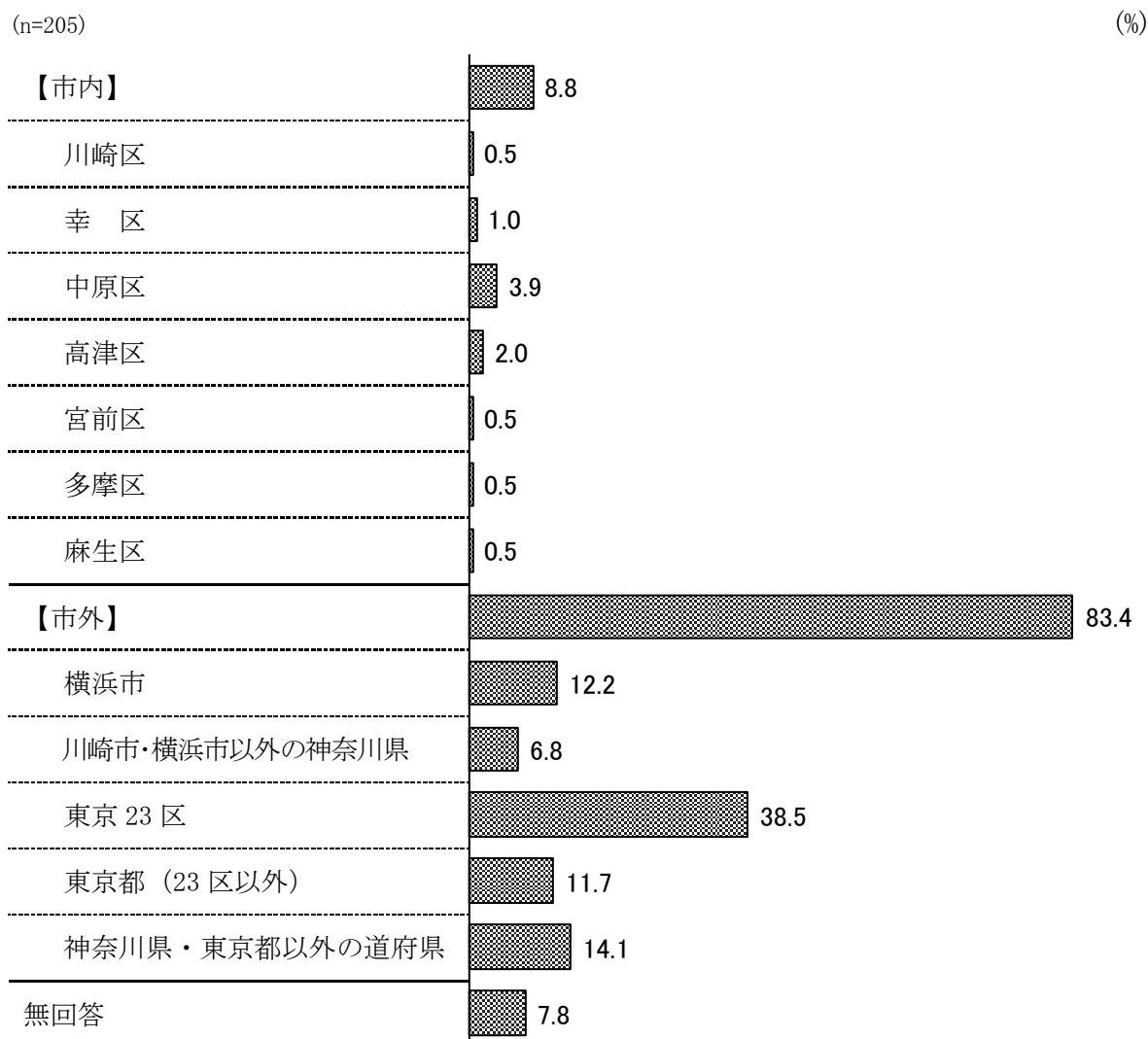


(4) 転居先の希望

問4. あなたは、どこに住みたいと思いますか。最も住みたいと思う地域を1つだけ選んでください。

転居意向がある人の転居先の希望は、【市内】が8.8%、【市外】が83.4%であった。【市内】では「中原区」が3.9%で最も高く、次いで「高津区」(2.0%)、「幸区」(1.0%)と続いている。【市外】では「東京23区」が38.5%で最も高く、次いで「神奈川県・東京都以外の道府県」(14.1%)、「横浜市」(12.2%)と続いている。

【図表 72】 転居先の希望



居住区別の転居先の希望は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 73】 転居先の希望（居住区別）

(%)

	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース: 転居意向がある人	(205)	(25)	(15)	(32)	(36)	(36)	(36)	(24)
【市内】	8.8	4.0	6.7	3.1	16.7	11.1	11.1	4.2
川崎区	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0
幸区	1.0	4.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
中原区	3.9	0.0	6.7	0.0	11.1	2.8	5.6	0.0
高津区	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0
宮前区	0.5	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
多摩区	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
麻生区	0.5	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
【市外】	83.4	96.0	86.7	93.8	80.6	75.0	75.0	87.5
横浜市	12.2	8.0	20.0	15.6	13.9	13.9	13.9	0.0
川崎市・横浜市以外の神奈川県	6.8	12.0	6.7	3.1	8.3	5.6	2.8	12.5
東京23区	38.5	40.0	26.7	53.1	36.1	41.7	27.8	41.7
東京都(23区以外)	11.7	0.0	6.7	6.3	8.3	8.3	27.8	20.8
神奈川県・東京都以外の道府県	14.1	36.0	26.7	15.6	13.9	5.6	2.8	12.5
無回答	7.8	0.0	6.7	3.1	2.8	13.9	13.9	8.3

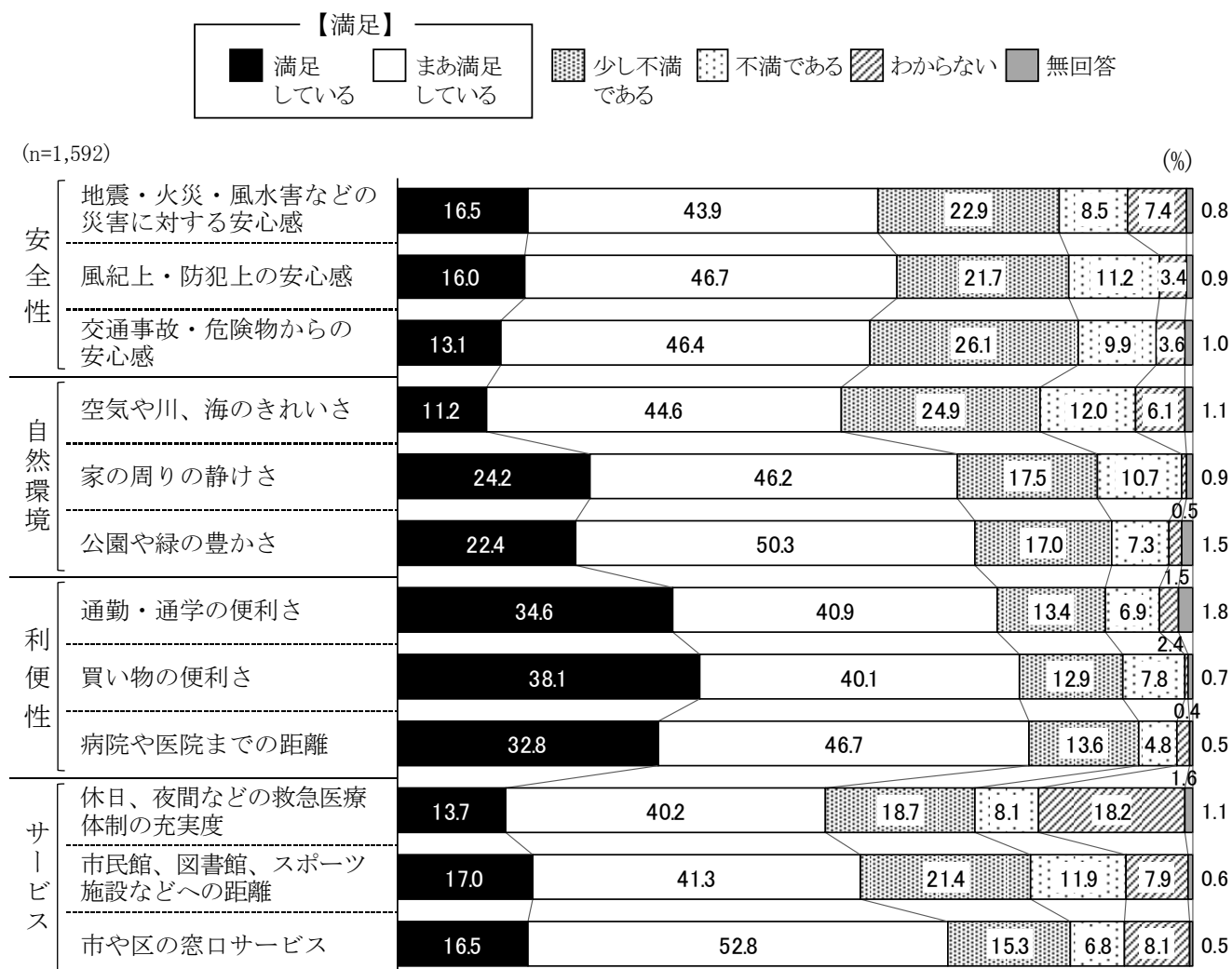
2.2 生活環境の評価について

(1) 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「病院や医院までの距離」(79.5%)、「買い物の便利さ」(78.1%)、「通勤・通学の便利さ」(75.5%)、いずれも7割台後半となっている。一方で、『サービス』の項目は3項目中「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」(58.2%)と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(53.9%)の2項目で【満足】が5割台となっている。

【図表 74】生活環境の満足度

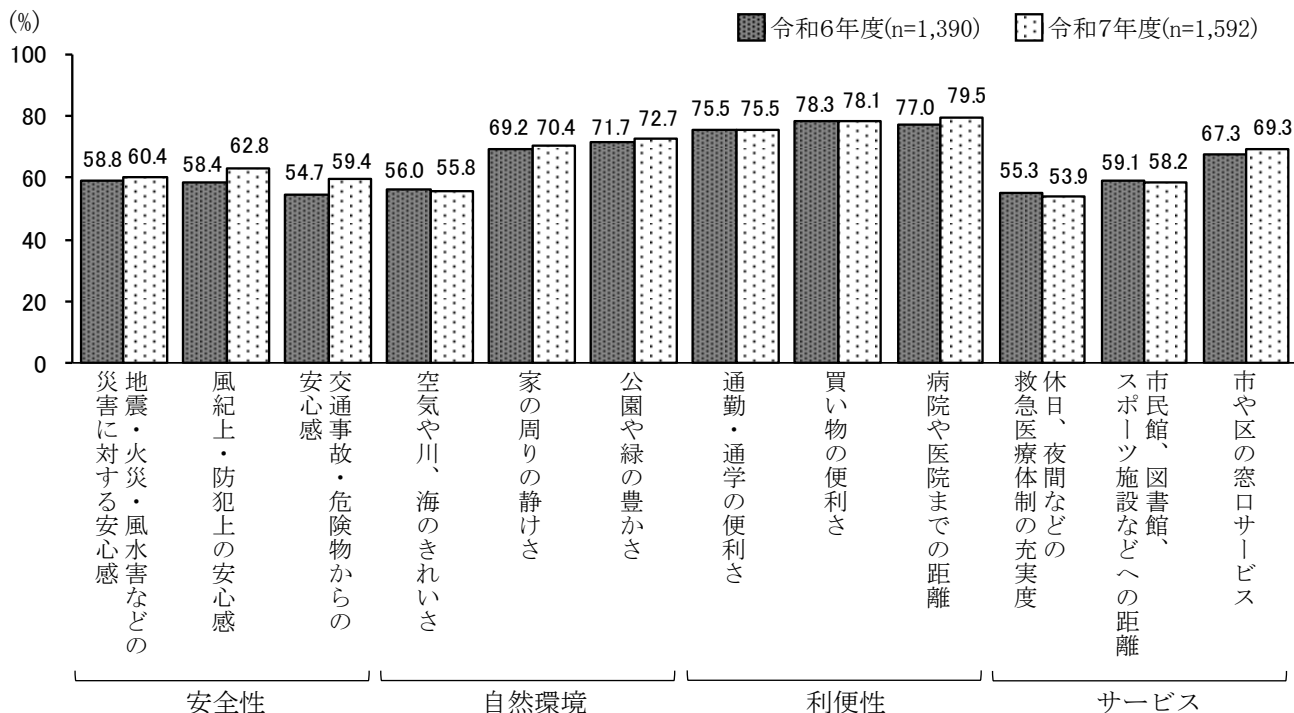


昨年度(令和6年度)と比較すると、【満足】は「交通事故・危険物からの安心感」が4.7ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」が4.4ポイント高くなっている。

【図表 75】生活環境の満足度(経年比較)

※【満足】(「満足している」と「まあ満足している」の合計)で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
令和2年度(n=1,653)	54.9	60.7	58.2	54.2	68.6	69.4	75.3	78.0	78.2	54.1	55.2	65.3
令和3年度(n=1,600)	56.1	60.0	56.3	54.6	71.1	69.4	75.1	78.1	79.2	52.3	56.0	64.3
令和4年度(n=1,556)	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4
令和5年度(n=1,491)	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5
令和6年度(n=1,390)	58.8	58.4	54.7	56.0	69.2	71.7	75.5	78.3	77.0	55.3	59.1	67.3
令和7年度(n=1,592)	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3



性／年齢別に見ると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」、「風紀上・防犯上の安心感」、「交通事故・危険物からの安心感」、「空気や川、海のきれいさ」は男女ともに70歳以上の満足度が最も高く、「通勤・通学の便利さ」、「市や区の窓口サービス」は男女ともに30～39歳の満足度が最も高かった。また、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は男女ともに18～29歳の満足度が最も高くなっている。

【図表 76】生活環境の満足度（【満足】回答者、性／年齢別）

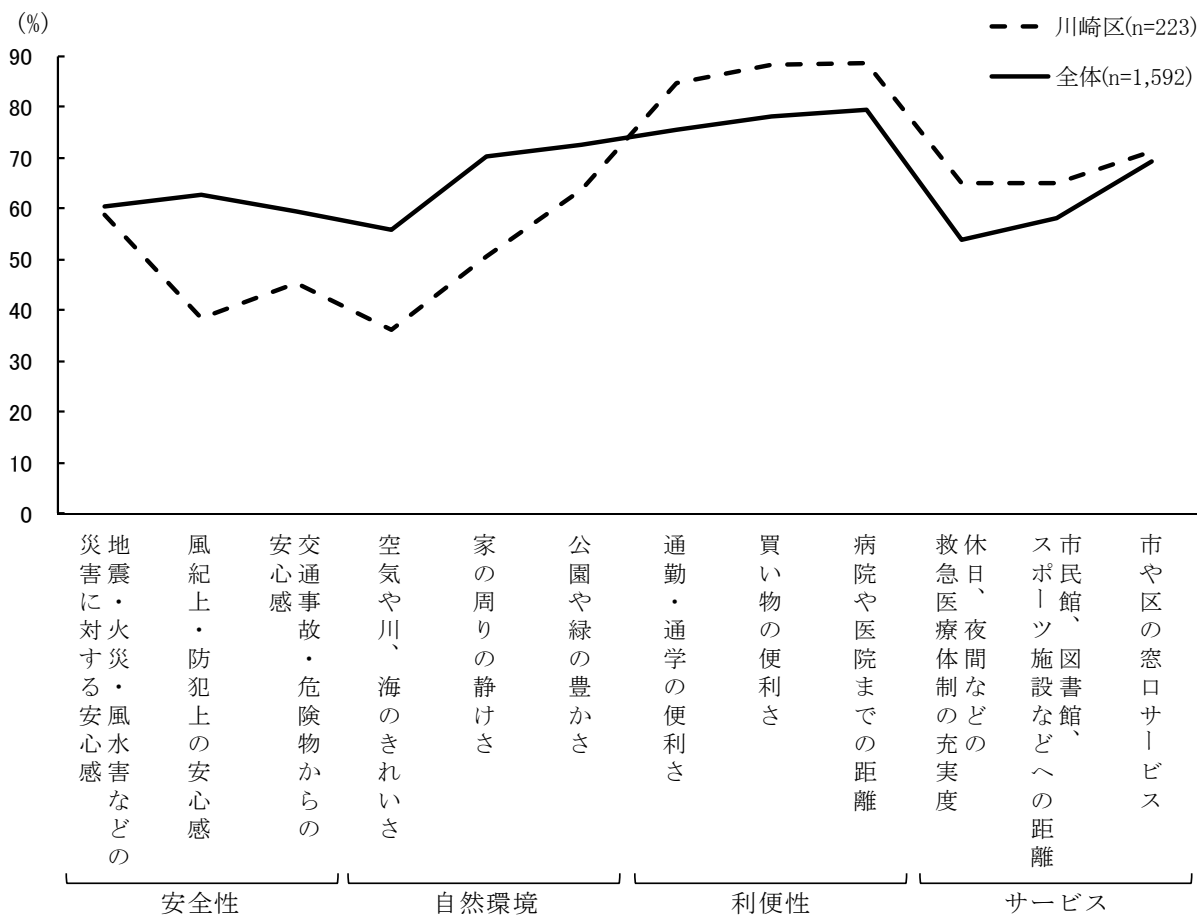
	(%)							
	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(749)	(90)	(90)	(149)	(183)	(113)	(117)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	60.4	63.3	65.6	60.0	54.4	63.4	66.4	74.4
風紀上・防犯上の安心感	62.8	64.0	66.7	52.2	58.4	62.3	70.8	76.9
交通事故・危険物からの安心感	59.4	60.2	65.6	50.0	53.0	57.9	63.7	75.2
空気や川、海のきれいさ	55.8	59.5	63.3	48.9	51.7	59.0	68.1	70.1
家の周りの静けさ	70.4	71.2	70.0	68.9	72.5	73.2	72.6	69.2
公園や緑の豊かさ	72.7	72.5	76.7	77.8	74.5	71.0	71.7	68.4
通勤・通学の便利さ	75.5	75.0	78.9	86.7	80.5	69.4	72.6	68.4
買い物の便利さ	78.1	78.4	84.4	87.8	82.6	75.4	70.8	75.2
病院や医院までの距離	79.5	78.8	85.6	87.8	79.9	74.9	75.2	76.9
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	53.9	55.9	50.0	53.3	54.4	53.0	60.2	66.7
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	58.2	58.5	68.9	65.6	63.8	50.3	54.0	59.0
市や区の窓口サービス	69.3	70.6	73.3	80.0	66.4	67.8	67.3	75.2

	(%)							
	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(798)	(96)	(113)	(164)	(164)	(140)	(115)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	60.4	58.6	63.5	56.6	59.8	52.4	57.9	66.1
風紀上・防犯上の安心感	62.8	61.9	61.5	57.5	59.8	57.9	66.4	70.4
交通事故・危険物からの安心感	59.4	59.4	59.4	53.1	54.3	57.3	62.1	72.2
空気や川、海のきれいさ	55.8	53.1	53.1	50.4	42.7	48.8	63.6	65.2
家の周りの静けさ	70.4	70.1	66.7	74.3	72.0	66.5	68.6	71.3
公園や緑の豊かさ	72.7	73.6	75.0	71.7	73.2	75.0	70.7	76.5
通勤・通学の便利さ	75.5	75.8	78.1	87.6	79.9	75.0	70.0	66.1
買い物の便利さ	78.1	77.9	80.2	80.5	86.0	76.2	69.3	75.7
病院や医院までの距離	79.5	80.2	85.4	85.0	82.3	80.5	74.3	75.7
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	53.9	52.3	52.1	56.6	50.6	49.4	55.0	52.2
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	58.2	58.1	65.6	60.2	62.8	55.5	53.6	52.2
市や区の窓口サービス	69.3	68.7	76.0	77.9	68.3	63.4	66.4	66.1

川崎区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は11.1ポイント、「買い物の便利さ」は10.2ポイント、「通勤・通学の便利さ」と「病院や医院までの距離」は9.3ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.8ポイント上回った。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「風紀上・防犯上の安心感」は24.2ポイント、「家の周りの静けさ」は19.7ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は19.5ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は14.1ポイント、「公園や緑の豊かさ」は9.0ポイント下回った。

【図表 77】生活環境の満足度（【満足】回答者、川崎区）

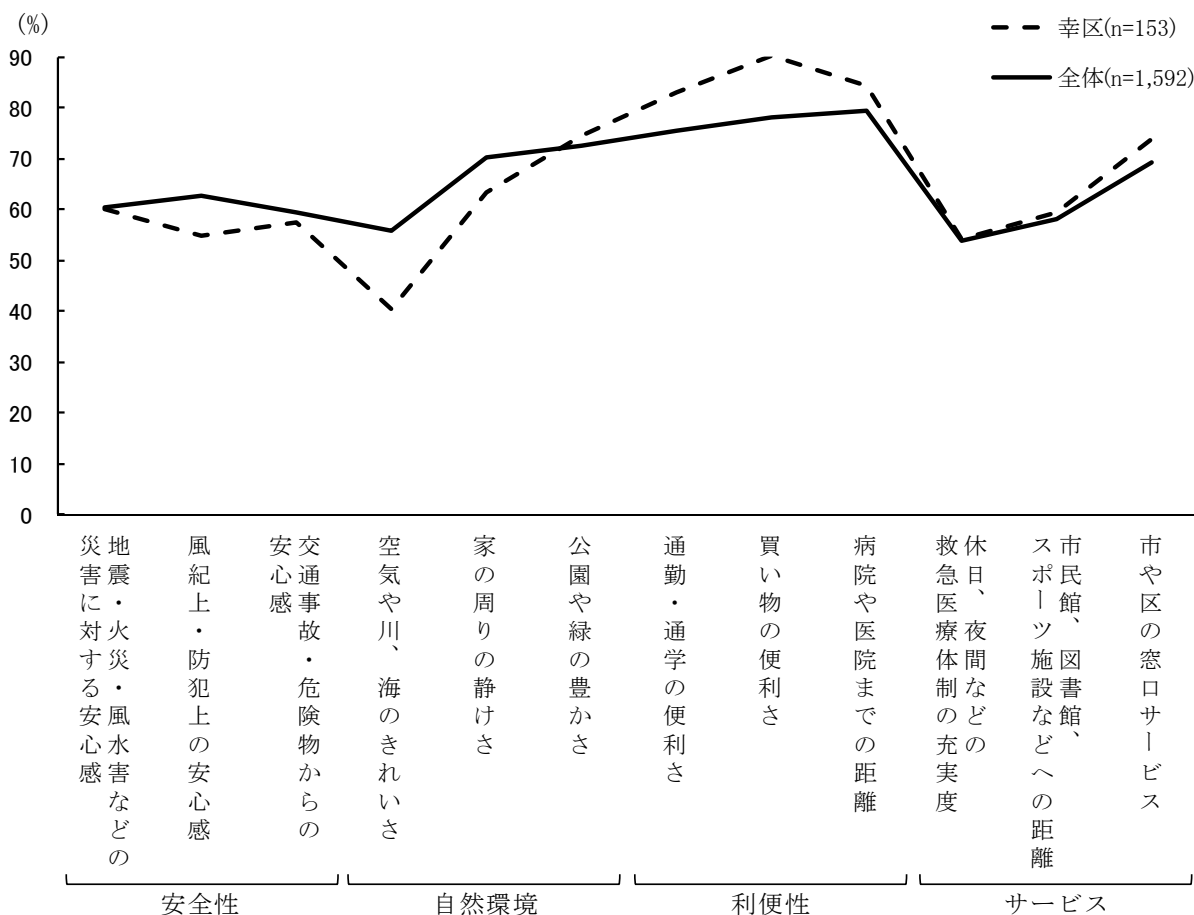


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
川崎区	58.7	38.6	45.3	36.3	50.7	63.7	84.8	88.3	88.8	65.0	65.0	71.3	
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	

幸区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「買い物の便利さ」は12.1ポイント、「通勤・通学の便利さ」は7.5ポイント上回った。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「空気や川、海のきれいさ」は15.3ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は7.9ポイント、「家の周りの静けさ」は7.0ポイント下回った。『サービス』では特に目立った点は見られなかった。

【図表 78】生活環境の満足度（【満足】回答者、幸区）

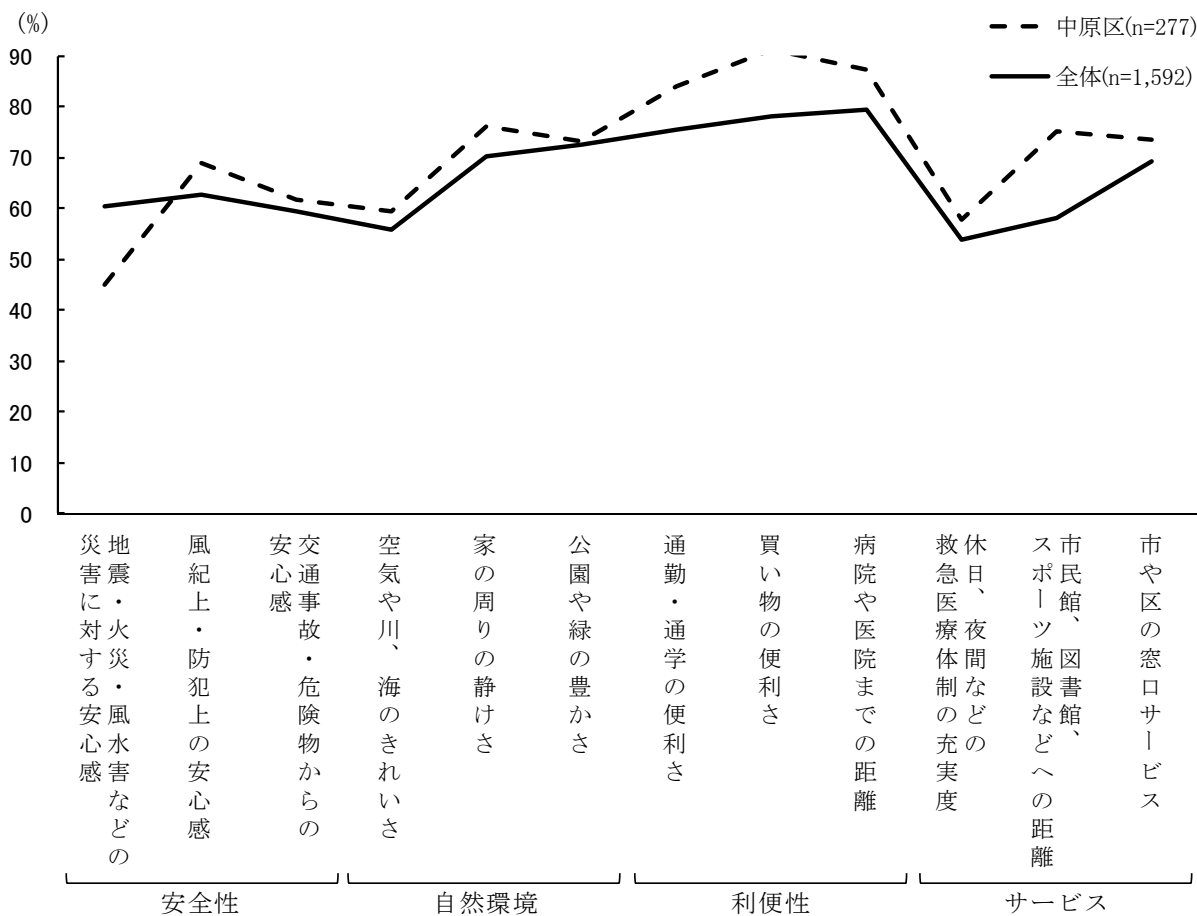


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
幸区	60.1	54.9	57.5	40.5	63.4	74.5	83.0	90.2	84.3	54.2	59.5	73.9	
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	

中原区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は16.9ポイント、「買い物の便利さ」は13.2ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.6ポイント、「病院や医院までの距離」は7.9ポイント、「家の周りの静けさ」が5.8ポイント上回った。

『安全性』の項目は、市全体の満足度と比較して「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が15.3ポイント下回り、「風紀上・防犯上の安心感」が6.2ポイント上回った。

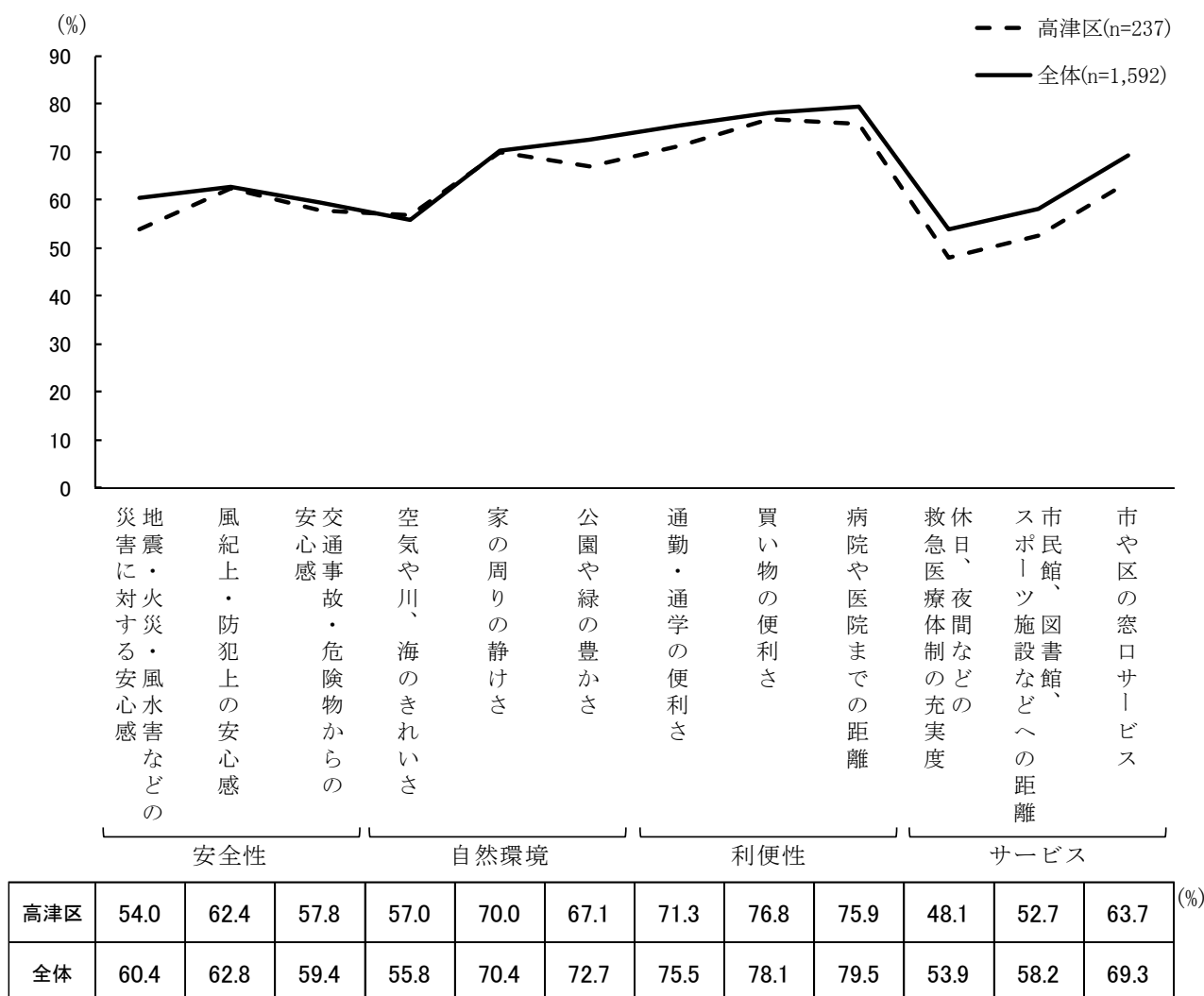
【図表 79】生活環境の満足度（【満足】回答者、中原区）



	安全性		自然環境			利便性			サービス			(%)	
中原区	45.1	69.0	61.7	59.6	76.2	73.3	84.1	91.3	87.4	57.8	75.1	73.6	
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	

高津区と市全体の満足度を比較すると、すべての項目において市全体の満足度と同水準か下回っており、『安全性』の項目は「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が6.4ポイント下回り、『自然環境』の項目は「公園や緑の豊かさ」が5.6ポイント下回った。また、『サービス』の項目は3項目とも市の満足度を5ポイント程度下回り、『利便性』では特に目立った点は見られなかった。

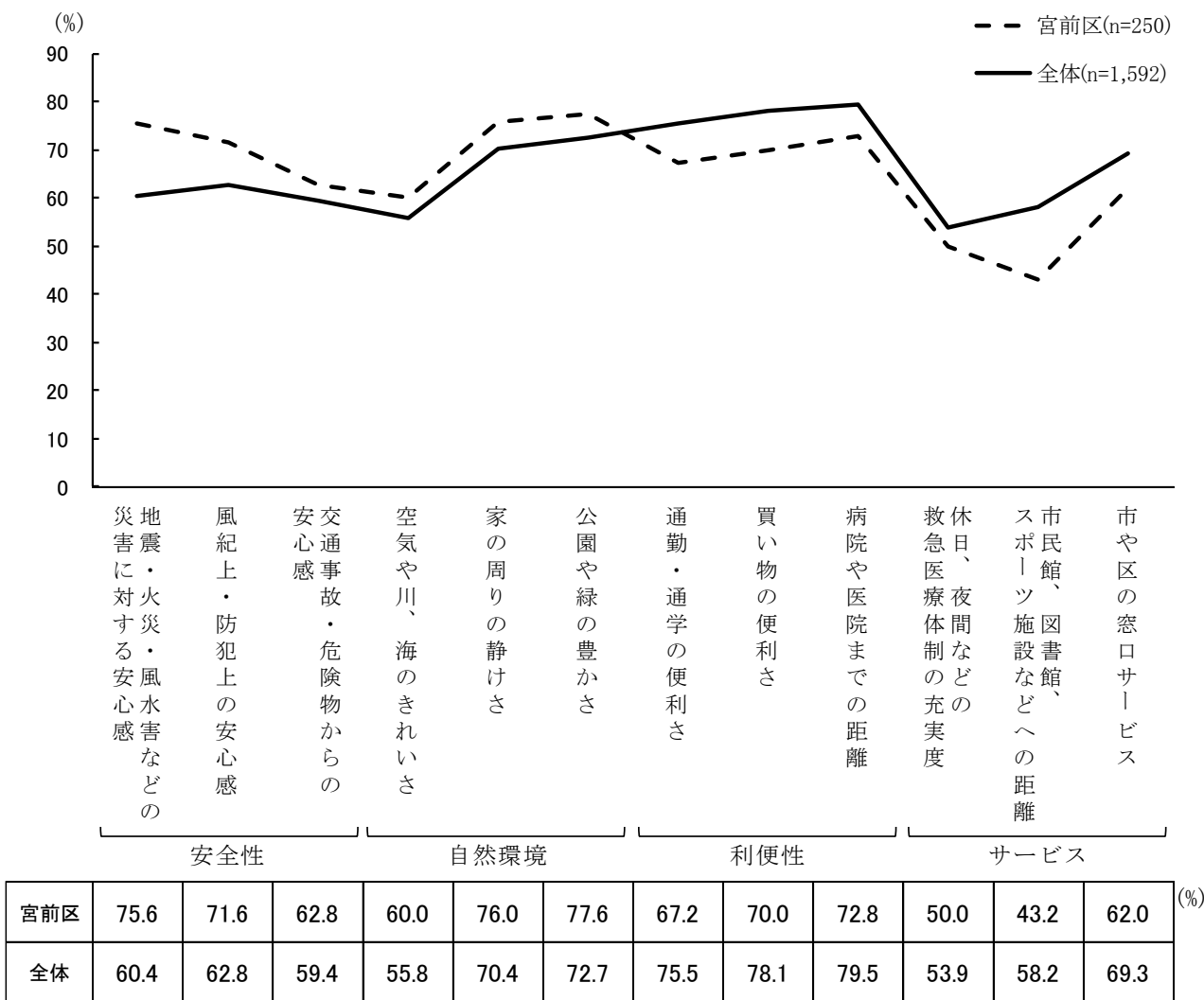
【図表 80】生活環境の満足度（【満足】回答者、高津区）



宮前区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っており、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は15.2ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は8.8ポイント、「家の周りの静けさ」は5.6ポイント上回った。

一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は15.0ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.3ポイント、「買い物の便利さ」は8.1ポイント、「市や区の窓口サービス」は7.3ポイント、「病院や医院までの距離」は6.7ポイント下回った。

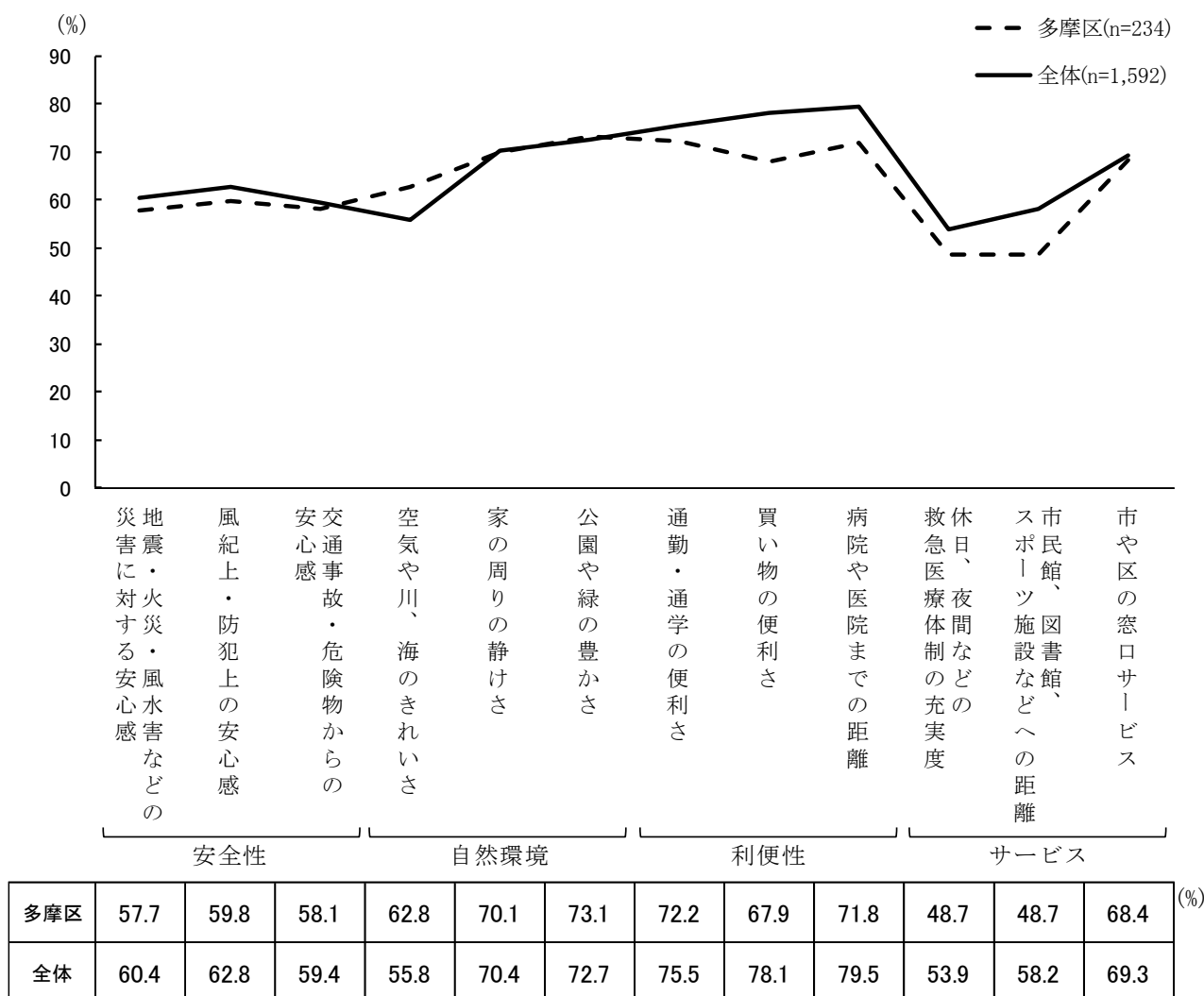
【図表 81】生活環境の満足度（【満足】回答者、宮前区）



多摩区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』では「空気や川、海のきれいさ」が7.0ポイント上回り、その他の項目は市全体の満足度と同水準であった。

一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「買い物の便利さ」は10.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.5ポイント、「病院や医院までの距離」は7.7ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は5.2ポイント下回った。『安全性』では特に目立った点は見られなかった。

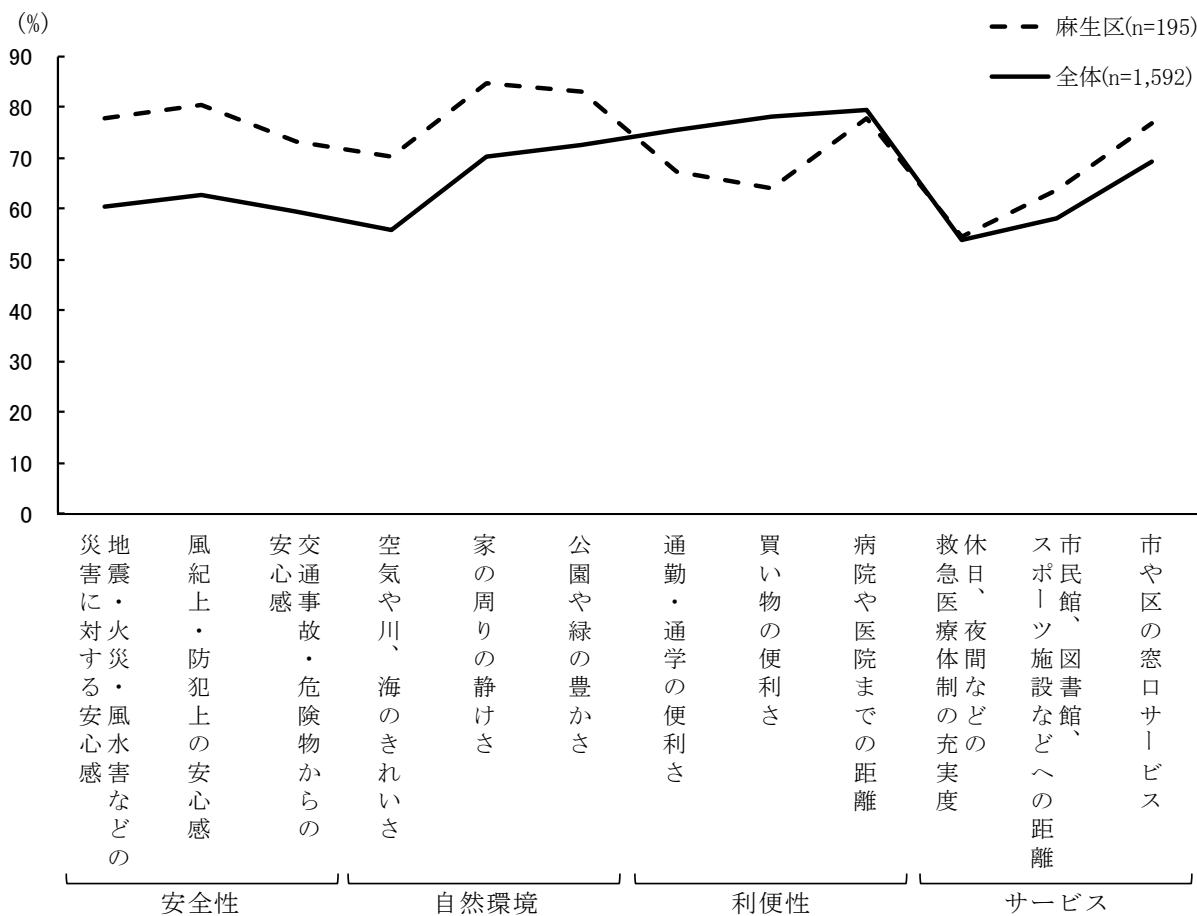
【図表 82】生活環境の満足度（【満足】回答者、多摩区）



麻生区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を10ポイント以上上回っている。また、『サービス』の項目も市全体の満足度と同水準か上回っており、「市や区の窓口サービス」は7.6ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は5.4ポイント上回った。

一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「買い物の便利さ」は14.0ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.3ポイント下回った。

【図表 83】生活環境の満足度（【満足】回答者、麻生区）



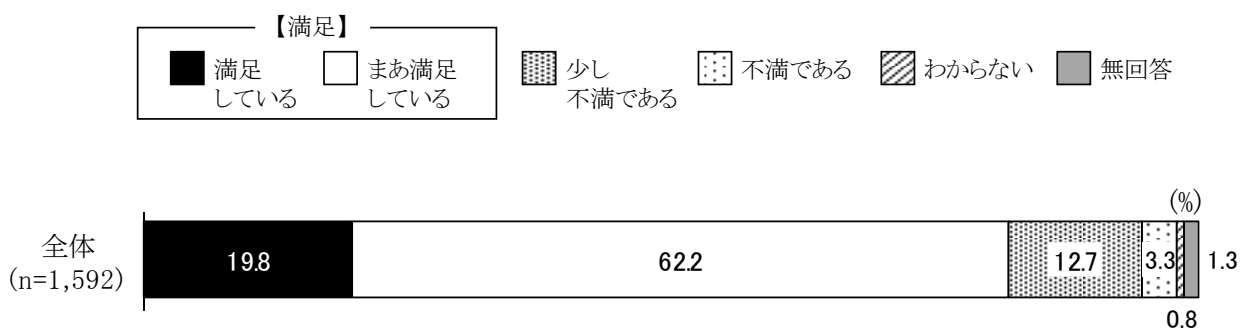
	安全性			自然環境			利便性			サービス			
麻生区	77.9	80.5	73.3	70.3	84.6	83.1	67.2	64.1	77.9	54.4	63.6	76.9	76.9
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	69.3

(2) 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

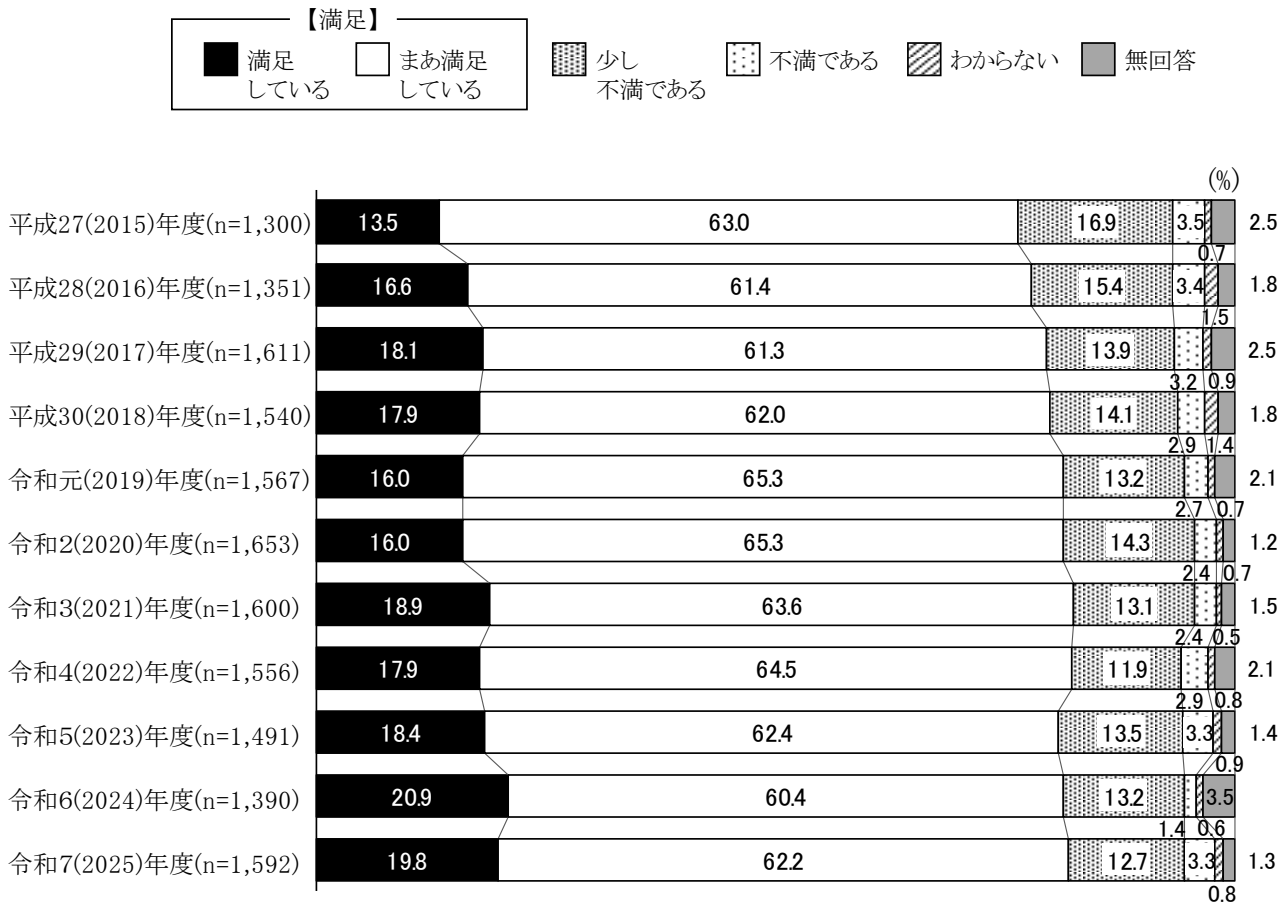
「満足している」(19.8%)と「まあ満足している」(62.2%)を合計した【満足】は82.0%であった。

【図表 84】総合的な生活環境の満足度



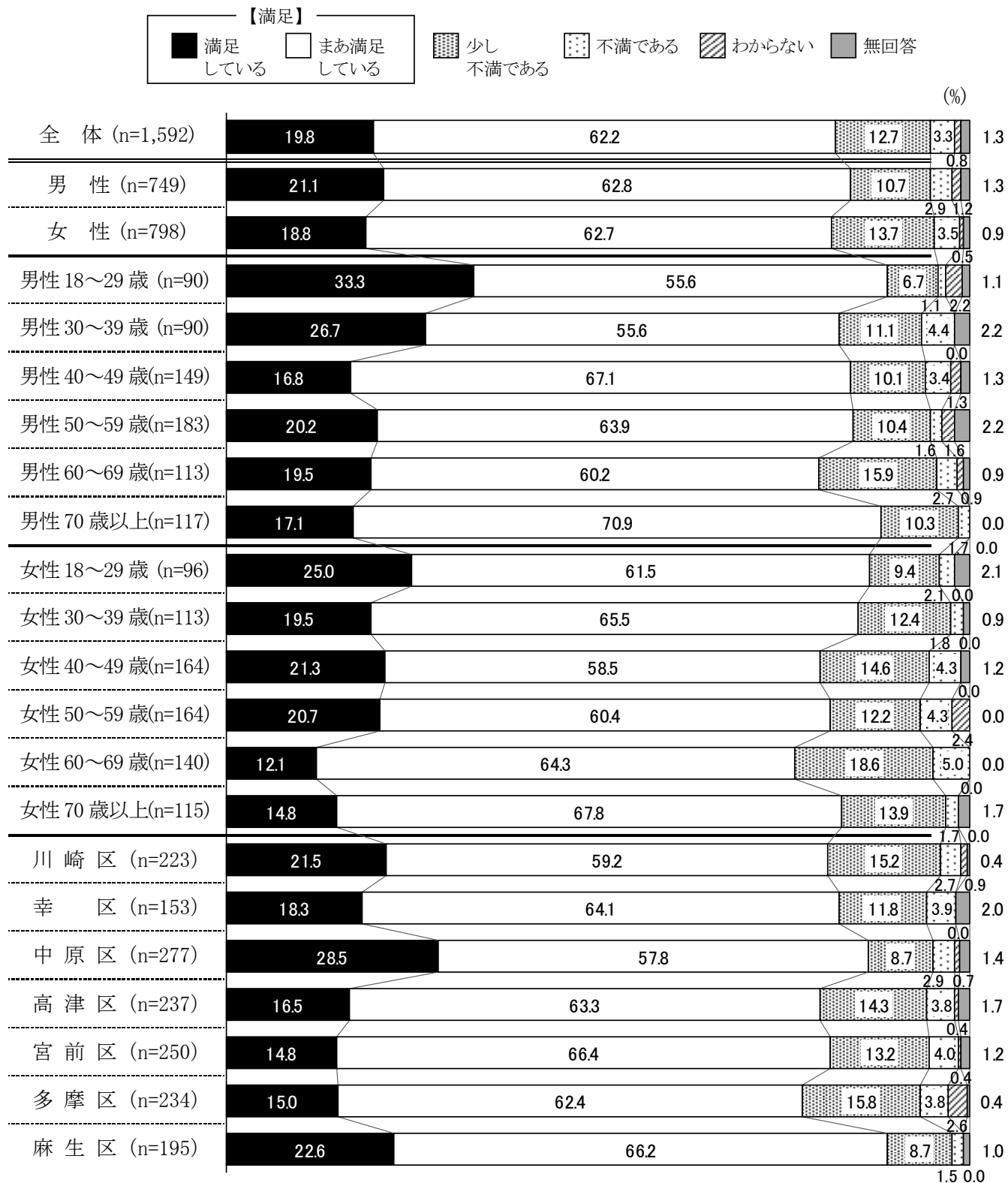
過去の推移では、【満足】は令和元（2019）年度以降8割台前半で推移しているが、10年前（平成27年度）と比較すると5.5ポイントの増加となっている。

【図表 85】総合的な生活環境の満足度（経年比較）



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男女ともに18～29歳が最も高く、60～69歳が最も低い。居住区別では、【満足】の割合は「麻生区」(88.7%)が最も高く、「多摩区」(77.4%)が最も低い。

【図表 86】総合的な生活環境の満足度（性別、性／年齢別、居住区別）



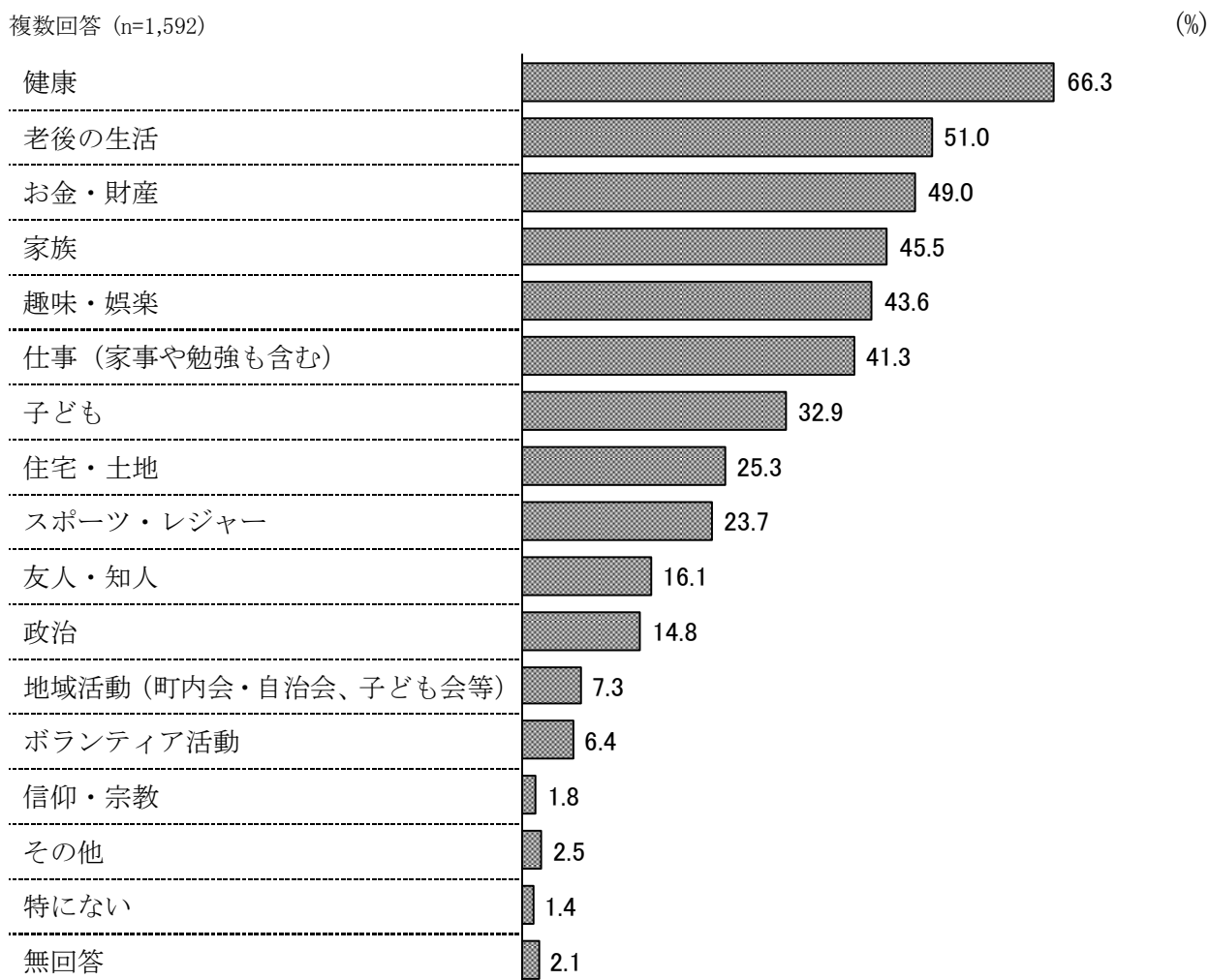
2.3 関心ごとと行動範囲について

(1) 関心を持っていること

問7. あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。

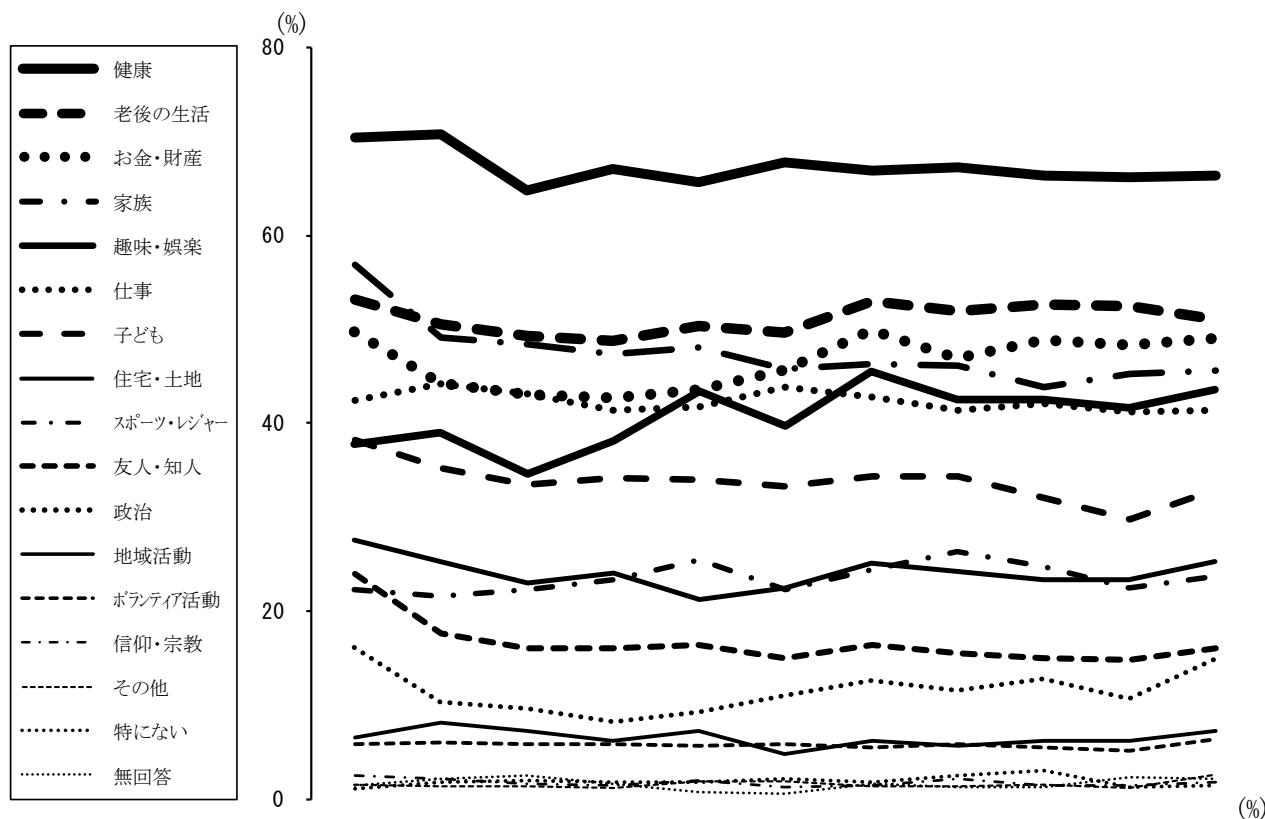
現在特に関心を持っていることを選んでもらったところ、「健康」が66.3%で最も高く、次いで「老後の生活」(51.0%)、「お金・財産」(49.0%)と続いている。

【図表 87】 関心を持っていること (複数回答)



平成27(2015)年度からの推移を見ると、「健康」は常に2位以下を10ポイント以上上回って最も高く、令和3(2021)年度以降、「健康」、「老後の生活」、「お金・財産」が上位3位を占めている。

【図表 88】 関心を持っていること（複数回答）
（経年比較）



	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年
健康	70.4	70.8	64.8	67.1	65.7	67.8	66.9	67.2	66.3	66.1	66.3
老後の生活	53.1	50.5	49.2	48.8	50.3	49.7	52.9	51.9	52.6	52.4	51.0
お金・財産	49.8	44.3	43.1	42.6	43.5	45.7	49.9	46.9	48.8	48.3	49.0
家族	56.9	49.1	48.4	47.3	48.0	45.8	46.3	46.1	43.8	45.2	45.5
趣味・娯楽	37.7	39.0	34.6	38.1	43.4	39.7	45.5	42.5	42.5	41.7	43.6
仕事	42.5	44.1	43.2	41.3	41.7	43.9	42.7	41.4	42.1	41.2	41.3
子ども	38.2	35.2	33.5	34.2	34.0	33.2	34.3	34.4	32.0	29.7	32.9
住宅・土地	27.5	25.2	22.9	24.0	21.3	22.5	25.1	24.2	23.3	23.3	25.3
スポーツ・レジャー	22.2	21.5	22.2	23.4	25.5	22.2	24.4	26.4	24.7	22.4	23.7
友人・知人	24.0	17.6	16.0	16.0	16.3	14.9	16.3	15.5	15.0	14.8	16.1
政治	16.2	10.3	9.6	8.2	9.3	11.1	12.6	11.6	12.8	10.7	14.8
地域活動	6.6	8.1	7.3	6.2	7.2	4.8	6.2	5.7	6.2	6.2	7.3
ボランティア活動	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.5	5.8	5.4	5.1	6.4
信仰・宗教	2.5	2.1	1.6	1.4	1.9	1.3	1.4	2.1	1.5	1.4	1.8
その他	1.5	1.3	1.4	1.2	1.9	1.8	1.4	1.3	1.5	1.2	2.5
特にない	1.0	1.7	1.9	1.8	1.8	2.1	1.8	2.4	3.0	1.3	1.4
無回答	1.4	2.1	2.4	1.6	0.8	0.6	1.6	1.3	1.2	2.3	2.1

性／年齢別に見ると、「健康」は男性の60歳代以上、女性の50歳代以上が7割を超え、「老後の生活」は男女ともに50歳代以上が6割を超えている。また、「お金・財産」は男性30～39歳、女性18～29歳が6割を超えて高くなっている。

【図表 89】 関心を持っていること（複数回答）（性／年齢別）

（%）

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(749)	(90)	(90)	(149)	(183)	(113)	(117)
健康	66.3	62.9	36.7	55.6	56.4	65.0	76.1	82.1
老後の生活	51.0	48.9	12.2	22.2	35.6	62.3	77.0	66.7
お金・財産	49.0	49.1	48.9	60.0	55.7	49.2	45.1	37.6
家族	45.5	45.0	28.9	57.8	55.0	45.9	36.3	42.7
趣味・娯楽	43.6	43.4	62.2	50.0	48.3	38.8	36.3	33.3
仕事(家事や勉強も含む)	41.3	39.4	48.9	51.1	51.7	48.1	29.2	5.1
子ども	32.9	31.4	15.6	50.0	55.0	29.5	16.8	15.4
住宅・土地	25.3	26.7	26.7	36.7	35.6	23.5	20.4	17.9
スポーツ・レジャー	23.7	27.9	40.0	26.7	36.9	25.7	20.4	19.7
友人・知人	16.1	15.6	31.1	26.7	12.8	8.2	14.2	12.8
政治	14.8	17.2	14.4	12.2	22.8	15.8	17.7	17.1
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	7.3	8.9	6.7	8.9	9.4	6.0	7.1	17.1
ボランティア活動	6.4	6.4	8.9	4.4	3.4	7.1	6.2	9.4
信仰・宗教	1.8	1.6	2.2	4.4	1.3	0.0	1.8	0.9
その他	2.5	2.3	2.2	1.1	0.7	3.3	3.5	2.6
特にない	1.4	1.1	2.2	0.0	1.3	0.5	0.9	0.9
無回答	2.1	2.3	0.0	1.1	3.4	2.7	0.9	4.3

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(798)	(96)	(113)	(164)	(164)	(140)	(115)
健康	66.3	69.8	38.5	54.0	67.7	76.2	85.0	85.2
老後の生活	51.0	53.3	10.4	24.8	43.9	76.2	72.9	73.9
お金・財産	49.0	49.0	63.5	52.2	53.0	49.4	45.0	31.3
家族	45.5	46.6	37.5	51.3	49.4	50.6	41.4	45.2
趣味・娯楽	43.6	44.0	61.5	40.7	48.2	43.9	38.6	33.9
仕事(家事や勉強も含む)	41.3	42.7	58.3	47.8	56.1	47.0	29.3	14.8
子ども	32.9	34.6	21.9	62.8	60.4	26.8	14.3	15.7
住宅・土地	25.3	23.9	17.7	35.4	25.6	26.8	19.3	13.9
スポーツ・レジャー	23.7	19.4	20.8	17.7	25.6	21.3	18.6	9.6
友人・知人	16.1	16.0	17.7	16.8	15.9	15.9	13.6	17.4
政治	14.8	12.0	10.4	6.2	10.4	11.6	10.7	20.9
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	7.3	5.9	3.1	4.4	10.4	3.0	5.0	8.7
ボランティア活動	6.4	6.3	3.1	2.7	6.1	9.1	6.4	8.7
信仰・宗教	1.8	2.0	2.1	0.9	0.6	3.0	2.1	3.5
その他	2.5	2.8	2.1	3.5	3.0	2.4	2.9	1.7
特にない	1.4	1.8	1.0	0.0	2.4	1.8	2.9	1.7
無回答	2.1	1.8	2.1	1.8	0.6	1.8	0.7	4.3

(2) 行動範囲

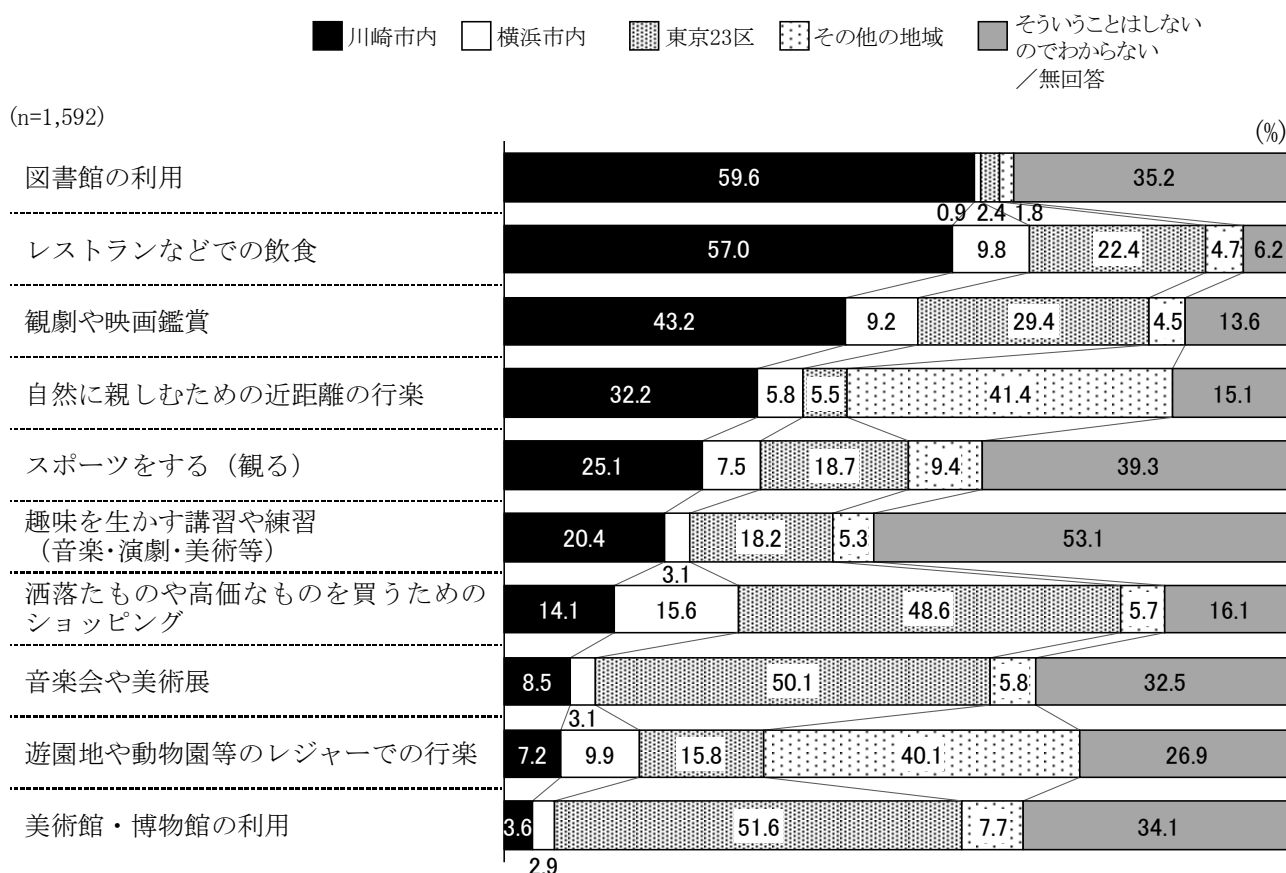
問8. あなたは、行楽や文化施設の利用・買い物などをされる場合、主にどこに行かれますか。それぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

川崎市民の行動範囲で『川崎市内』の割合が最も高いのは「図書館の利用」(59.6%)であり、次いで「レストランなどでの飲食」(57.0%)、「観劇や映画鑑賞」(43.2%)と続いている。

『川崎市内』以外で利用率が最も高いのは、『東京23区』の「美術館・博物館の利用」(51.6%)であり、次いで「音楽会や美術展」(50.1%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(48.6%)が続いている。

上記以外については、「自然に親しむための近距離の行楽」と「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『その他の地域』がそれぞれ41.4%、40.1%と最も高く、「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」と「スポーツをする(観る)」は『そういうことはしないのでわからない/無回答』がそれぞれ53.1%、39.3%と最も高かった。

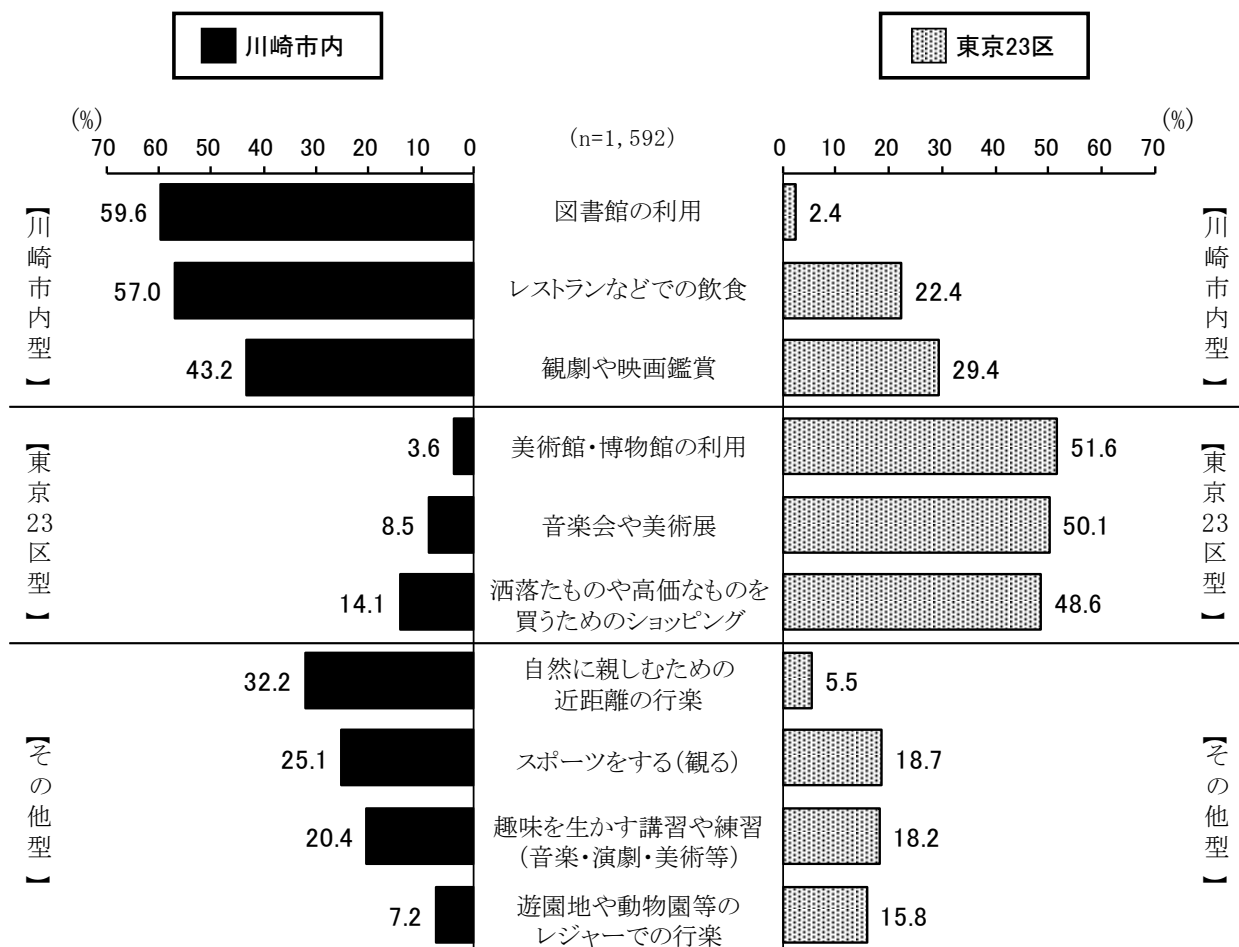
【図表 90】 行動範囲



109ページの【図表 90】をもとに、川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が高いもの、『東京23区』が高いもの、この2つ以外のエリアが高いものの3種類で整理すると次のようになる。

- 【川崎市内型】 図書館の利用
レストランなどでの飲食
観劇や映画鑑賞
- 【東京23区型】 美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
- 【その他型】 自然に親しむための近距離の行楽
スポーツをする(観る)
趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)
遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

【図表 91】行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較)

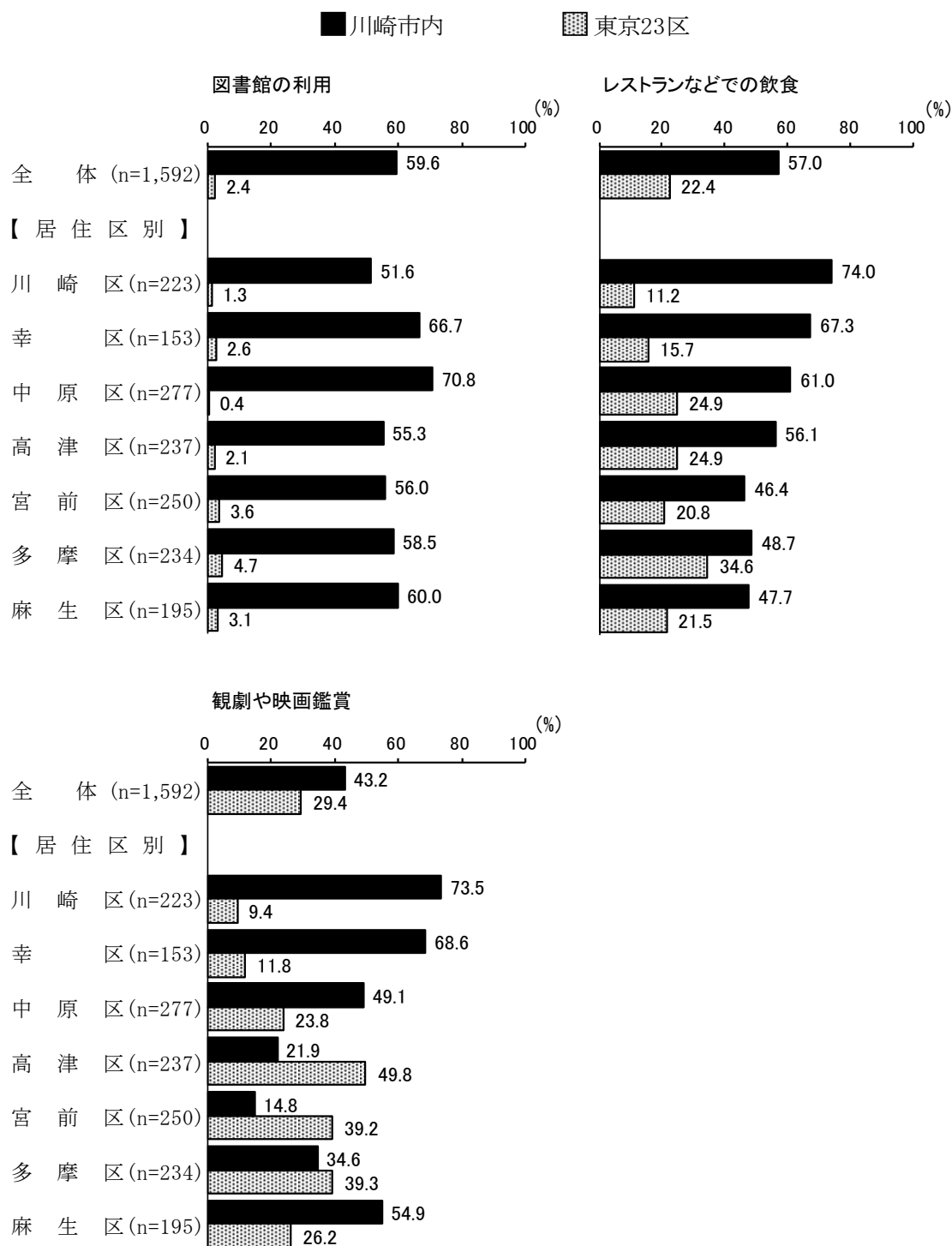


【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「図書館の利用」は『川崎市内』での利用率は「中原区」(70.8%)が最も高く、『東京23区』での利用率は最も高い「多摩区」でも4.7%に留まった。

「レストランなどでの飲食」は『川崎市内』での利用率は「川崎区」(74.0%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「多摩区」(34.6%)が最も高い。

「観劇や映画鑑賞」は『川崎市内』での利用率は「川崎区」(73.5%)が最も高く、「高津区」、「宮前区」、「多摩区」では、『川崎市内』よりも『東京23区』の利用率の方が高かった。

【図表 92】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別）【川崎市内型】

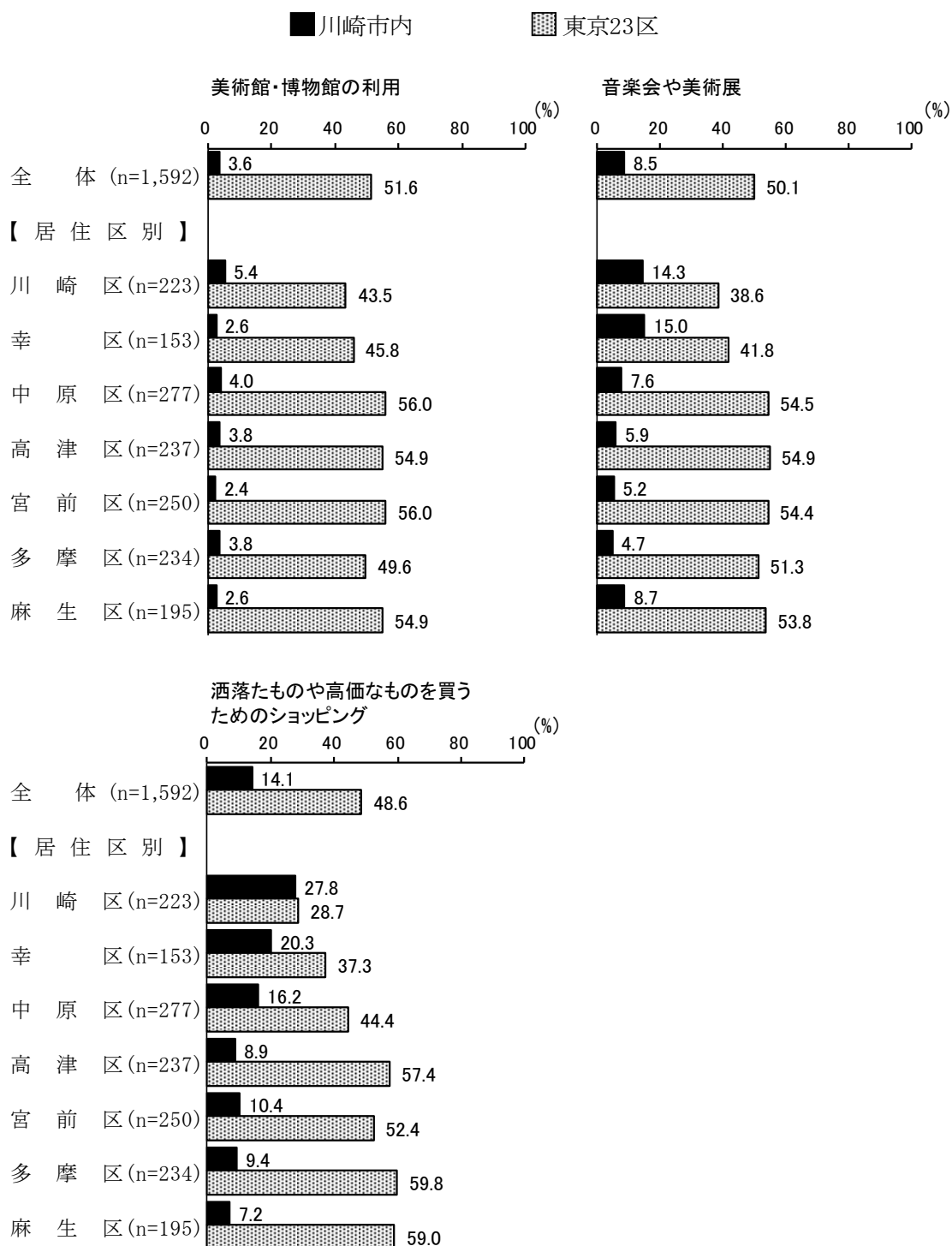


【東京23区型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は『東京23区』での利用率は「中原区」(56.0%)、「宮前区」(56.0%)、「高津区」(54.9%)、「麻生区」(54.9%)で5割を超え、『川崎市内』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「音楽会や美術展」は、『東京23区』での利用率は「川崎区」(38.6%)と「幸区」(41.8%)を除いた居住区で5割を超え、『川崎市内』での利用率は「幸区」(15.0%)が最も高い。

「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は『東京23区』での利用率は「多摩区」(59.8%)が最も高く、『川崎市内』での利用率は「川崎区」(27.8%)が最も高い。

【図表 93】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別【東京23区型】



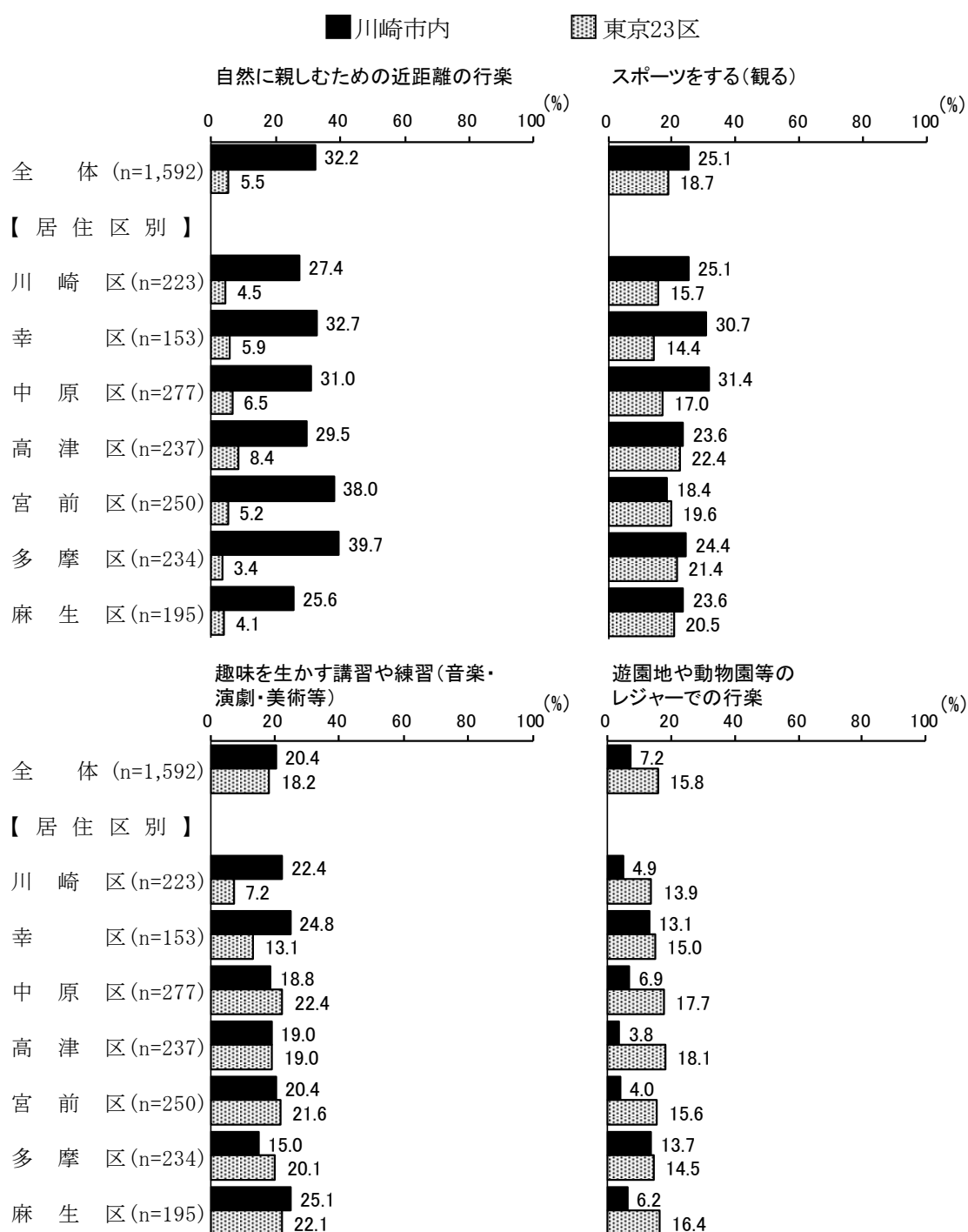
【川崎市内型】と【東京23区型】に分類されない『その他の地域』もしくは『そういうことはしないのでわからない／無回答』の回答率が高い【その他型】の4項目を居住区別で比較すると、「自然に親しむための近距離の行楽」は『川崎市内』での利用率は「多摩区」(39.7%)が最も高く、『東京23区』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「スポーツをする(観る)」は『川崎市内』での利用率は「中原区」(31.4%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「高津区」(22.4%)が最も高い。

「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は『川崎市内』での利用率は「麻生区」(25.1%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「中原区」(22.4%)が最も高い。

「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『川崎市内』での利用率は「多摩区」(13.7%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「高津区」(18.1%)が最も高い。

【図表 94】 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別)【その他型】



2.4 市政に対する評価と要望について

(1) 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

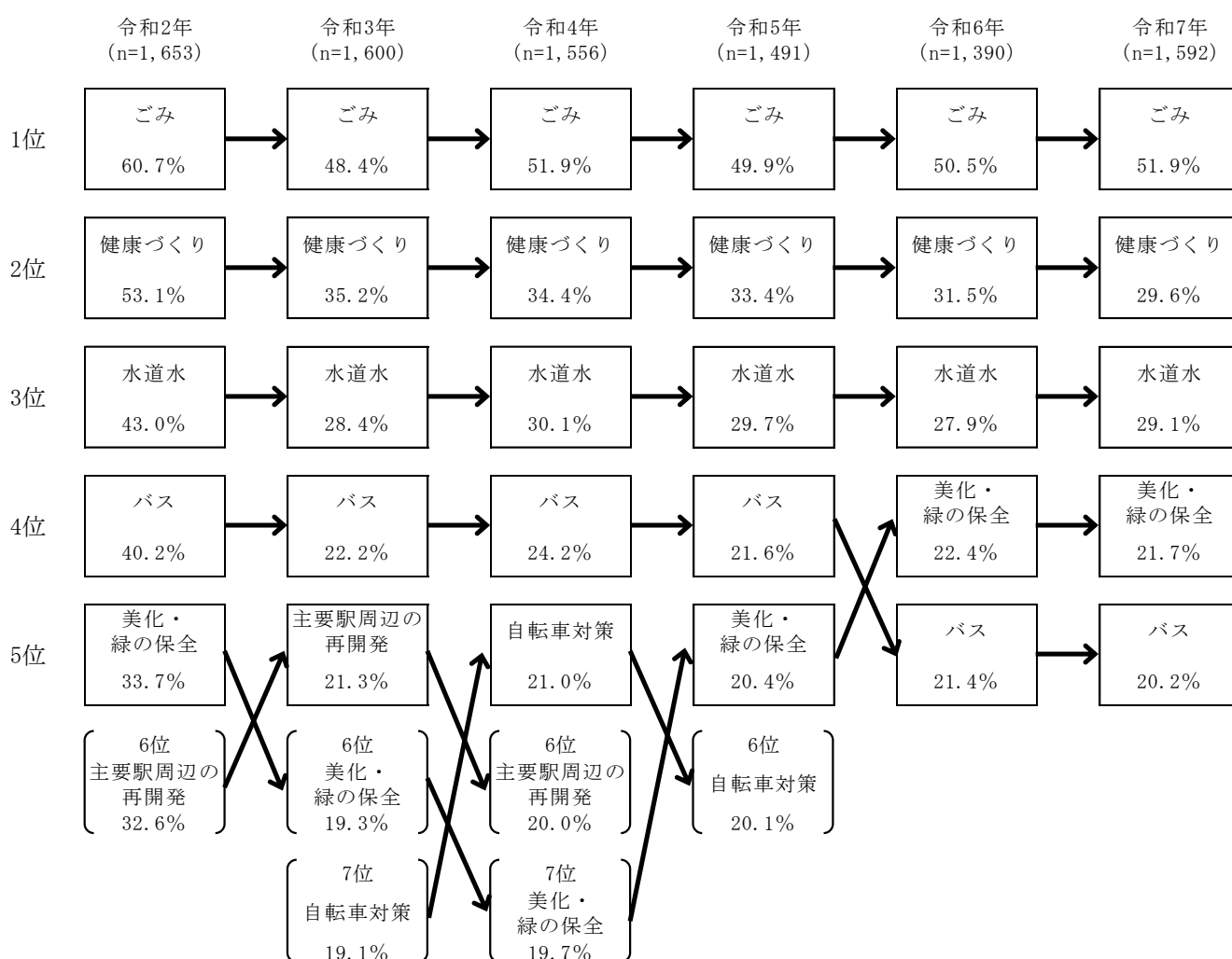
「日常のごみ収集やリサイクル」が51.9%で最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(29.6%)、「水道水の安定供給」(29.1%)と続いている。

【図表 95】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、上位3項目は令和2年度以降変わらず、1位が「日常のごみ収集やリサイクル」、2位が「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」、3位が「水道水の安定供給」となっている。令和5年度まで第4位であった「バスなどの交通網の整備」は令和6年度以降第5位となり、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」が第4位となっている。

【図表 96】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）

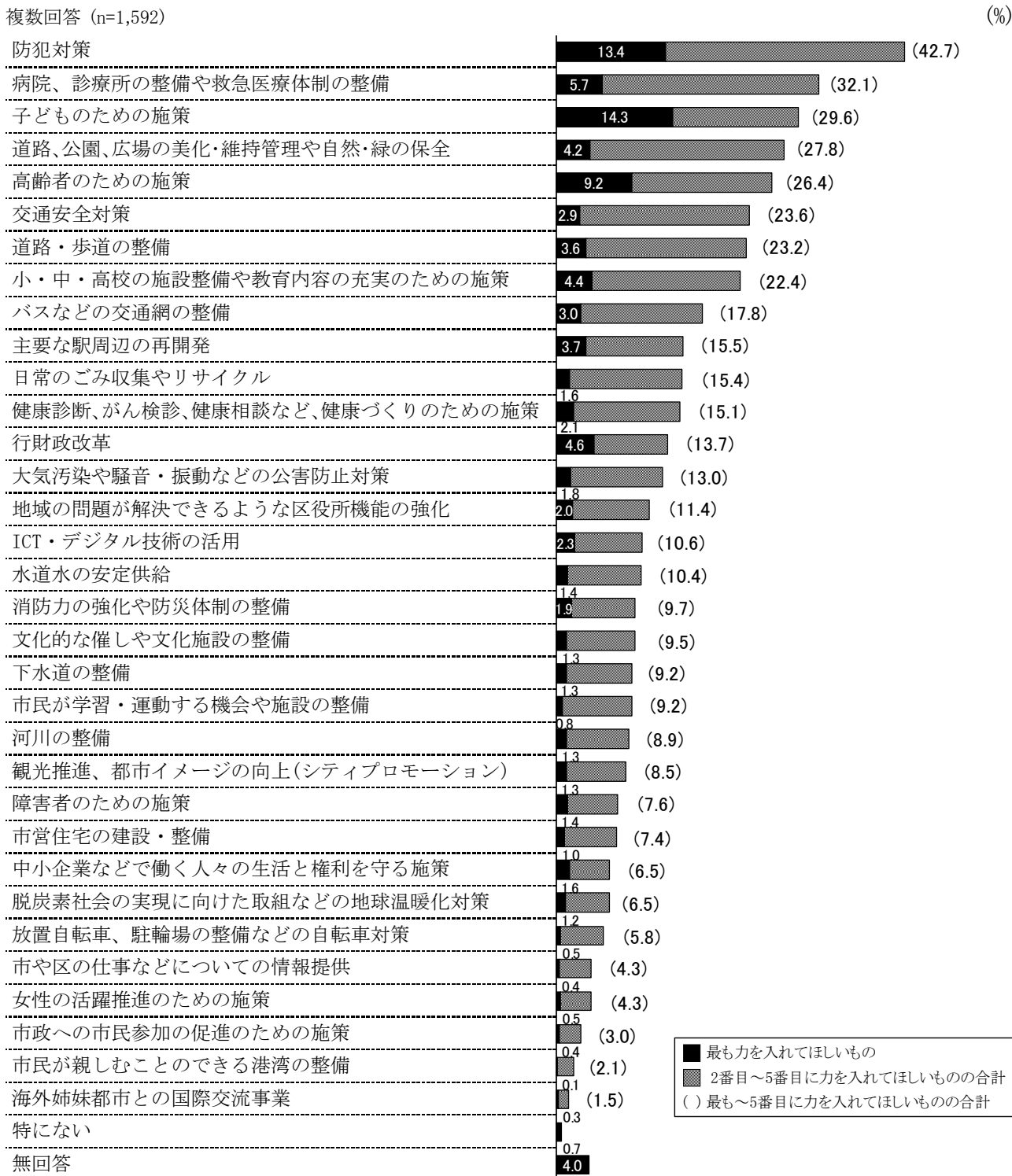


(2) 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問10. 問9の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に5つ選んでください。

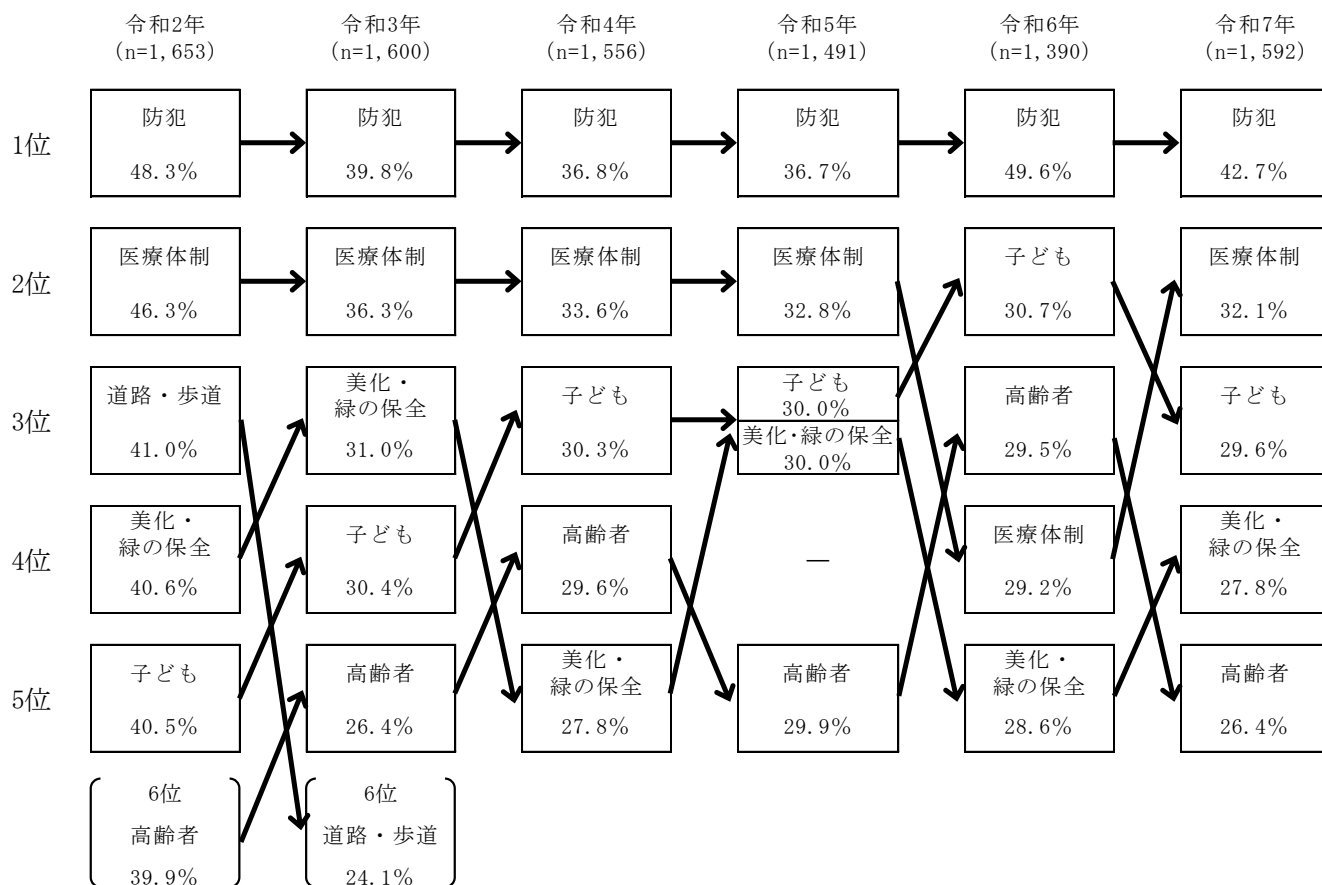
「最も力を入れてほしいもの」～「5番目に力を入れてほしいもの」の合計は、「防犯対策」が42.7%で最も高く、次いで「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.1%)、「子どものための施策」(29.6%)と続いている。なお、「最も力を入れてほしいもの」だけで見た場合は、第1位が「子どものための施策」(14.3%)、第2位が「防犯対策」(13.4%)、第3位が「高齢者のための施策」(9.2%)となっている。

【図表 97】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5項目は令和3年度以降同じ項目となっているが、今回は「医療体制」が4位から2位へ、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」が5位から4位へと順位を上げている。

【図表 98】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）



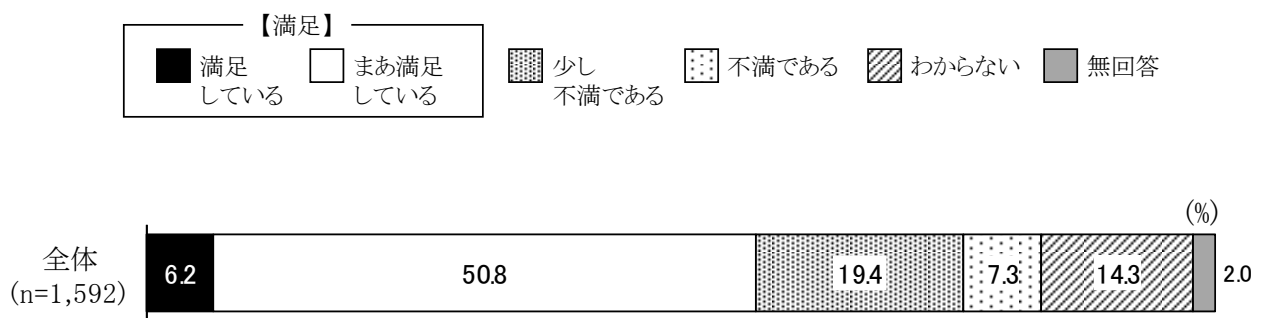
※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

(3) 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

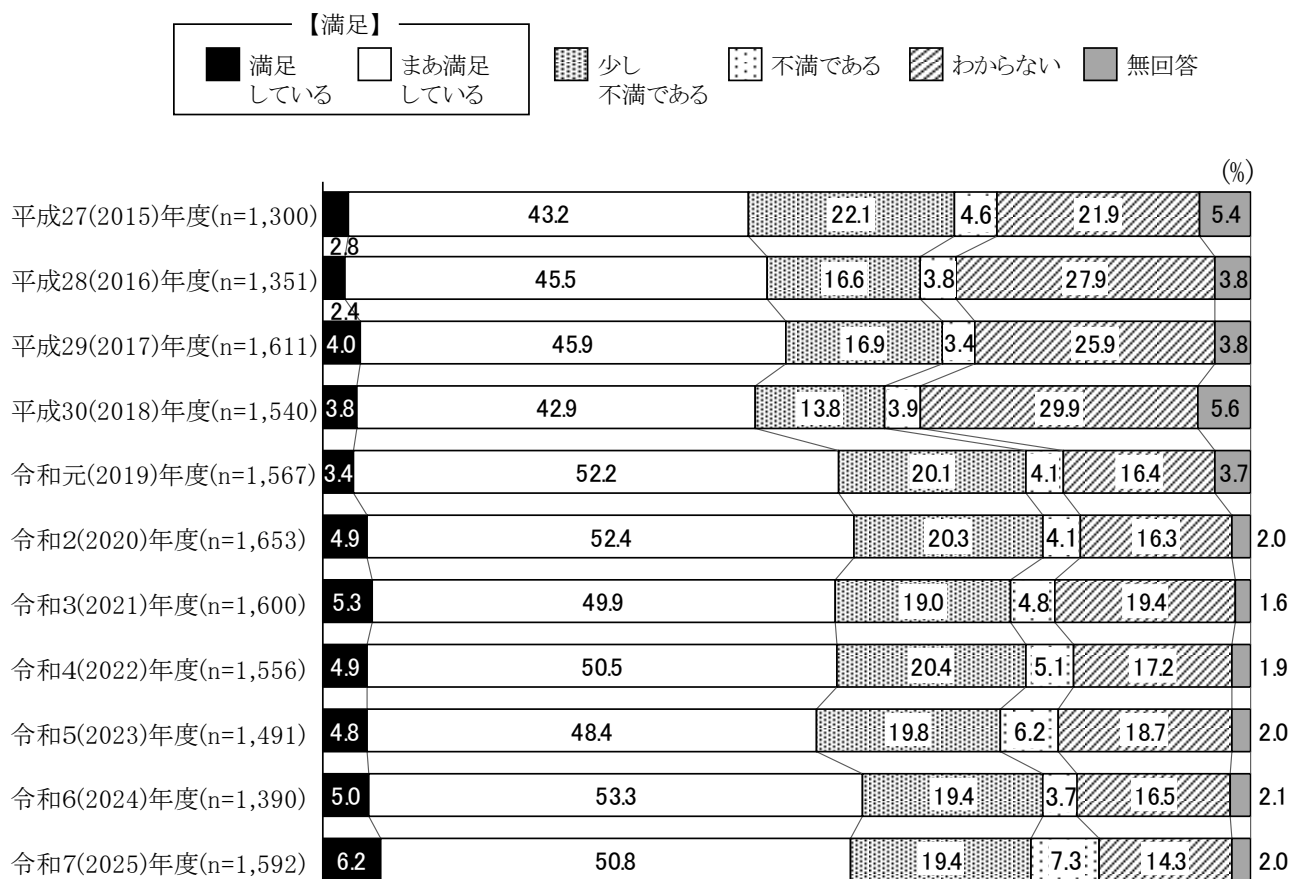
「満足している」(6.2%)と「まあ満足している」(50.8%)を合計した【満足】は56.9%であった。

【図表 99】 施策や事業の総合的な満足度



過去の推移を見ると、【満足】は令和元（2019）年度以降、令和5（2023）年度に若干下がったものの、ほぼ横ばいで推移している。

【図表 100】 施策や事業の総合的な満足度（経年比較）

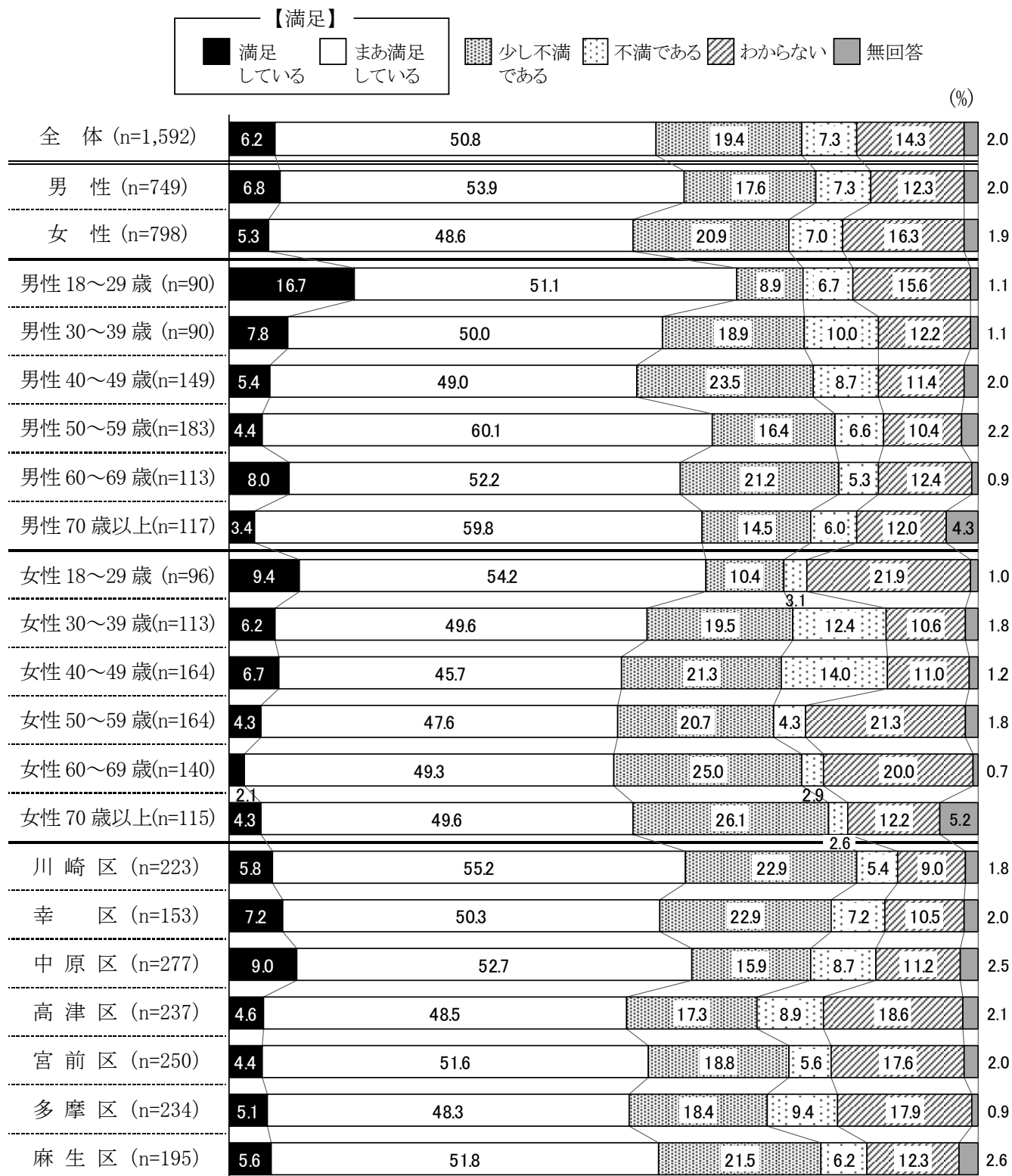


性別に見ると、【満足】の割合は女性(53.9%)よりも男性(60.7%)の方が6.8ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【満足】の割合は男女ともに18~29歳が最も高くなっている。

居住区別では、【満足】の割合は、「中原区」(61.7%)と「川崎区」(61.0%)で6割を超え、その他の居住区は5割台となっている。

【図表 101】 施策や事業の総合的な満足度（性別、性/年齢別、居住区別）



2.5 川崎市の広報（市政だより）について

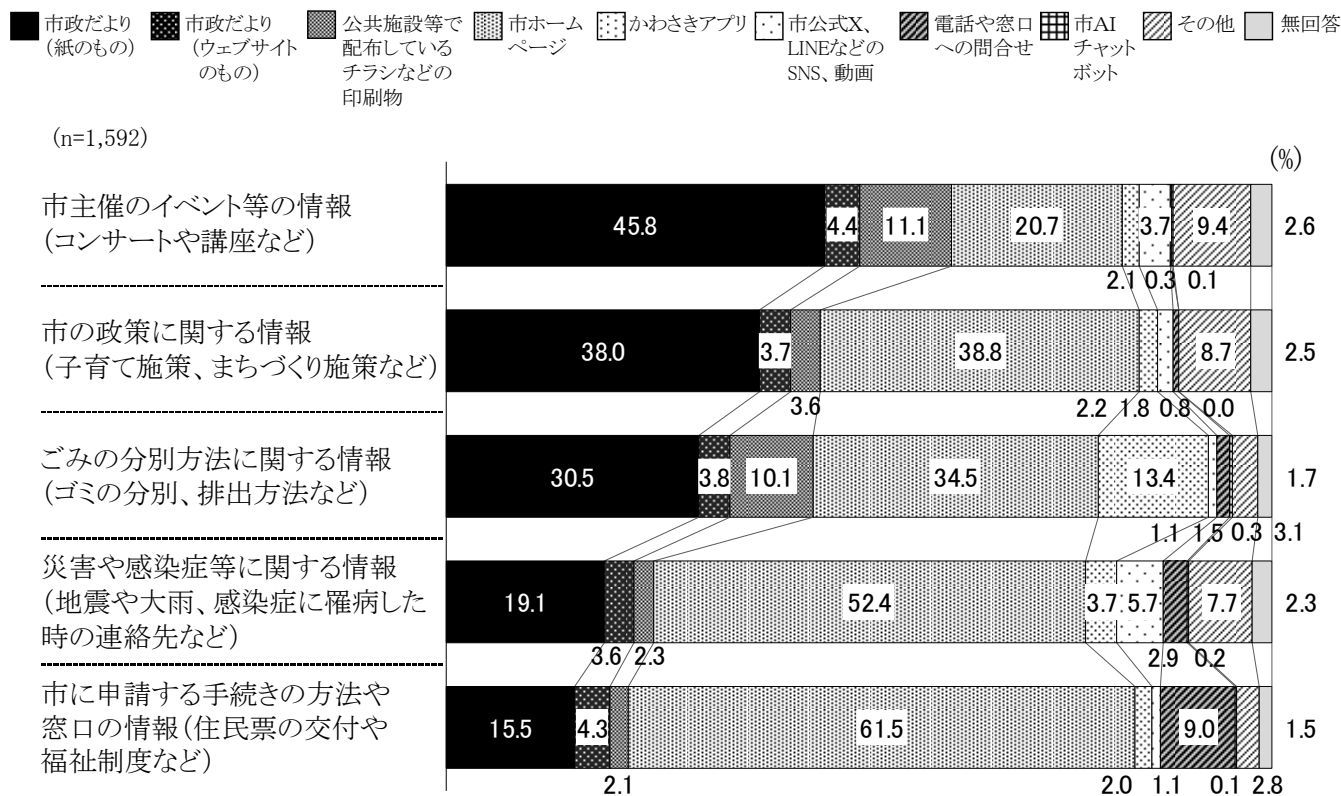
(1) 川崎市の情報入手方法

問 12. 川崎市の情報を得たいときに、どのような方法で入手していますか。
それぞれの項目ごとに、最もあてはまる媒体を1つずつ選んでください。

「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」の入手方法は、「市政だより（紙のもの）」（45.8%）が最も高く、その他の項目では「市ホームページ」が最も高くなっている。

また、「公共施設等で配布しているチラシなどの印刷物」は「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」と「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で1割を超えて高く、「かわさきアプリ」は「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で13.4%と高くなっている。「電話や窓口への問合せ」は「市に申請する手続きの方法や窓口の情報（住民票の交付や福祉制度など）」で9.0%と高くなっている。

【図表 102】川崎市の情報入手方法

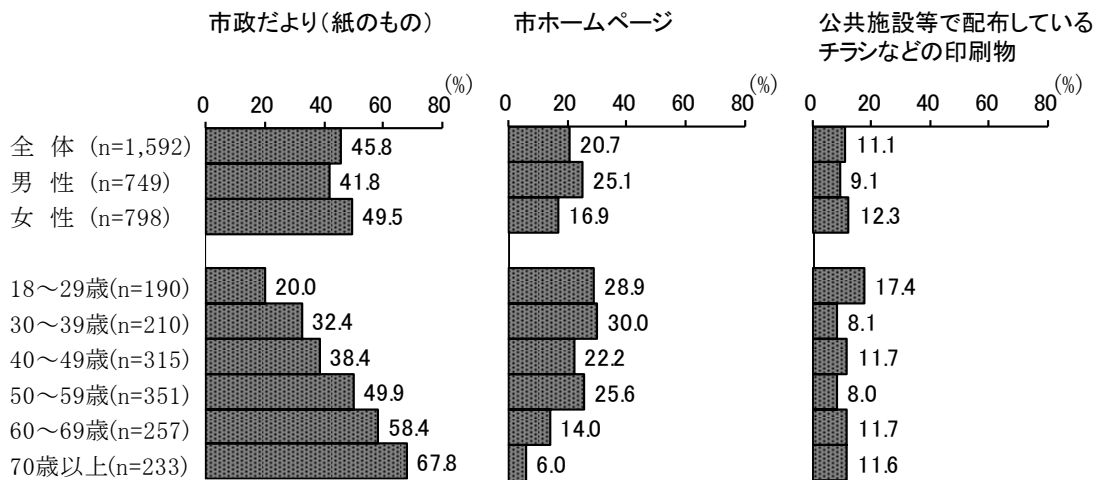


① 市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)

上位3項目について、性別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高く、「市ホームページ」は男性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど割合が高く、「市ホームページ」は60歳代以上で2割を下回り、低くなっている。

【図表 103】「市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)」入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

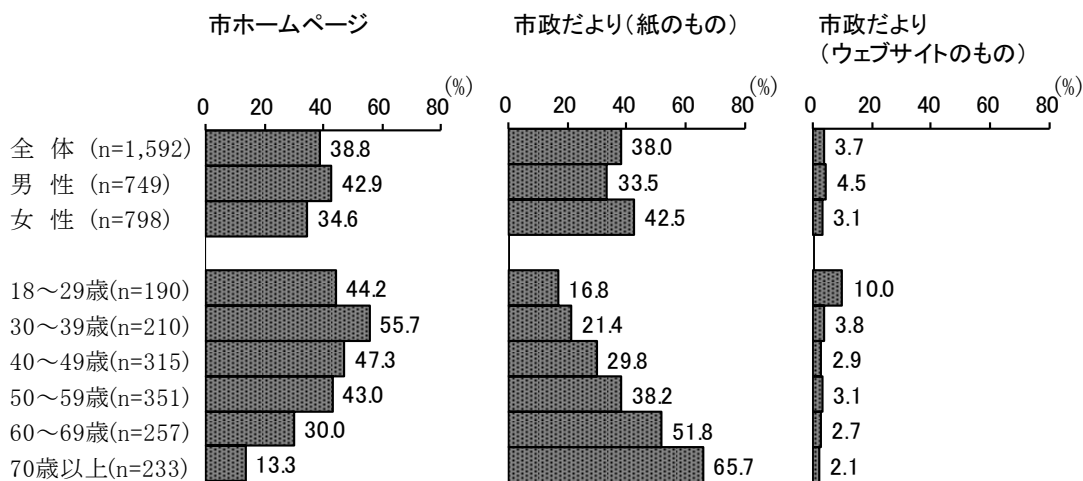


② 市の政策に関する情報(子育て施策、まちづくり施策など)

上位3項目(「その他」は除く)について、性別に見ると、「市ホームページ」は男性の方が高く、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は18~29歳を除き、年齢が上がるほど割合が低く、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。「市政だより(ウェブサイトのもの)」は18~29歳(10.0%)が他の年齢層と比べて高くなっている。

【図表 104】「市の政策に関する情報(子育て施策、まちづくり施策など)」入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

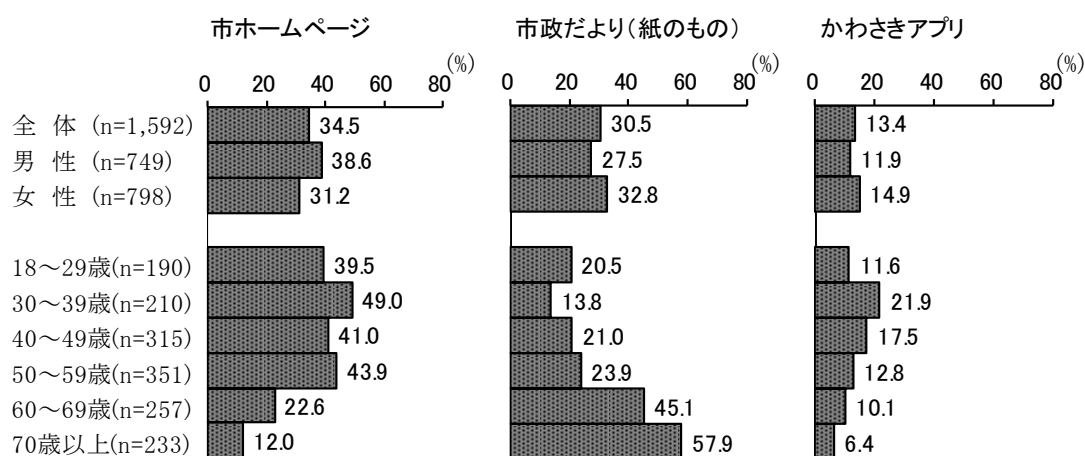


③ ごみの分別方法に関する情報(ゴミの分別、排出方法など)

上位3項目について、性別に見ると、「市ホームページ」は男性の方が高く、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代～50歳代で4割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」は18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が高く、「かわさきアプリ」は18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 105】「ごみの分別方法に関する情報(ゴミの分別、排出方法など)」入手方法 <上位3項目> (性別、年齢別)

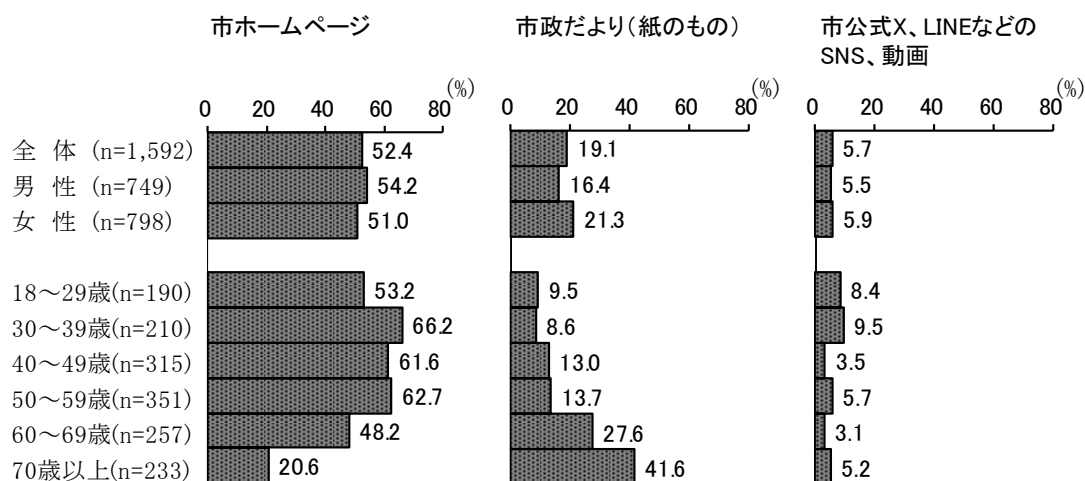


④ 災害や感染症等に関する情報(地震や大雨、感染症に罹病した時の連絡先など)

上位3項目(「その他」は除く)について、性別では大きな差は見られない。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代～50歳代で6割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 106】「災害や感染症等に関する情報(地震や大雨、感染症に罹病した時の連絡先など)」入手方法 <上位3項目> (性別、年齢別)

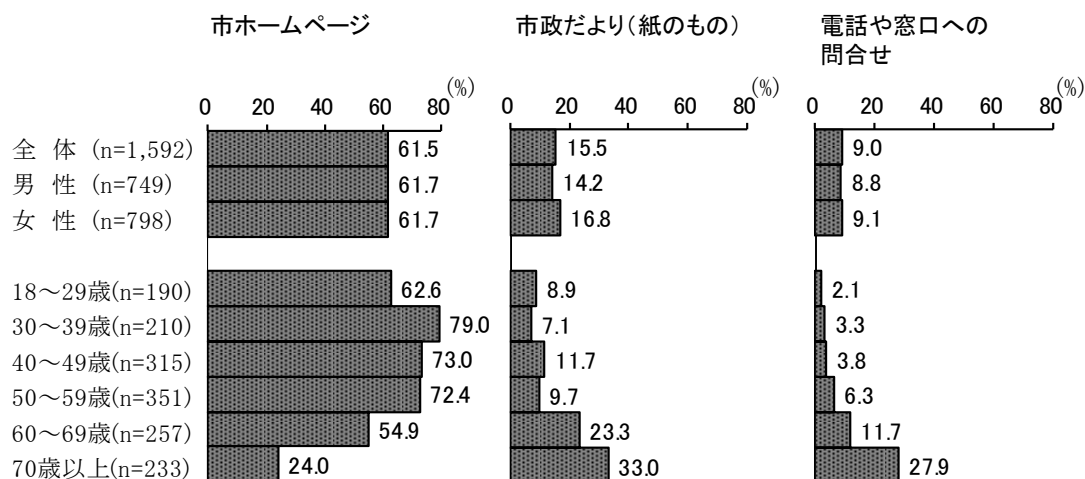


⑤ 市に申請する手続きの方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)

上位3項目について、性別では大きな差は見られない。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代~50歳代で7割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」、「電話や窓口への問合せ」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 107】「市に申請する手続きの方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)」
入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

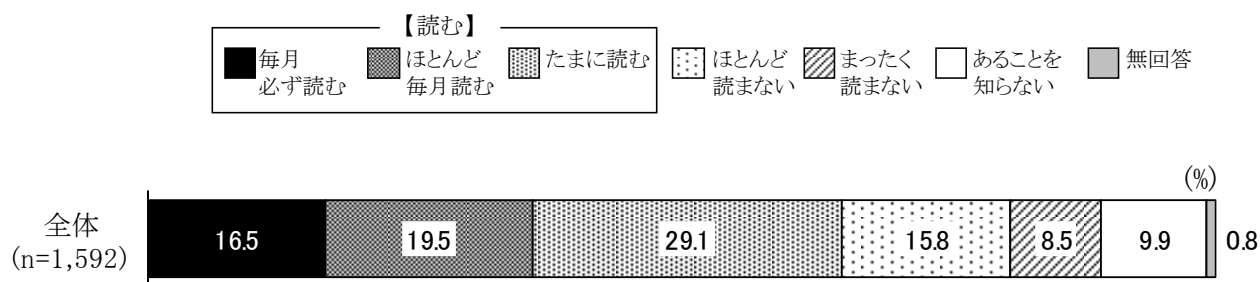


(2) 市政だよりの閲読状況

問 13. 市政だよりについて、うかがいます。あなたは毎月発行している市政だよりをどれくらいの頻度で読んでいますか。

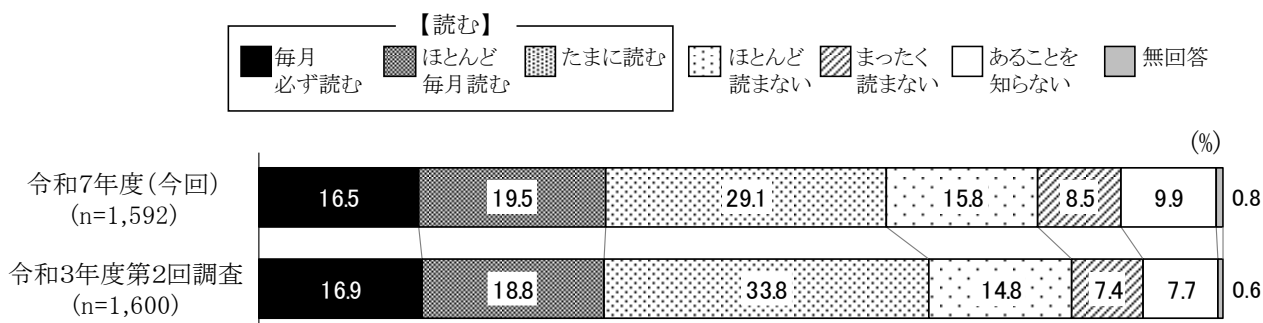
「たまに読む」(29.1%)が最も高く、「毎月必ず読む」(16.5%)、「ほとんど毎月読む」(19.5%)と合計した【読む】は65.1%であった。

【図表 108】 市政だよりの閲読状況



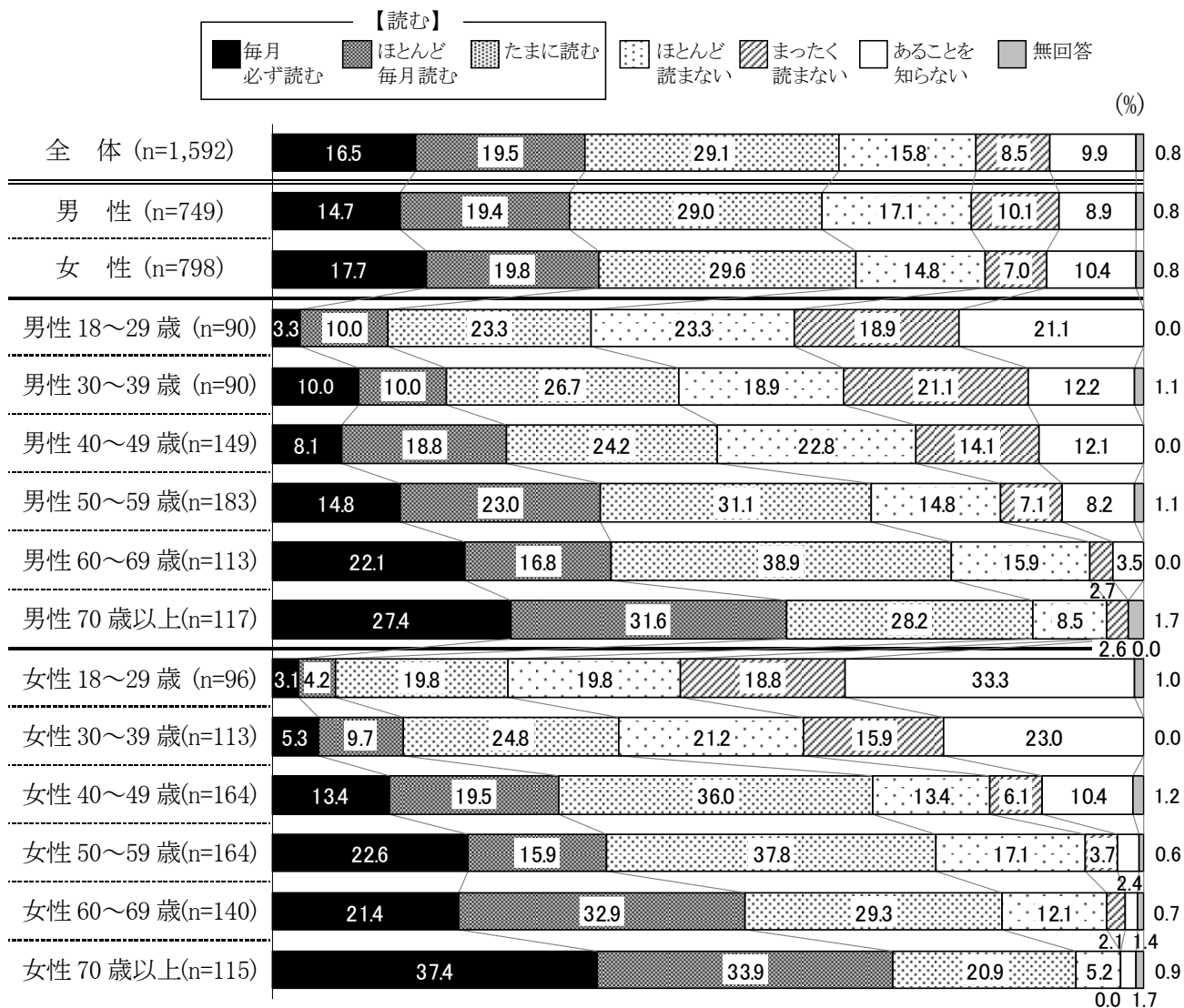
令和3(2021)年度第2回調査(郵送調査)と比較すると、【読む】の割合は、令和3年度第2回調査では69.5%であったが、今回は65.1%と4.4ポイント低くなっている。

【図表 109】 市政だよりの閲読状況(過去調査との比較)



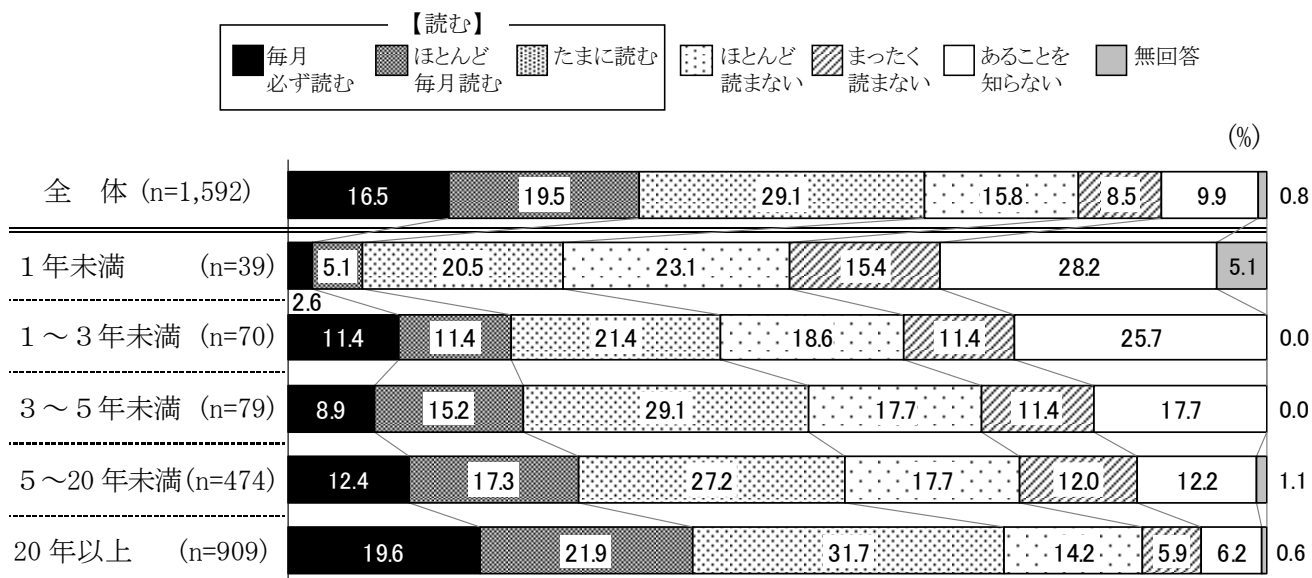
性／年齢別に見ると、【読む】（「毎月必ず読む」、「ほとんど毎月読む」、「たまに読む」の合計）の割合は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。一方で、「あることを知らない」はおおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 110】 市政だよりの閲読状況（性別、性／年齢別）



川崎市内居住年数別に見ると、【読む】(「毎月必ず読む」、「ほとんど毎月読む」、「たまに読む」の合計)は居住年数が長いほど割合が高くなっている。一方で、「あることを知らない」は居住年数が短いほど割合が高くなっている。

【図表 111】 市政だよりの閲読状況 (居住年数別)

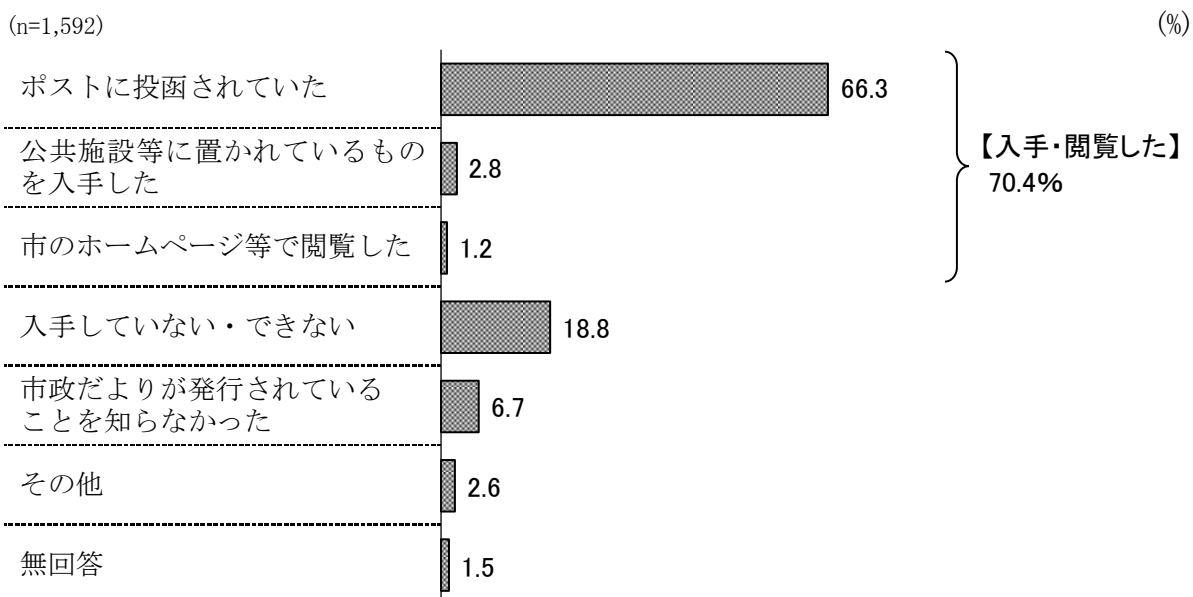


(3) 「市政だより 11月号」の入手状況

問 14. あなたは「かわさき市政だより 11月号」(特集: 市民を支える乗り物)をどのように入手しましたか。

「ポストに投函されていた」が 66.3%で最も高く、「公共施設等に置かれているものを入手した」(2.8%)、「市のホームページ等で閲覧した」(1.2%)と合計した【入手・閲覧した】は 70.4%であった。

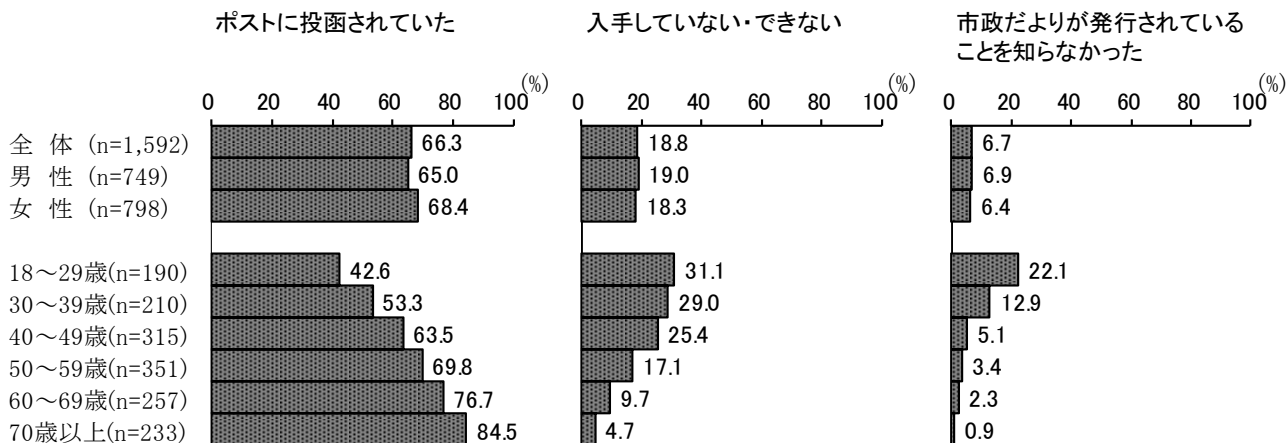
【図表 112】「市政だより 11月号」の入手状況



上位3項目について、性別ではいずれの項目においても大きな差は見られない。

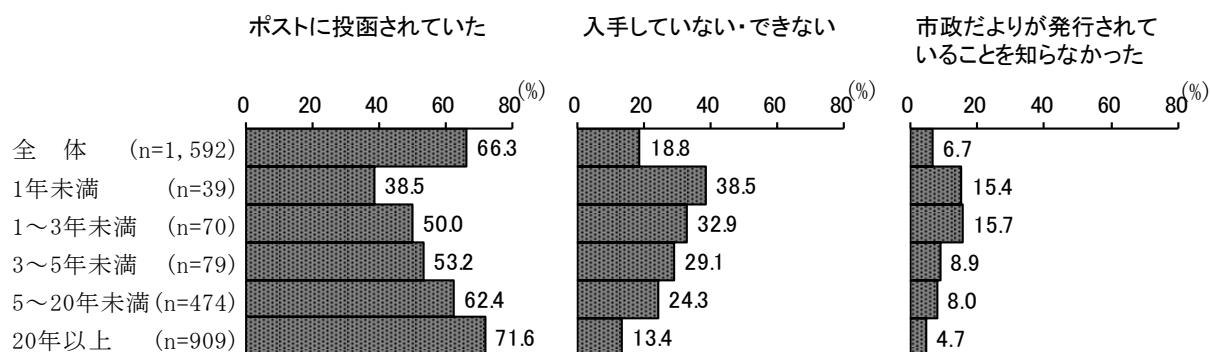
年齢別に見ると、「ポストに投函されていた」は年齢が上がるほど割合が高く、「入手していない・できない」と「市政だよりが発行されていることを知らなかった」は年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 113】「市政だより 11月号」の入手状況 <<上位3項目>> (性別、年齢別)



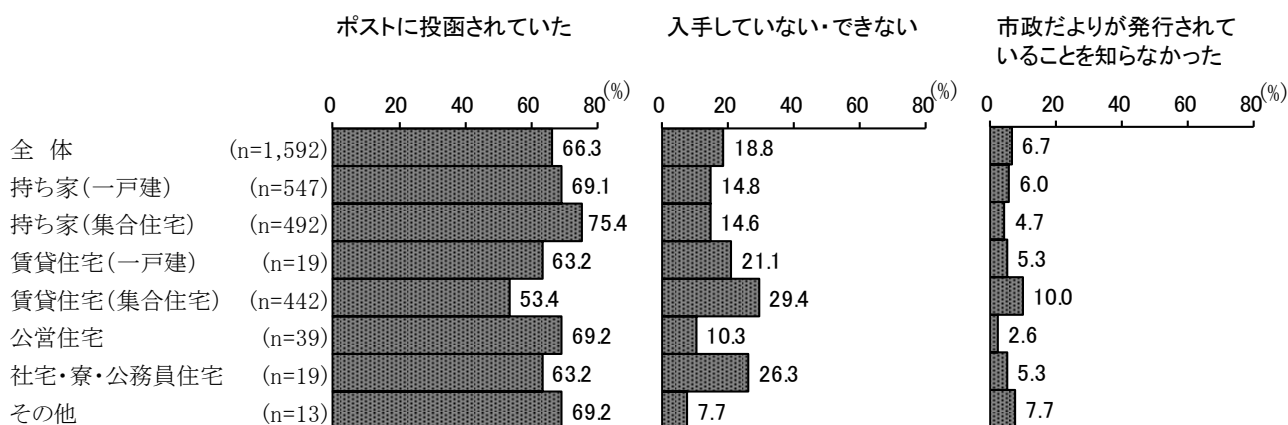
上位3項目について、居住年数別に見ると、「ポストに投函されていた」は居住年数が長くなるほど割合が高く、「入手していない・できない」と「市政だよりが発行されていることを知らなかった」はおおむね居住年数が長くなるほど割合が低くなっている。

【図表 114】「市政だより 11月号」の入手状況 《上位3項目》（居住年数別）



上位3項目について、住居形態別に見ると、「ポストに投函されていた」は「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が75.4%で最も高い。また、「賃貸住宅（マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅）」は「ポストに投函されていた」では53.4%で最も低く、「入手していない・できない」では29.4%で最も高い。

【図表 115】「市政だより 11月号」の入手状況 《上位3項目》（住居形態別）

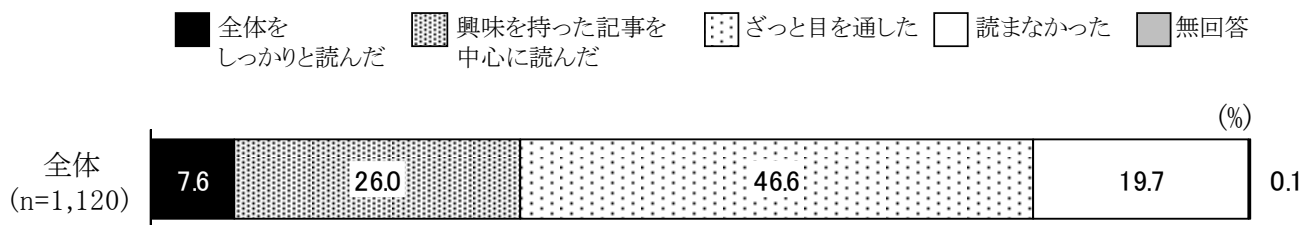


(4)「市政だより11月号」の閲読状況

問 14-1. 「市政だより11月号」をどのように読みましたか。

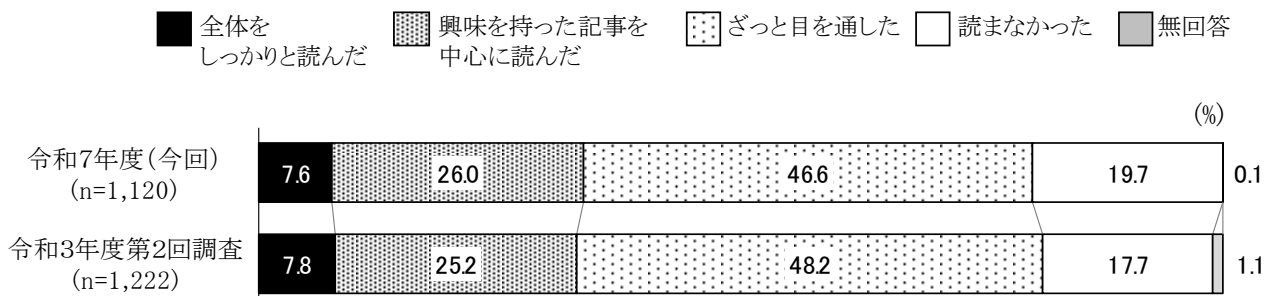
「市政だより11月号」を【入手・閲読した】(「ポストに投函されていた」、「公共施設等に置かれているものを入手した」、「市のホームページ等で閲読した」) 人に閲読状況について尋ねたところ、「ざっと目を通した」(46.6%)が最も高く、次いで「興味を持った記事を中心に読んだ」(26.0%)、「読まなかった」(19.7%)、「全体をしっかりと読んだ」(7.6%)と続いている。

【図表 116】「市政だより11月号」の閲読状況



令和3(2021)年度第2回調査(郵送調査)との比較では、いずれの選択肢においても大きな差は見られない。

【図表 117】「市政だより11月号」の閲読状況(過去調査との比較)



性／年齢別に見ると、男女ともに30歳代以上は「ざっと目を通した」が最も高く、男性18～29歳は「読まなかった」と同率、女性18～29歳は「読まなかった」が最も高い。また、「興味を持った記事を中心に読んだ」は男性18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が高くなっている。一方で、「読まなかった」は男女ともに18～29歳が最も高く、女性の18～29歳(57.5%)は5割を超えて最も高い。

【図表 118】「市政だより 11月号」の閲読状況（性別、性／年齢別）

全体を
 しっかりと読んだ

 興味を持った記事を中心
 に読んだ

 ざっと目を通した

 読まなかった

 無回答

(%)

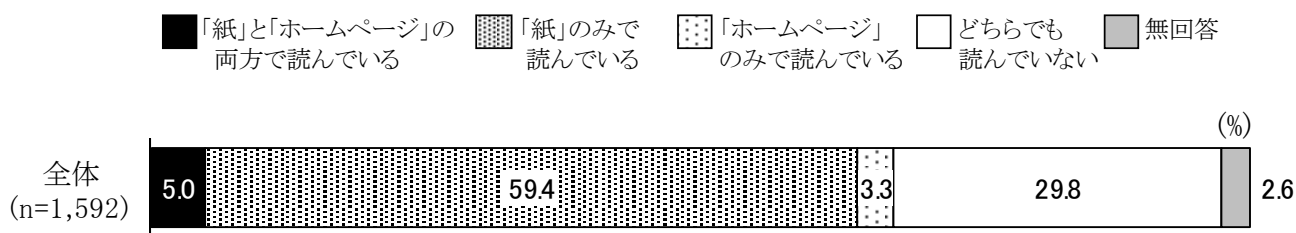
性別・年齢別	全体をしっかりと読んだ	興味を持った記事を中心に読んだ	ざっと目を通した	読まなかった	無回答
全 体 (n=1,120)	7.6	26.0	46.6	19.7	0.1
男 性 (n=524)	8.2	25.2	44.5	21.9	0.2
女 性 (n=570)	6.7	27.2	48.2	17.9	0.0
男性 18～29 歳 (n=42)	4.8	19.0	38.1	38.1	0.0
男性 30～39 歳 (n=56)	5.4	14.3	44.6	35.7	0.0
男性 40～49 歳 (n=94)	8.5	19.1	47.9	24.5	0.0
男性 50～59 歳 (n=133)	8.3	27.1	42.9	21.1	0.8
男性 60～69 歳 (n=91)	4.4	28.6	48.4	18.7	0.0
男性 70 歳以上 (n=102)	13.7	34.3	41.2	10.8	0.0
女性 18～29 歳 (n=40)	10.0	32.5	57.5	0.0	0.0
女性 30～39 歳 (n=59)	5.1	15.3	49.2	30.5	0.0
女性 40～49 歳 (n=116)	6.0	16.4	56.9	20.7	0.0
女性 50～59 歳 (n=128)	5.5	32.0	46.9	15.6	0.0
女性 60～69 歳 (n=119)	10.1	36.1	44.5	9.2	0.0
女性 70 歳以上 (n=103)	8.7	37.9	48.5	4.9	0.0

(5) 「市政だより」の閲読媒体

問 15. 市政だよりは、市のホームページなどでも読むことができます。
あなたご自身の状況として、最も近いものをお選びください。

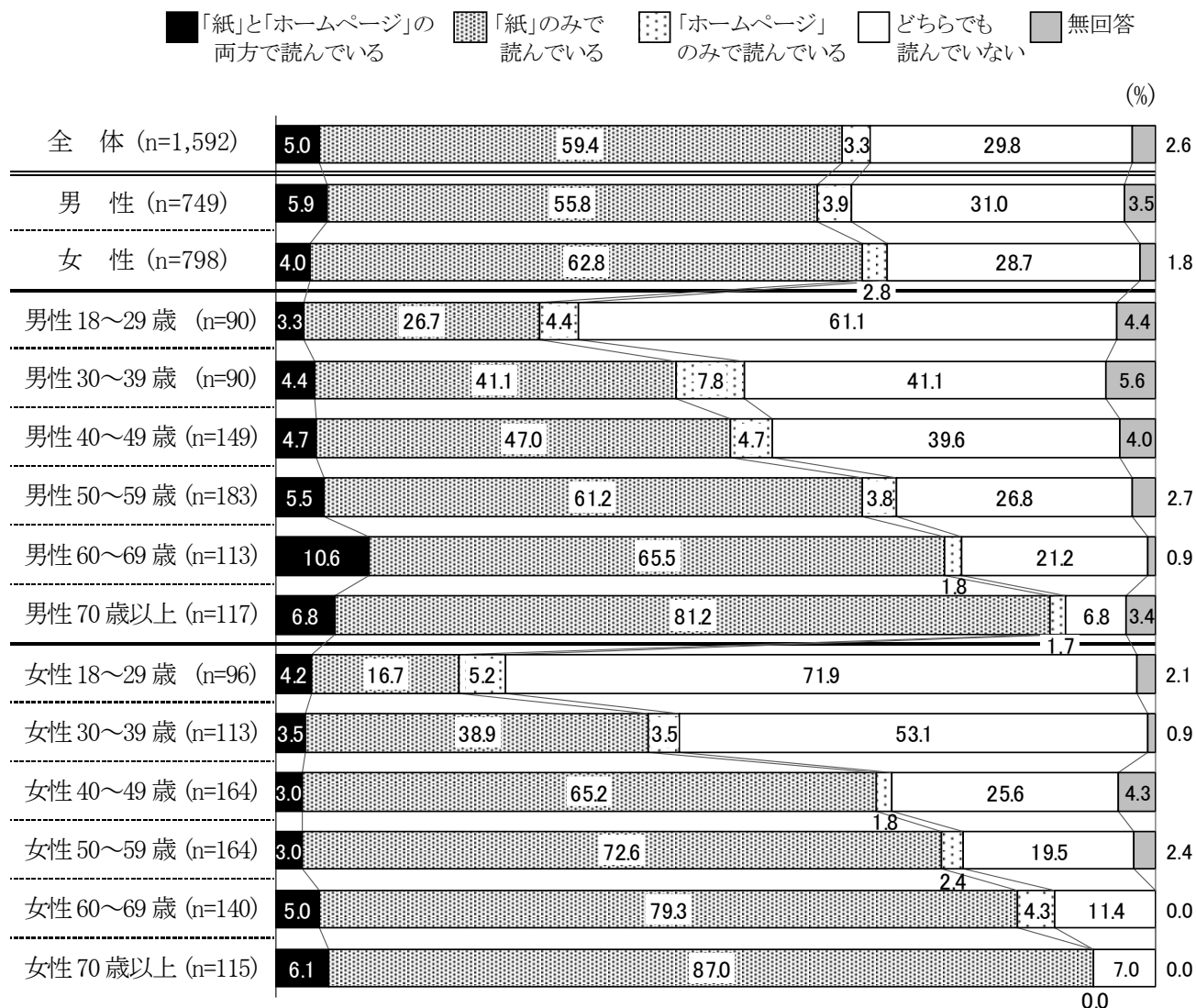
『「紙」のみで読んでいる』(59.4%) が最も高く、次いで『どちらでも読んでいない』(29.8%)。『「紙」と「ホームページ」の両方で読んでいる』(5.0%)、『「ホームページ」のみで読んでいる』(3.3%) と続いている。

【図表 119】「市政だより」の閲読媒体



性／年齢別に見ると、『「紙」のみで読んでいる』の割合は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。また、男女ともに30歳代以下は『どちらでも読んでいない』が最も高くなっている（男性30～39歳は『「紙」のみで読んでいる』と同率）。

【図表 120】「市政だより」の閲読媒体（性別、性／年齢別）

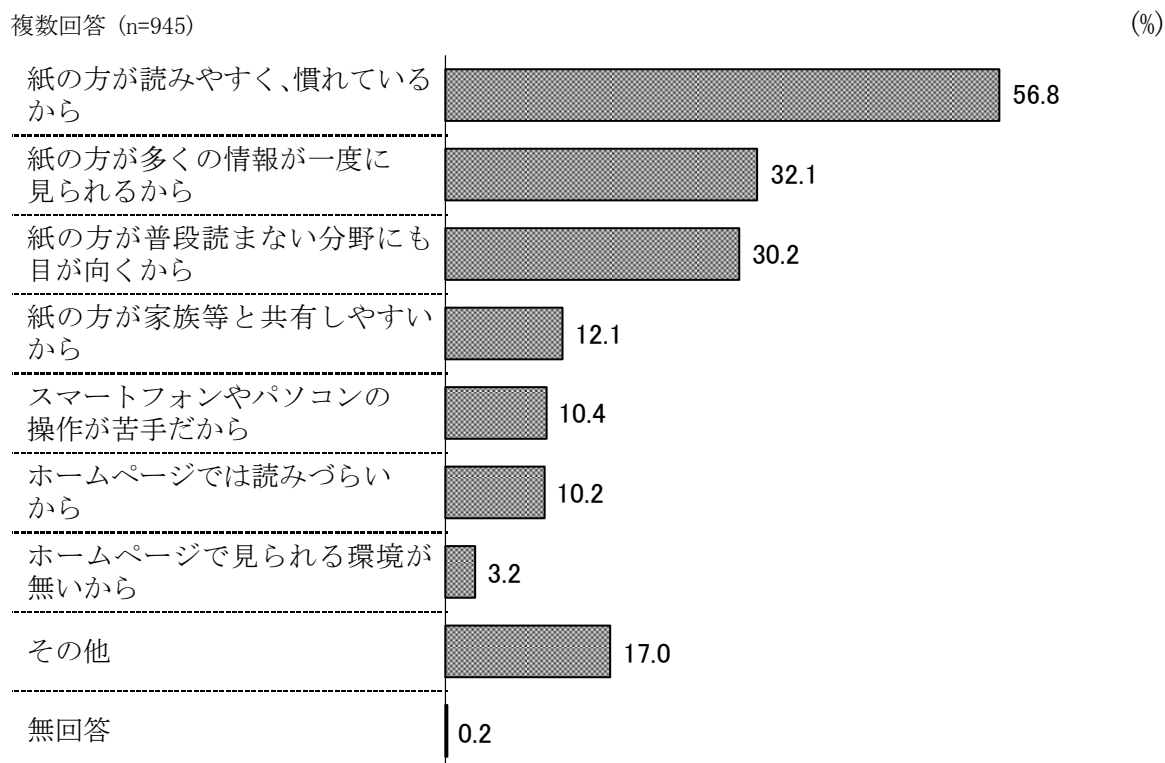


(6) 「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由

問 15-1. 紙のみで読んでいる理由について、最も近いものをお選びください。

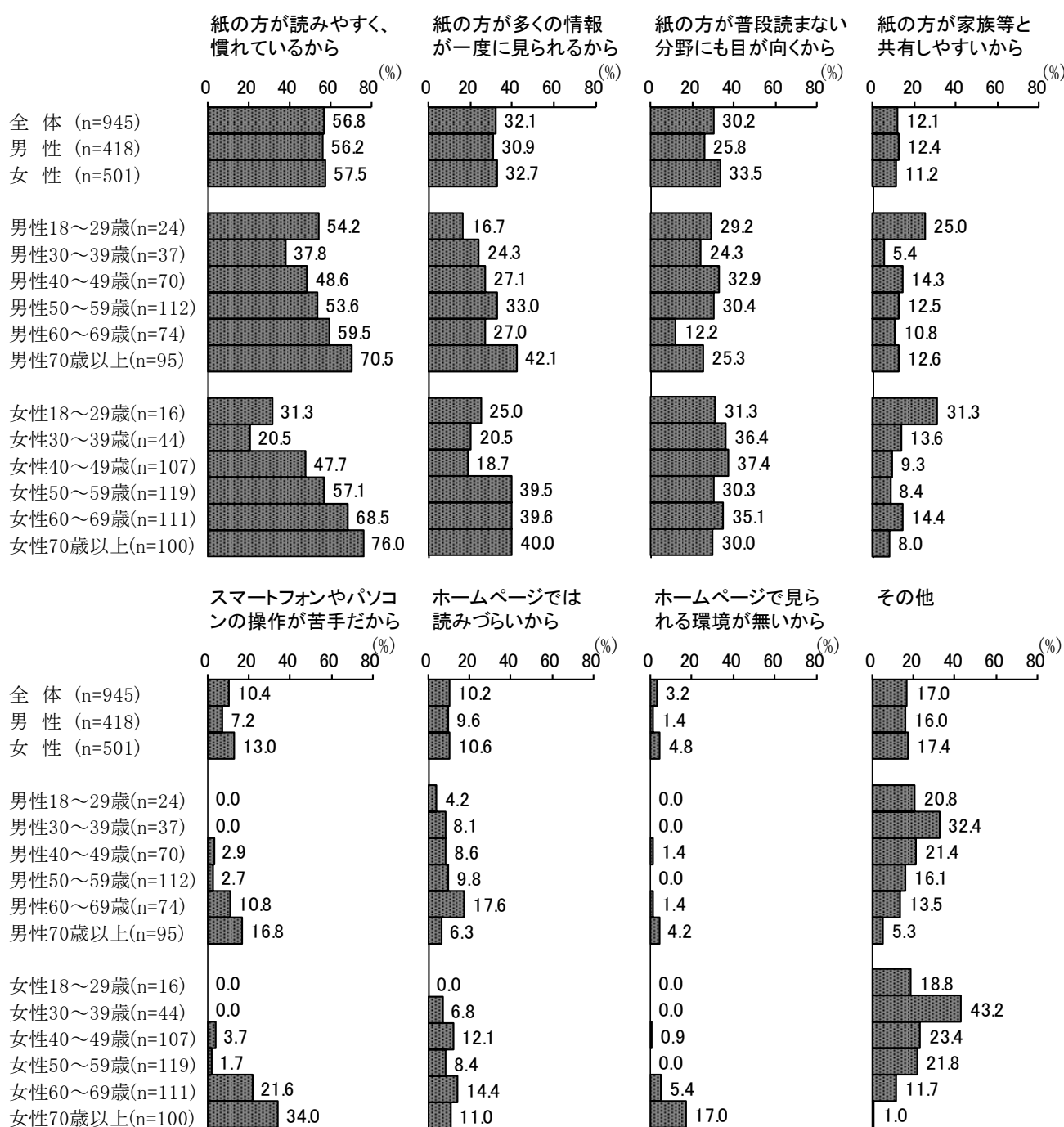
「市政だより」を『「紙」のみで読んでいる』と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「紙の方が読みやすく、慣れているから」(56.8%)が最も高く、「紙の方が多くの情報が一度に見られるから」(32.1%)、「紙の方が普段読まない分野にも目が向くから」(30.2%)と続いている。

【図表 121】「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由（複数回答）



性／年齢別に見ると、「紙の方が読みやすく、慣れているから」は男女ともに30歳代以上で年齢が上がるほど割合が高くなっている。「紙の方が多くの情報が一度に見られるから」は男性70歳以上と女性50歳代以上がおおむね4割以上で高くなっている。「スマートフォンやパソコンの操作が苦手だから」は男女ともに60歳代以上で1割を超え、女性の60～69歳(21.6%)と70歳以上(34.0%)で2割を超えて高くなっている。

【図表 122】「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由(複数回答)
(性別、性／年齢別)

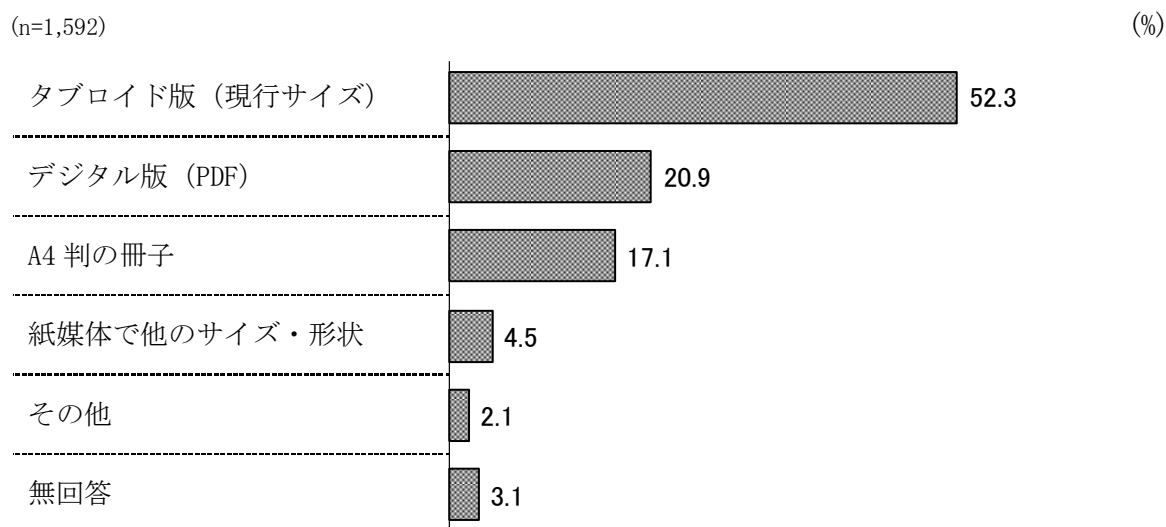


(7) 読みやすい「市政だより」の形状

問 16. 市政だよりとして、読みやすい形状は何ですか。

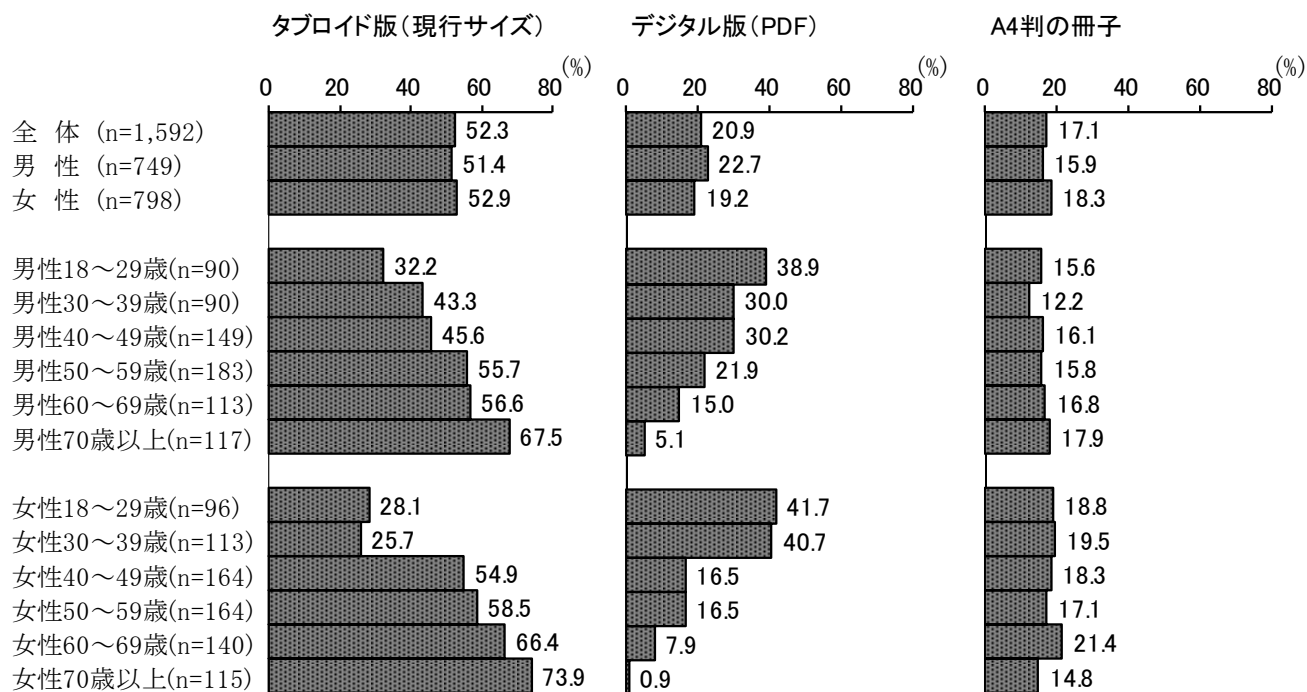
「タブロイド版（現行サイズ）」（52.3%）が最も高く、「デジタル版（PDF）」（20.9%）、「A4判の冊子」（17.1%）、「紙媒体で他のサイズ・形状」（4.5%）と続いている。

【図表 123】 読みやすい「市政だより」の形状



上位3項目について、性/年齢別に見ると、「タブロイド版(現行サイズ)」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く「デジタル版(PDF)」はおおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 124】読みやすい「市政だより」の形状 <上位3項目> (性別、性/年齢別)



(8)「市政だより」についての考え

問 17. 市政だよりについて、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。それぞれの項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A:市全体の取組などの情報を充実させてほしい
- B:より身近な区の情報を充実させてほしい

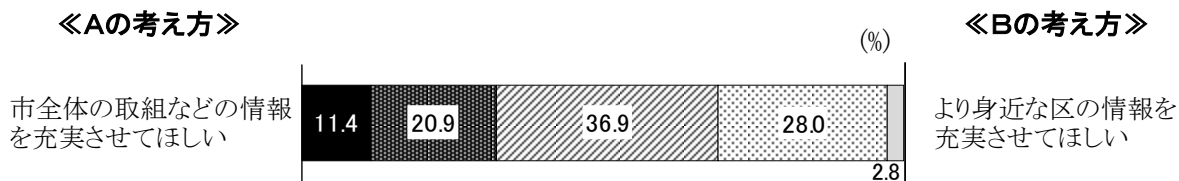
【Bに近い】が64.9%と、「より身近な区の情報を充実させてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

【図表 125】「市政だより」についての考え

A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
B : より身近な区の情報を充実させてほしい



(n=1,592)

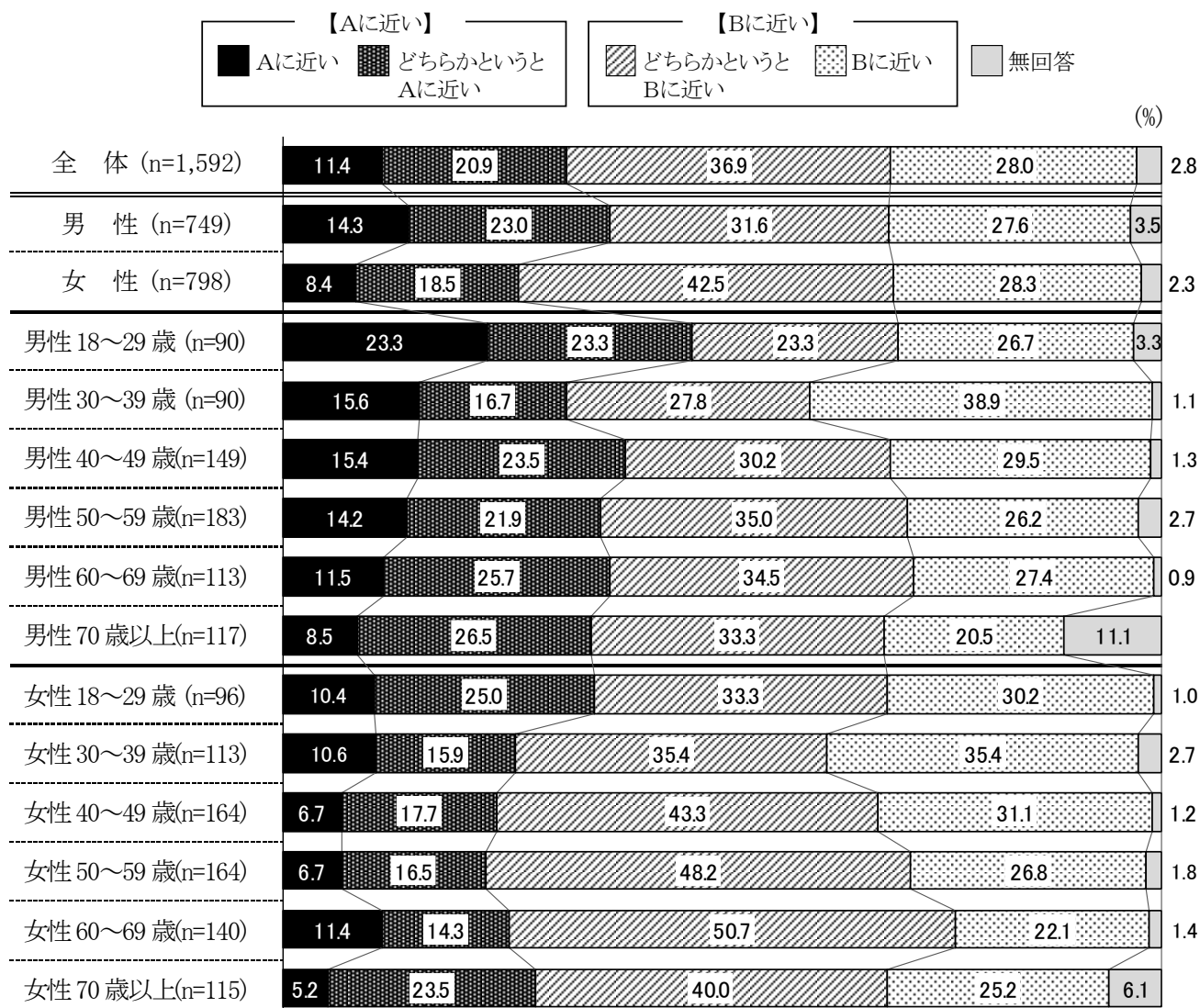


性別に見ると、【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)は男性(59.3%)よりも女性(70.8%)の方が11.5ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、女性の30歳代～60歳代は【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)が7割を超えて高く、男性18～29歳は【Aに近い】(市全体の取組などの情報を充実させてほしい)が4割を超えて最も高い。

【図表 126】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

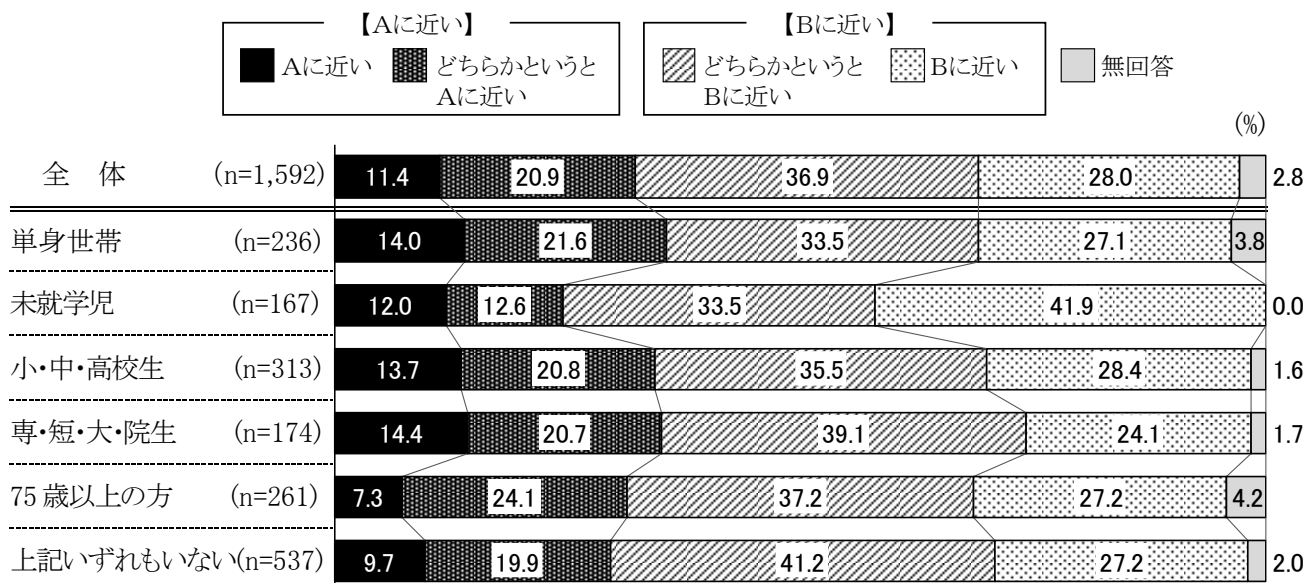
A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
 B : より身近な区の情報を充実させてほしい



同居家族別に見ると、同居家族に「未就学児」がいる人は【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)が75.4%で最も高くなっている。

【図表 127】「市政だより」についての考え (同居家族別)

〔 A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
 B : より身近な区の情報を充実させてほしい 〕



- ② A:QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
B:QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい

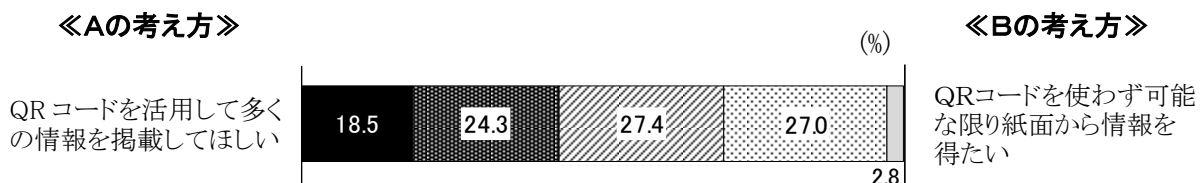
【Bに近い】が54.4%と、「QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 128】「市政だより」についての考え

A : QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
B : QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい



(n=1,592)



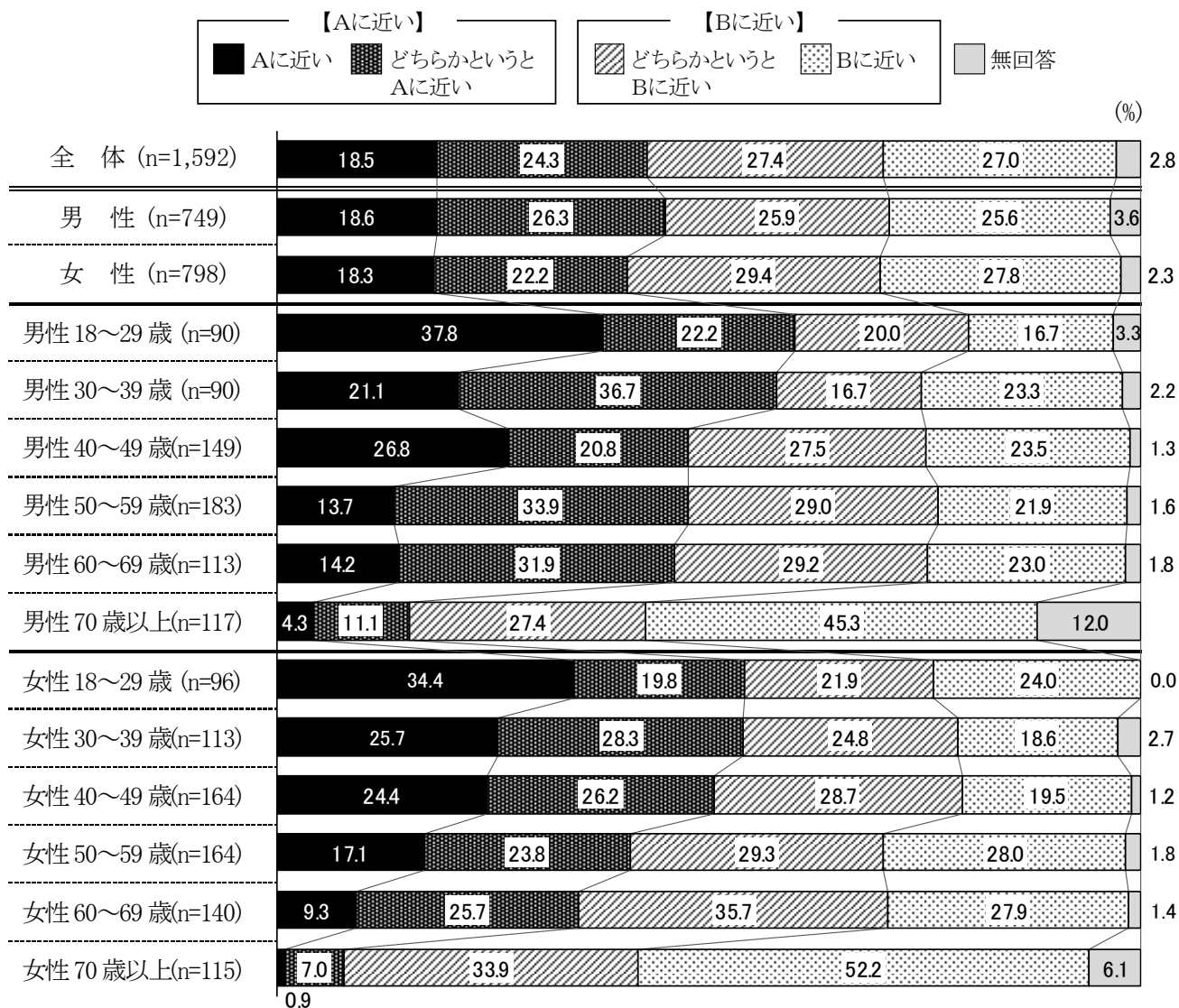
※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

性別に見ると、【Bに近い】(QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい)は男性(51.5%)よりも女性(57.3%)の方が5.8ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【Aに近い】(QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい)は男性の30歳代以下と女性の40歳代以下で5割を超えている。一方で、【Bに近い】は男性70歳以上と女性の60歳代以上で6割を超え、女性70歳以上(86.1%)で8割を超えて最も高い。

【図表 129】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

A : QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
 B : QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい



- ③ A:情報の種類は少なくとも、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
B:情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない

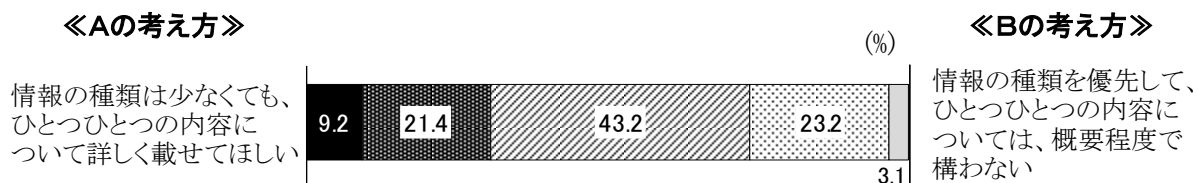
【Bに近い】が66.4%と、「情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

【図表 130】「市政だより」についての考え

A : 情報の種類は少なくとも、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない



(n=1,592)

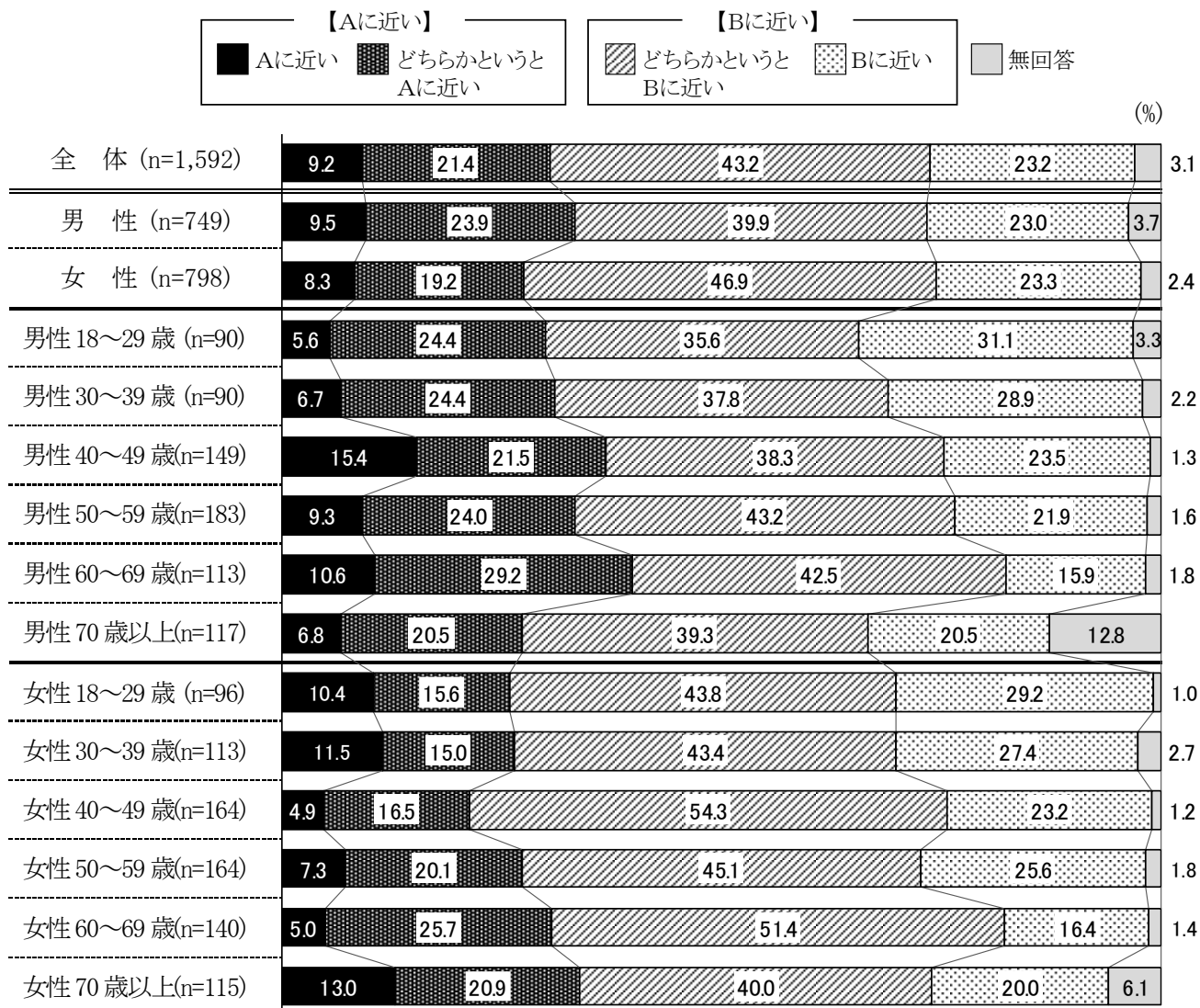


性別に見ると、【Bに近い】(情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない)は男性(62.9%)よりも女性(70.2%)の方が7.3ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【Bに近い】は女性のすべての年齢層と男性の50歳代以下で6割を超え、女性の50歳代以下では7割を超え、高くなっている。

【図表 131】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

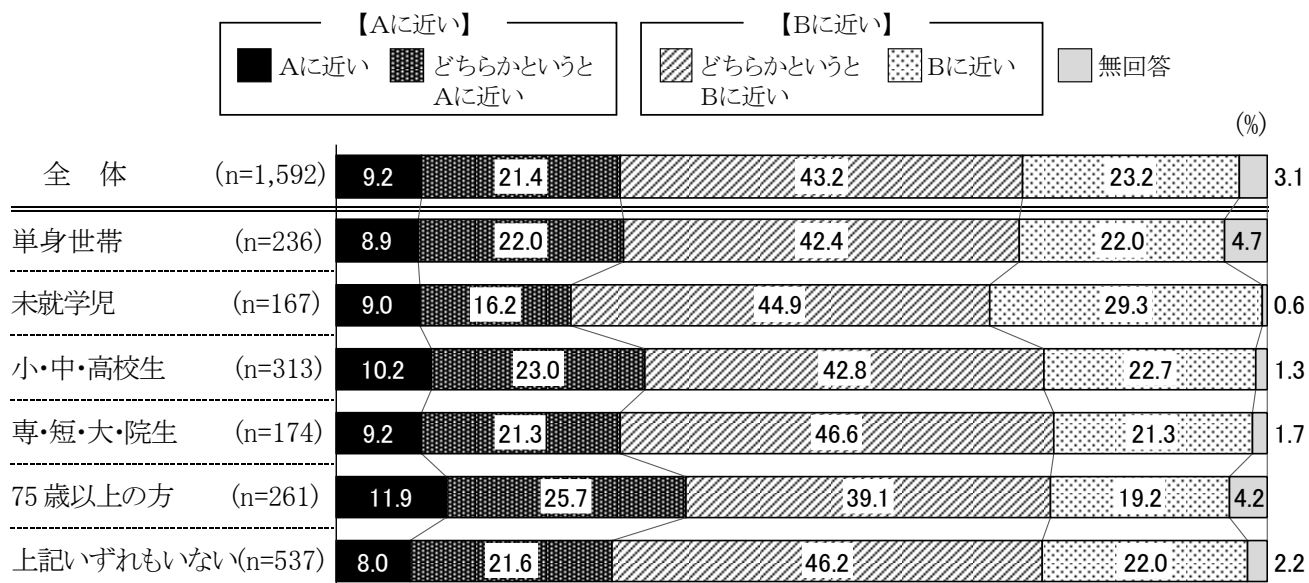
〔 A : 情報の種類は少なくても、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
 B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない 〕



同居家族別に見ると、同居家族に「未就学児」がいる人は【Bに近い】(情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない)が74.3%で最も高くなっている。

【図表 132】「市政だより」についての考え (同居家族別)

〔 A : 情報の種類は少なくても、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
 B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない 〕



- ④ A: 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
B: 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い

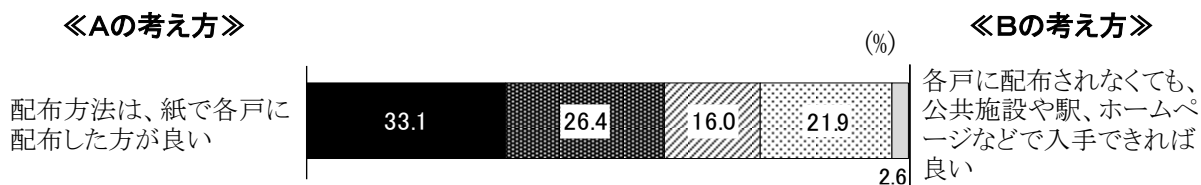
【Aに近い】が59.5%と、「配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 133】「市政だより」についての考え

A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い



(n=1,592)

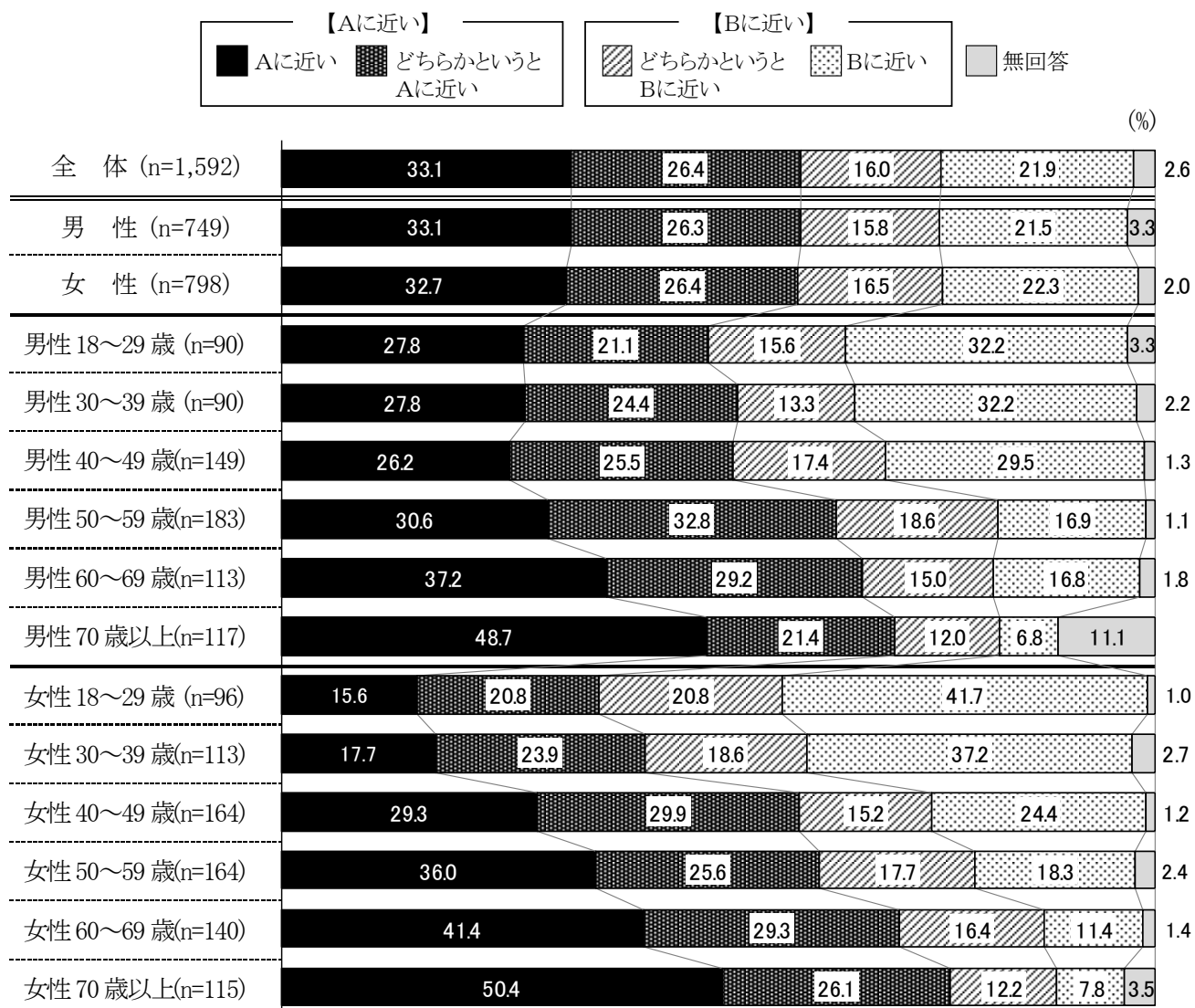


性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で【Aに近い】(配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い)が6割を超えており、男性70歳以上と女性の60歳代以上は7割を超えて高くなっている。

【図表 134】「市政だより」についての考え(性別、性／年齢別)

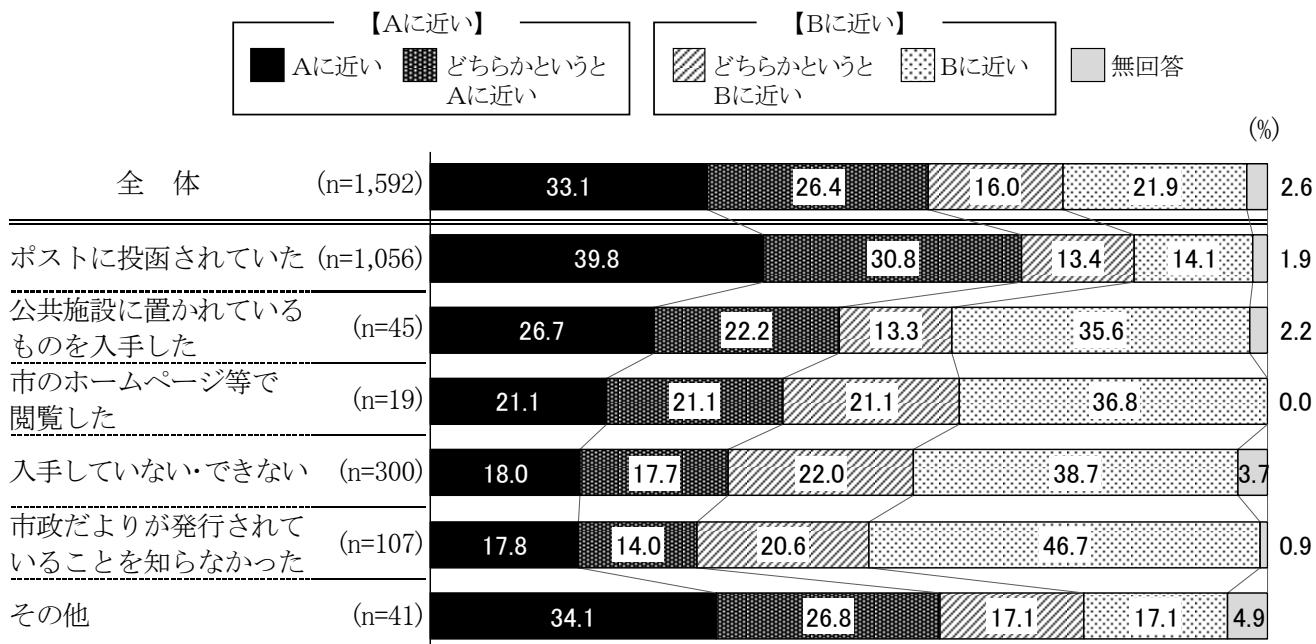
〔 A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
 B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い 〕



問14の「市政だより11月号」の入手状況別に見ると、【Aに近い】(配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い)は「ポストに投函されていた」と回答した人で70.5%と最も高くなっている。また、「入手していない・できない」、「市政だよりが発行されていることを知らなかった」と回答した人は【Bに近い】(各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い)が6割を超えて高くなっている。

【図表 135】「市政だより」についての考え(「市政だより11月号」の入手状況別)

A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
 B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い



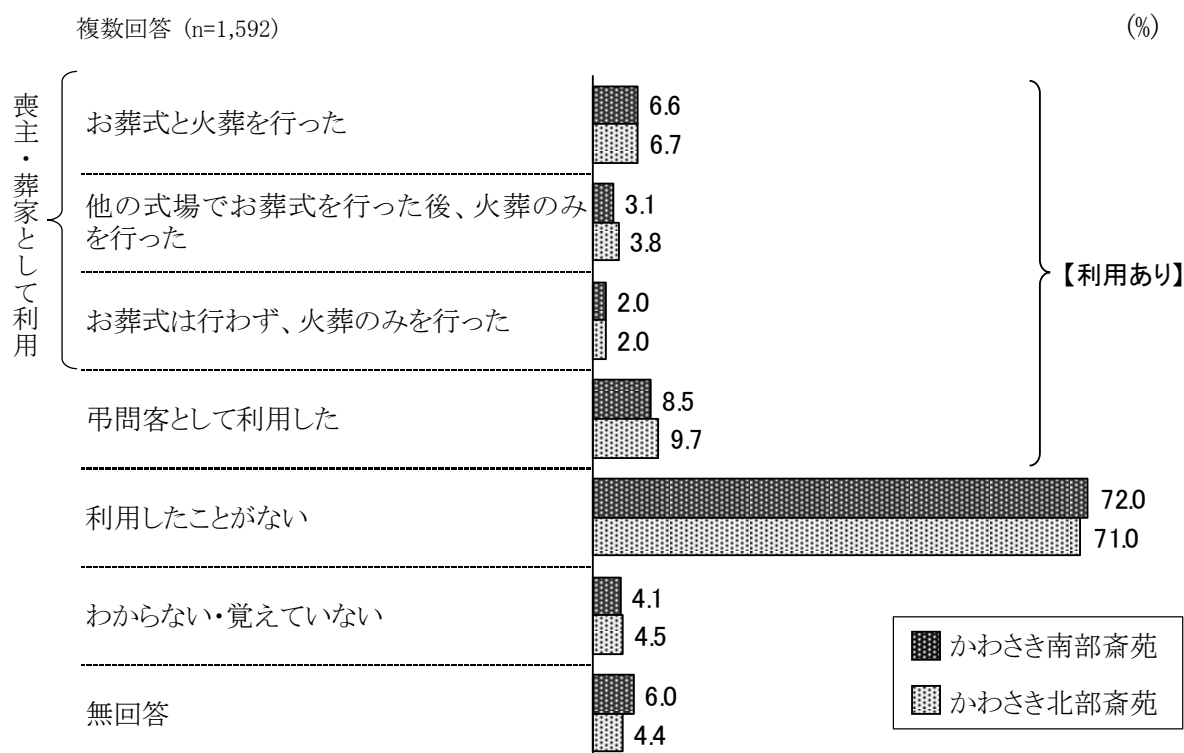
2.6 これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて

(1) 市営葬祭場の利用状況

問 18. 川崎市では、市民の皆様のお葬式や火葬を行う施設として「かわさき南部斎苑」「かわさき北部斎苑」という葬祭場を運営しています。
過去10年以内に、あなたは川崎市の葬祭場を、喪主、葬家として、または弔問客として利用したことがありますか。「かわさき南部斎苑」「かわさき北部斎苑」それぞれについてお答えください。

過去10年間の利用状況では、「かわさき南部斎苑」、「かわさき北部斎苑」いずれも「利用したことがない」が7割を超えている。全体から「利用したことがない」、「わからない・覚えていない」、「無回答」を除いた【利用あり】の割合は、「かわさき南部斎苑」が18.0%、「かわさき北部斎苑」が20.1%であった。

【図表 136】市営葬祭場の利用状況（複数回答）



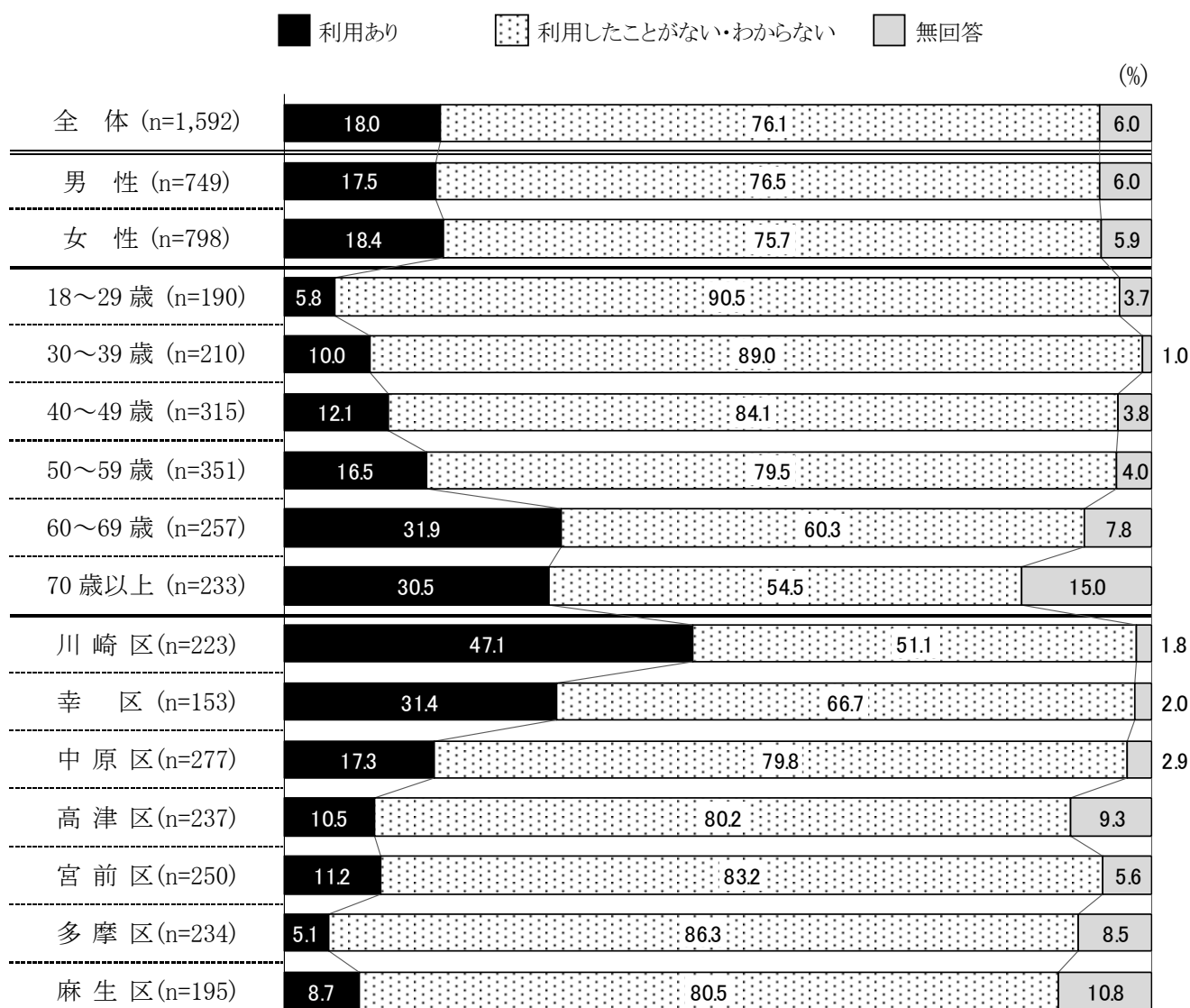
①「かわさき南部斎苑」について

性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【利用あり】の割合はおおむね年齢が上がるほど高く、60歳代以上で3割を超えている。

居住区別に見ると、【利用あり】の割合は「川崎区」(47.1%)が最も高く、「幸区」(31.4%)、「中原区」(17.3%)、「宮前区」(11.2%)と続いている。

【図表 137】「かわさき南部斎苑」の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



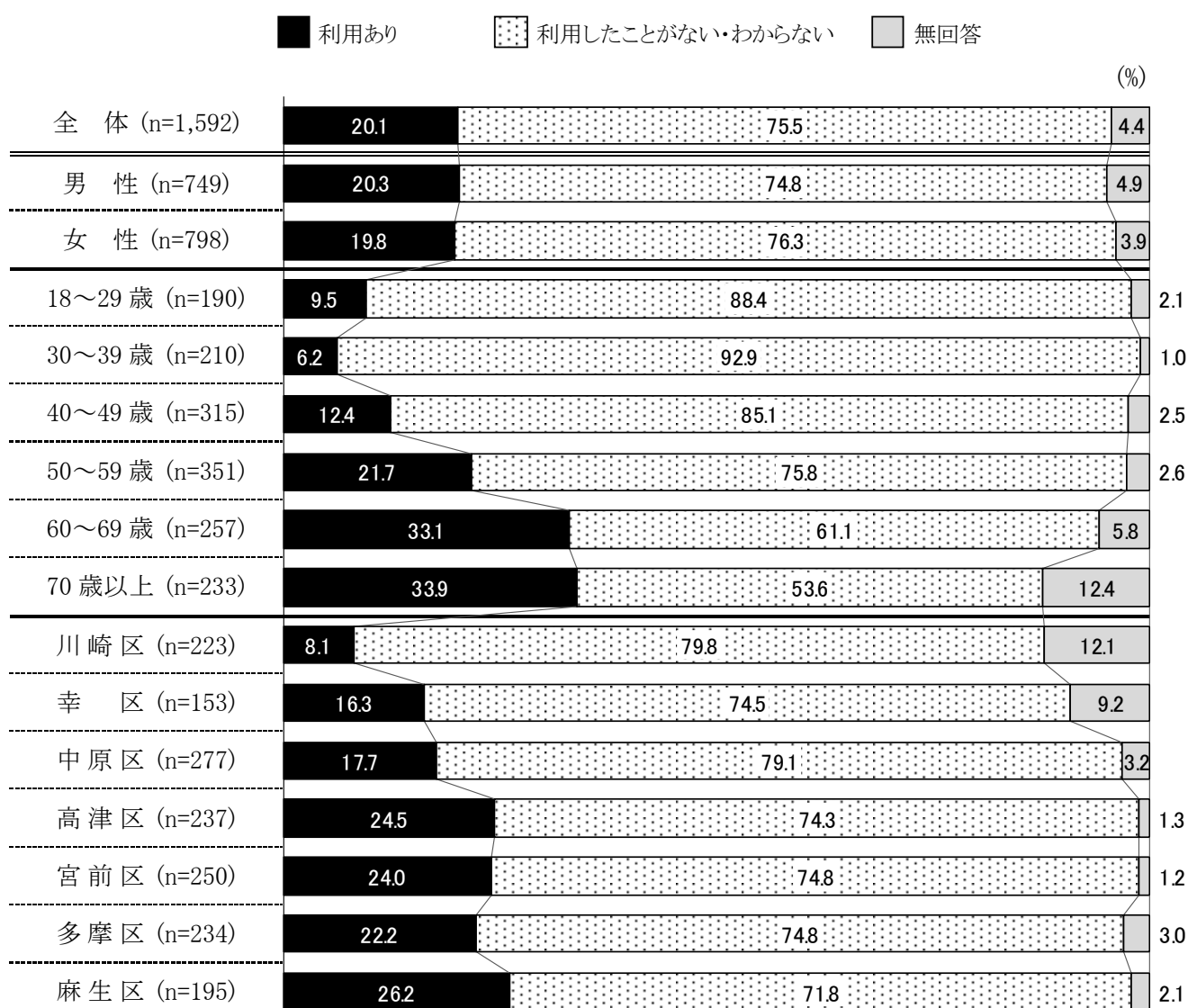
②「かわさき北部斎苑」について

性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【利用あり】の割合は18～29歳を除き年齢が上がるほど高く、60歳代以上で3割を超えている。

居住区別に見ると、【利用あり】の割合は「麻生区」(26.2%)が最も高く、「高津区」(24.5%)、「宮前区」(24.0%)、「多摩区」(22.2%)と続いている。

【図表 138】「かわさき北部斎苑」の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



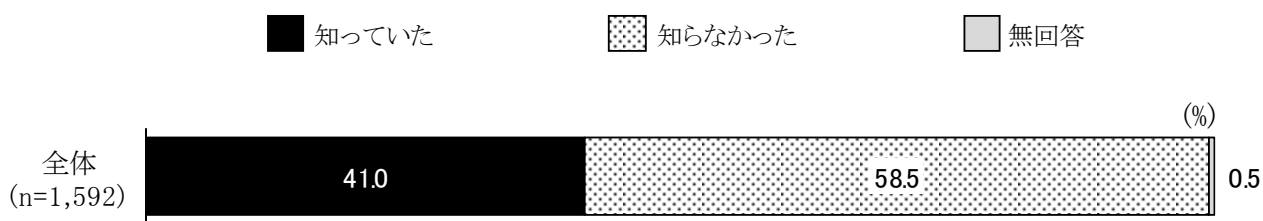
(2) 友引の日に火葬を行うことについて

問 19. 友引の日にはお葬式や火葬を行わないとする慣習があるため、川崎市においても一部の時期を除き、友引の日は葬祭場をお休みとしています。このことについて、以下の質問にお答えください。

① あなたは、葬祭場は原則として友引の日がお休みであることを知っていましたか。

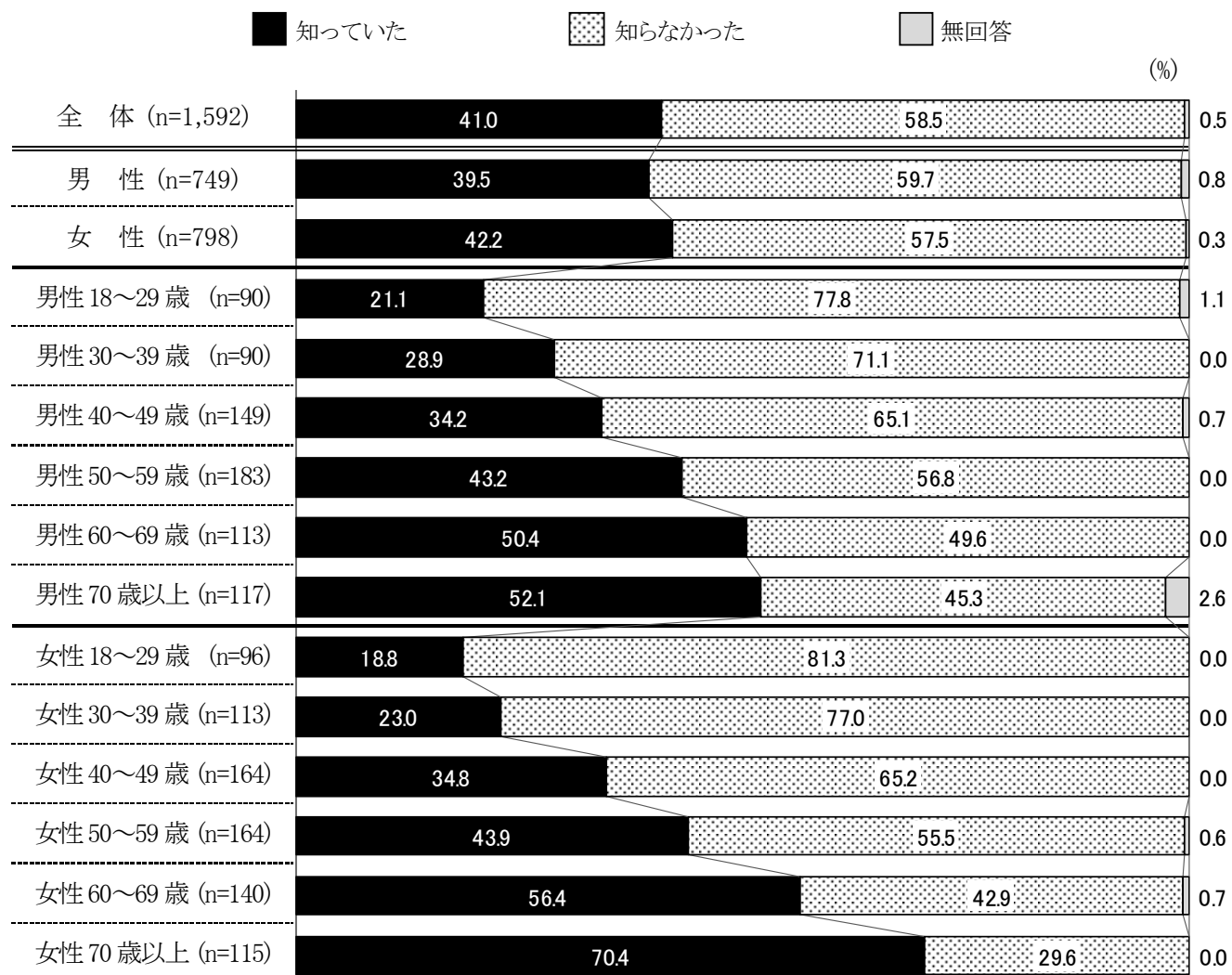
「知っていた」が41.0%、「知らなかった」が58.5%となっている。

【図表 139】 葬祭場は友引の日が休みであることの認知状況



性／年齢別に見ると、「知っていた」の割合は男女ともに年齢が上がるほど高く、女性70歳以上(70.4%)が最も高い。

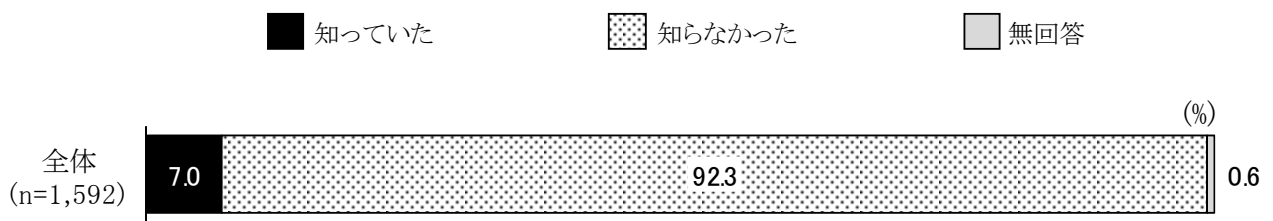
【図表 140】 葬祭場は友引の日が休みであることの認知状況（性別、性／年齢別）



- ② 高齢化に伴う多死社会の到来により、葬祭場はこれまで以上に多くの火葬の受け入れを求められることが想定されます。受け入れ数を増やすための取り組みとして、葬祭場が特に混雑する時期に、友引の日も開苑し、火葬を受け入れています。あなたはこのような取り組み(友引日開苑)を知っていましたか。

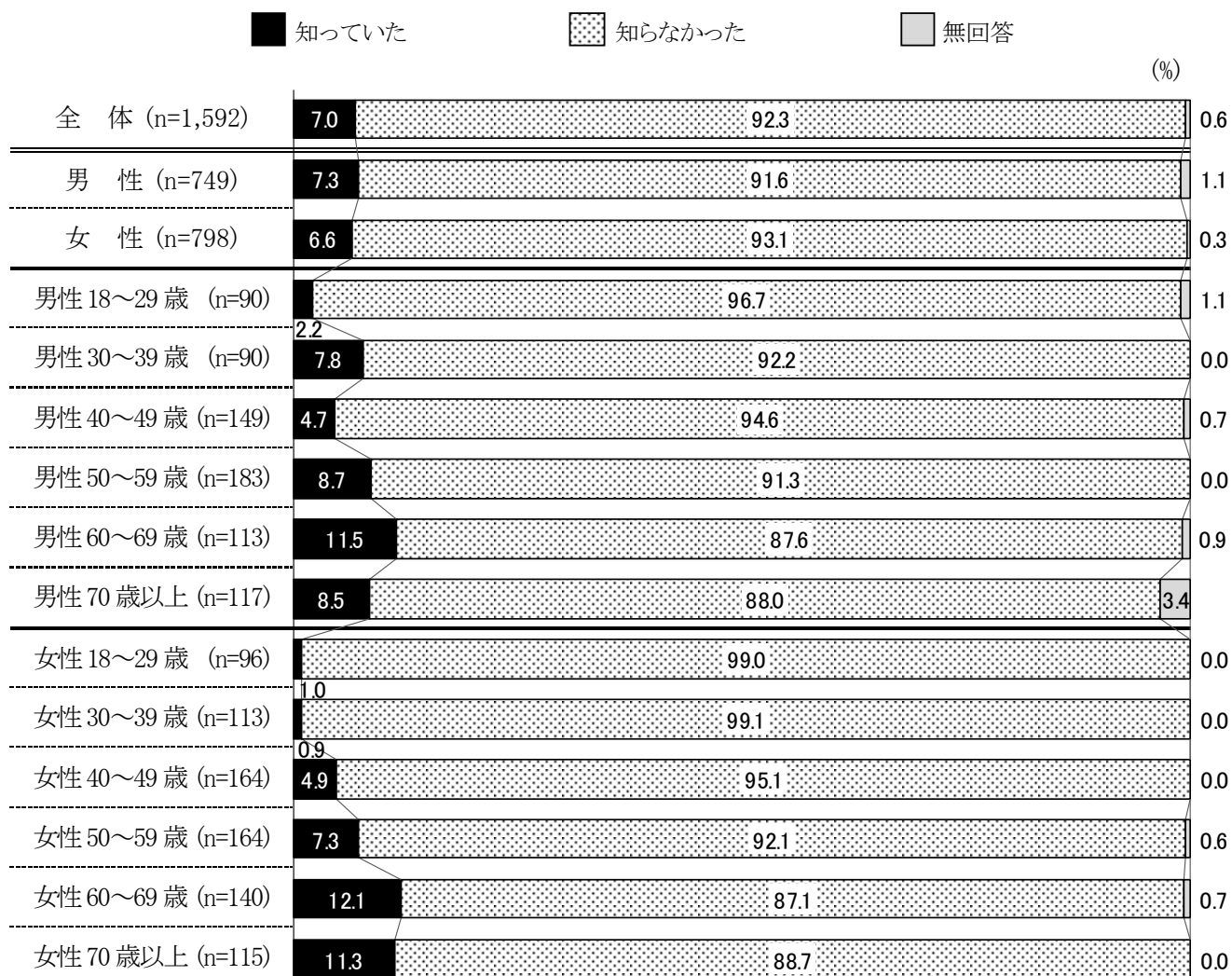
「知らなかった」が92.3%、「知っていた」が7.0%となっている。

【図表 141】「友引日開苑」の認知状況



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以下で「知らなかった」の割合が9割を超えている。

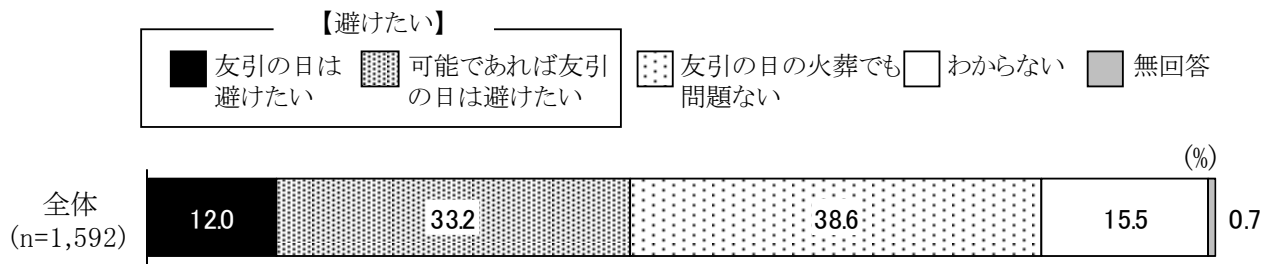
【図表 142】「友引日開苑」の認知状況（性別、性／年齢別）



③ 友引の日に火葬を行うことについて、あなたはどのように考えますか。

「可能であれば友引の日は避けたい」(33.2%)と「友引の日は避けたい」(12.0%)を合わせた【避けたい】は45.2%、「友引の日の火葬でも問題ない」が38.6%であった。

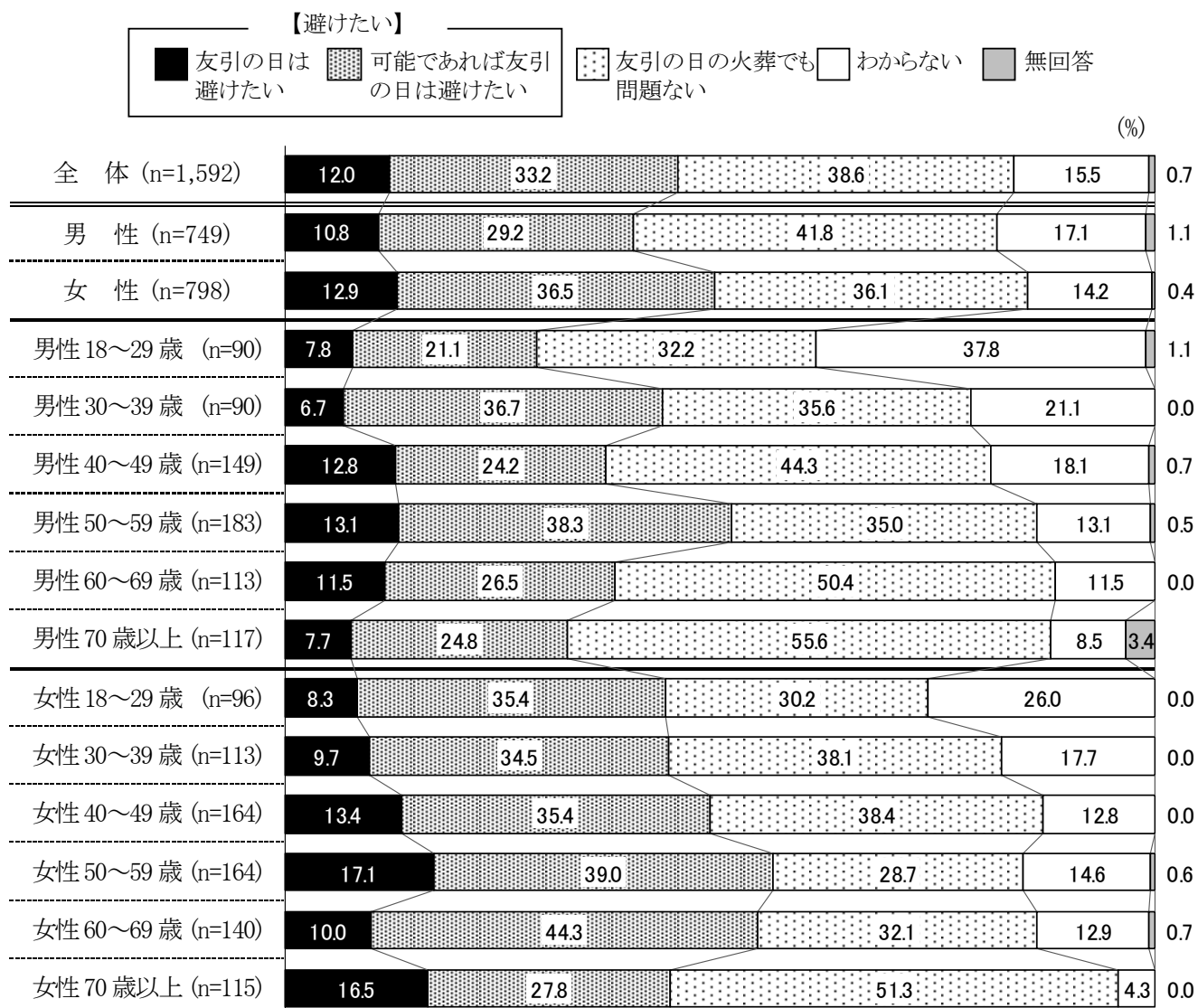
【図表 143】 友引の日に火葬を行うことについての考え方



性別に見ると、【避けたい】の割合は、男性(40.1%)よりも女性(49.4%)の方が9.3ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【避けたい】の割合は男性50歳代と女性の50歳代~60歳代で5割を超えて高く、「友引の日の火葬でも問題ない」は男性60歳代以上と女性70歳以上で5割を超えて高くなっている。

【図表 144】友引の日に火葬を行うことについての考え方(性別、性/年齢別)

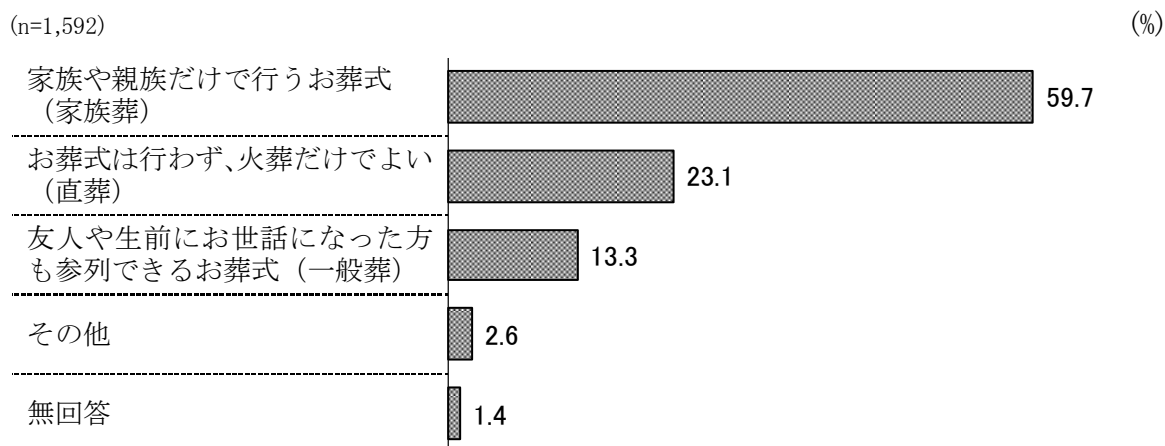


(3) 希望するお葬式の形態

問 20. お葬式には個々のお考えや宗教によってさまざまな形態があります。
あなたは、ご自身が亡くなった後のお葬式はどのような形にすることを希望しますか。

「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」（59.7%）が最も高く、次いで「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」（23.1%）、「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」（13.3%）と続いている。

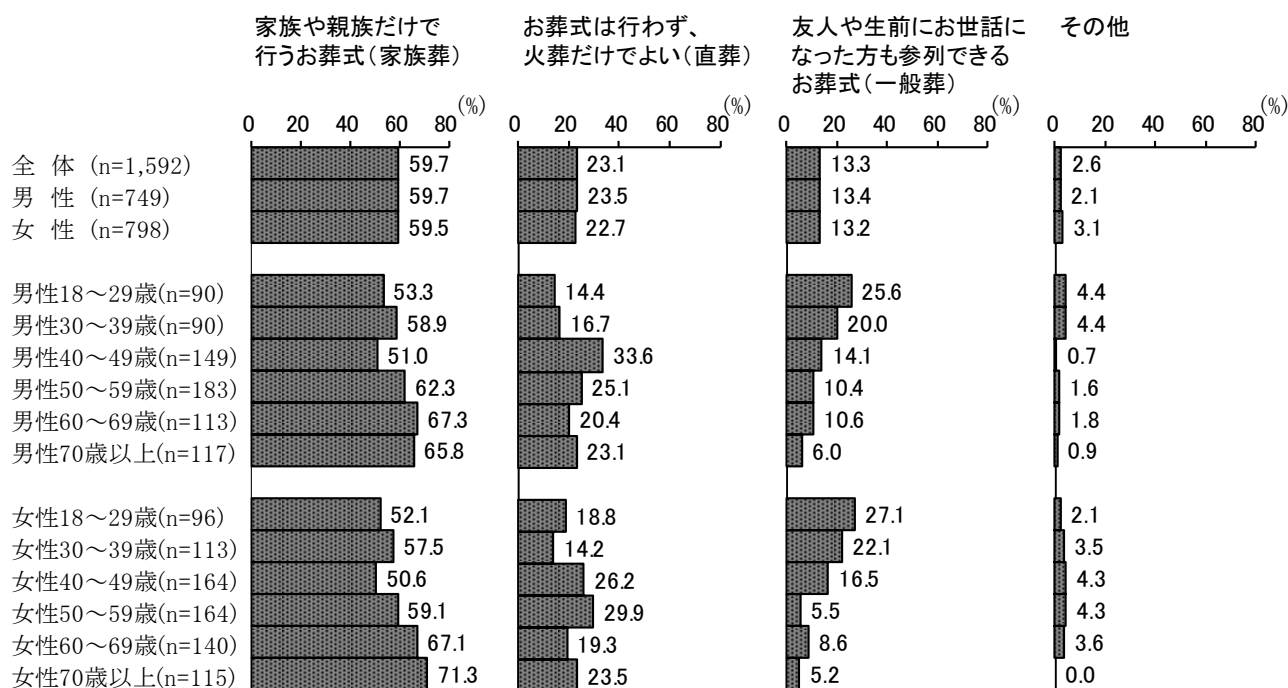
【図表 145】 希望するお葬式の形態



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」は男女ともに50歳代以上でおおむね6割を超え、高くなっている。「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」は男性では40歳代（33.6%）が最も高く、女性では50歳代（29.9%）が最も高くなっている。「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」は男女ともに18～29歳が最も高く、おおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 146】希望するお葬式の形態（性別、性／年齢別）



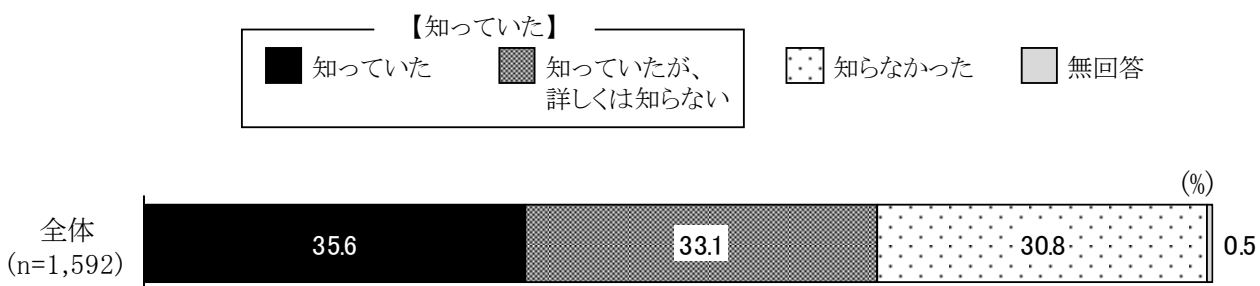
(4) 残骨灰について

問 21. 火葬を行うと、収骨していただく御遺骨の他に、棺や棺に納められた品物等を由来とする灰や収骨されなかった小さな御遺骨等が残ります。この灰等（「残骨灰」といいます）についてうかがいます。

① 火葬の後、残骨灰が残ることを知っていますか

「知っていた」(35.6%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(33.1%)を合わせた【知っていた】は68.7%となっている。

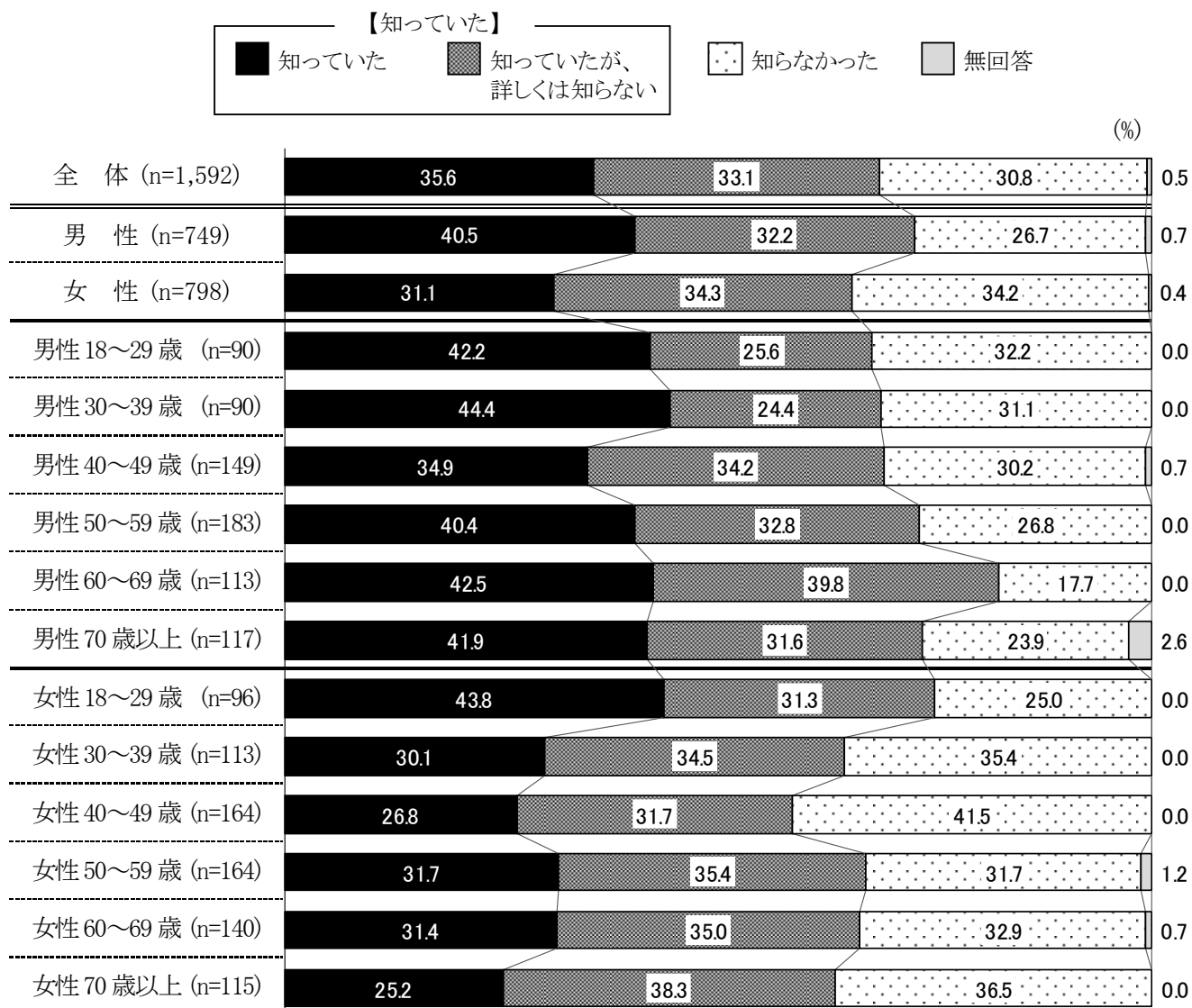
【図表 147】 火葬の後、残骨灰が残ることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（65.4%）よりも男性（72.6%）の方が7.2ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の50歳代以上と女性の18～29歳で7割を超えており、男性60歳代（82.3%）で8割を超え、最も高い。

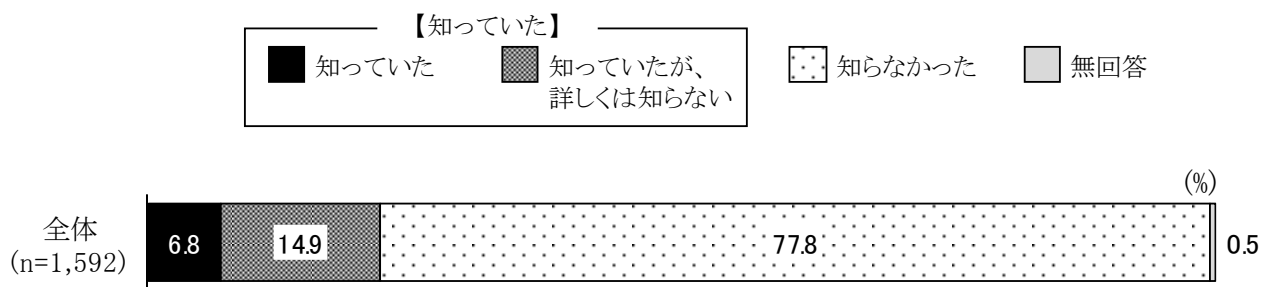
【図表 148】火葬の後、残骨灰が残ることの認知状況（性別、性／年齢別）



② 残骨灰には、有害物質が含まれていることを知っていますか

「知らなかった」が77.8%、「知っていた」(6.8%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(14.9%)を合わせた【知っていた】は21.7%となっている。

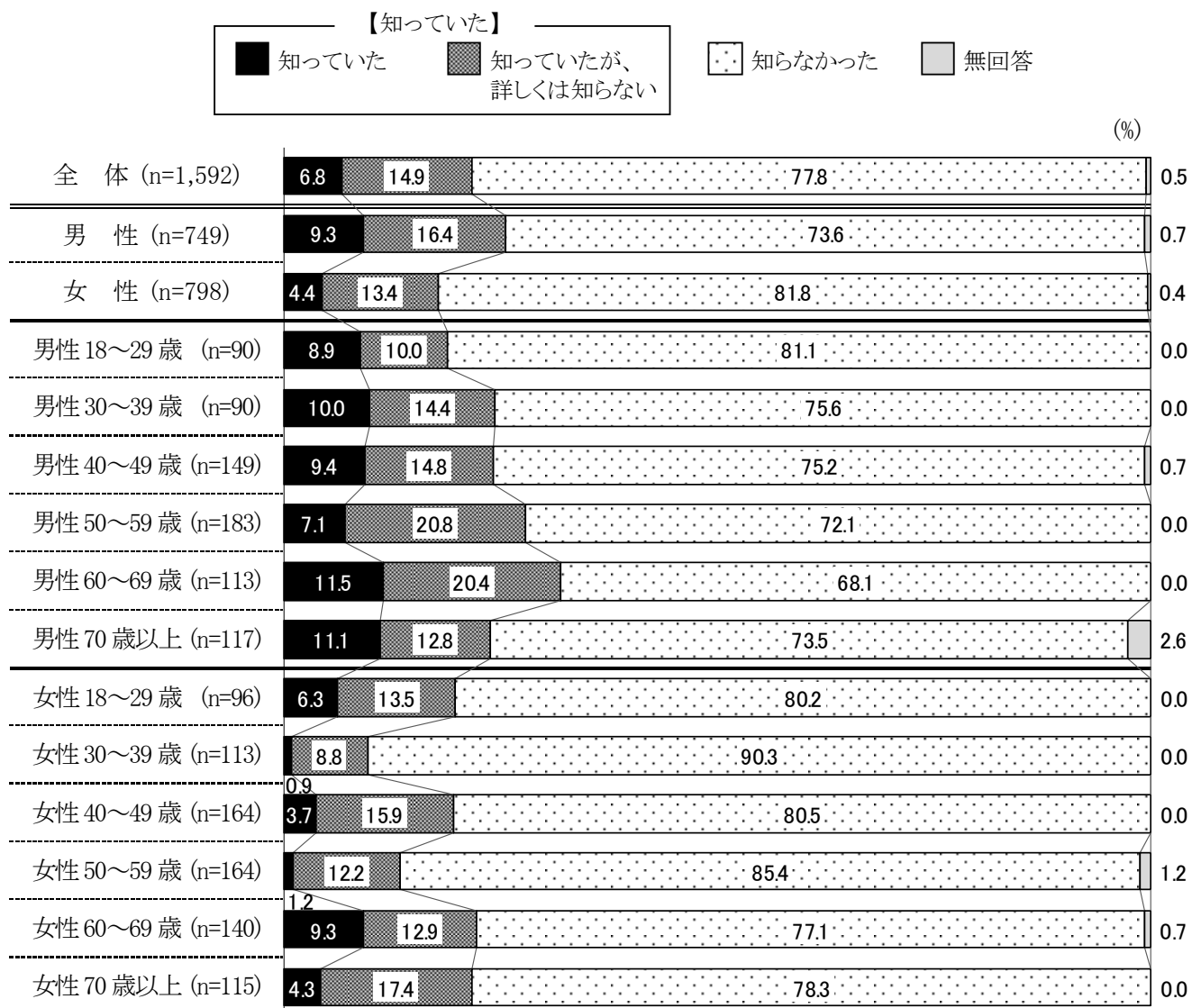
【図表 149】 残骨灰に有害物質が含まれていることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（17.8%）よりも男性（25.8%）の方が8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の30歳代以上と女性の60歳代以上で2割を超えており、男性60歳代（31.9%）で3割を超え、最も高い。

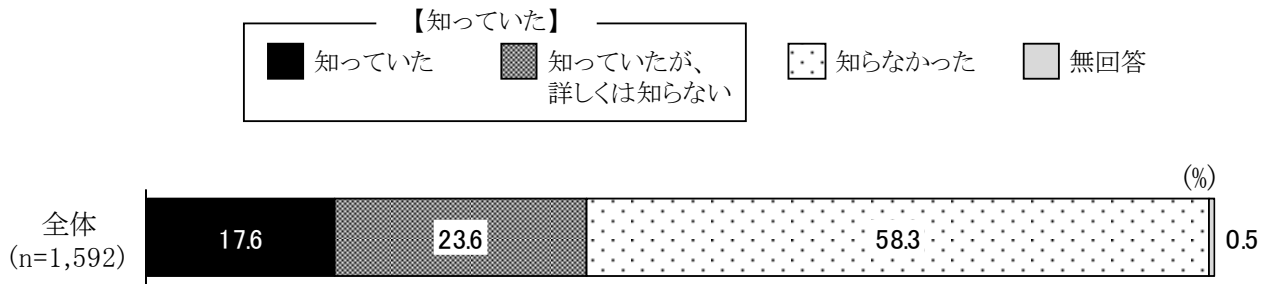
【図表 150】 残骨灰に有害物質が含まれていることの認知状況（性別、性／年齢別）



③ 残骨灰には、貴金属等の有価物が含まれていることを知っていますか

「知らなかった」が 58.3%、「知っていた」(17.6%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(23.6%)を合わせた【知っていた】は 41.2%となっている。

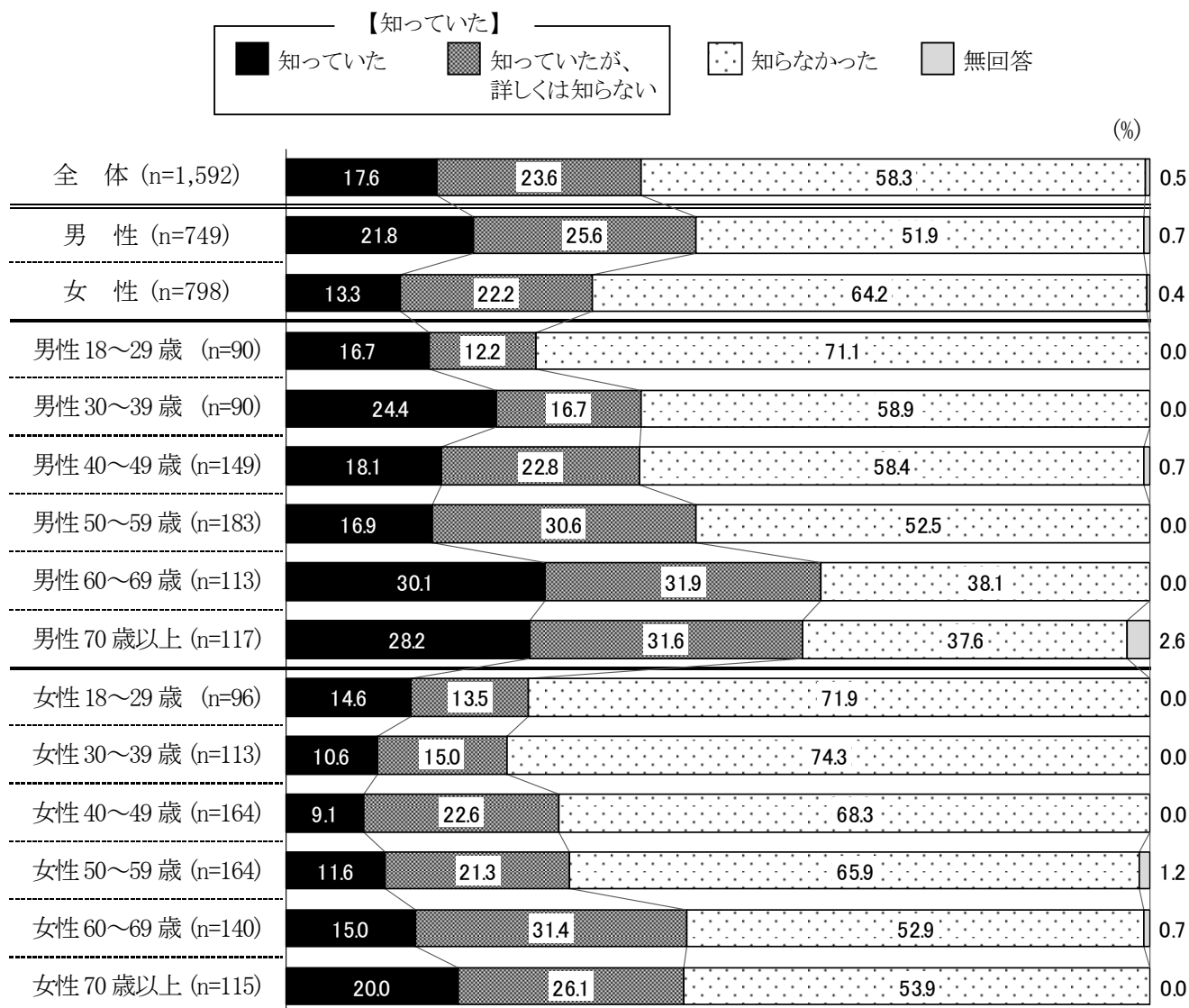
【図表 151】 残骨灰に貴金属等の有価物が含まれていることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（35.5%）よりも男性（47.4%）の方が11.9ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の30歳代以上と女性の60歳代以上で4割を超えており、男性60歳代（61.9%）で6割を超え、最も高い。

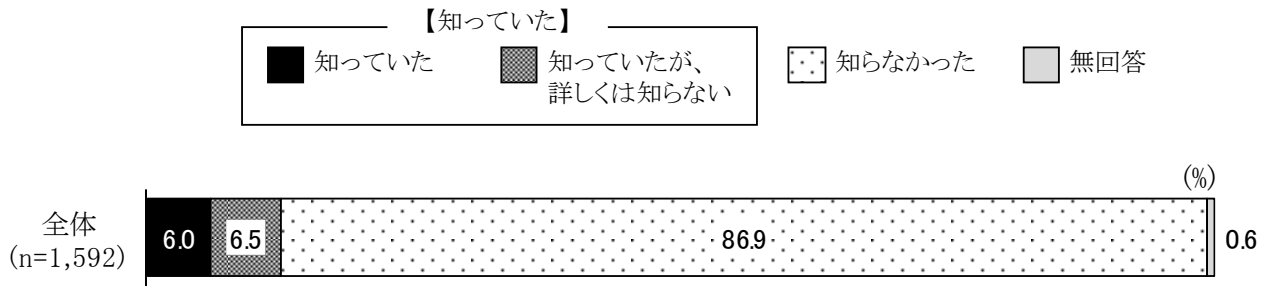
【図表 152】 残骨灰に貴金属等の有価物が含まれていることの認知状況（性別、性／年齢別）



④ 他都市では、残骨灰を売却する等の取り組みを行い、自治体の財源としている例があることを知っていますか

「知らなかった」が86.9%、「知っていた」(6.0%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(6.5%)を合わせた【知っていた】は12.5%となっている。

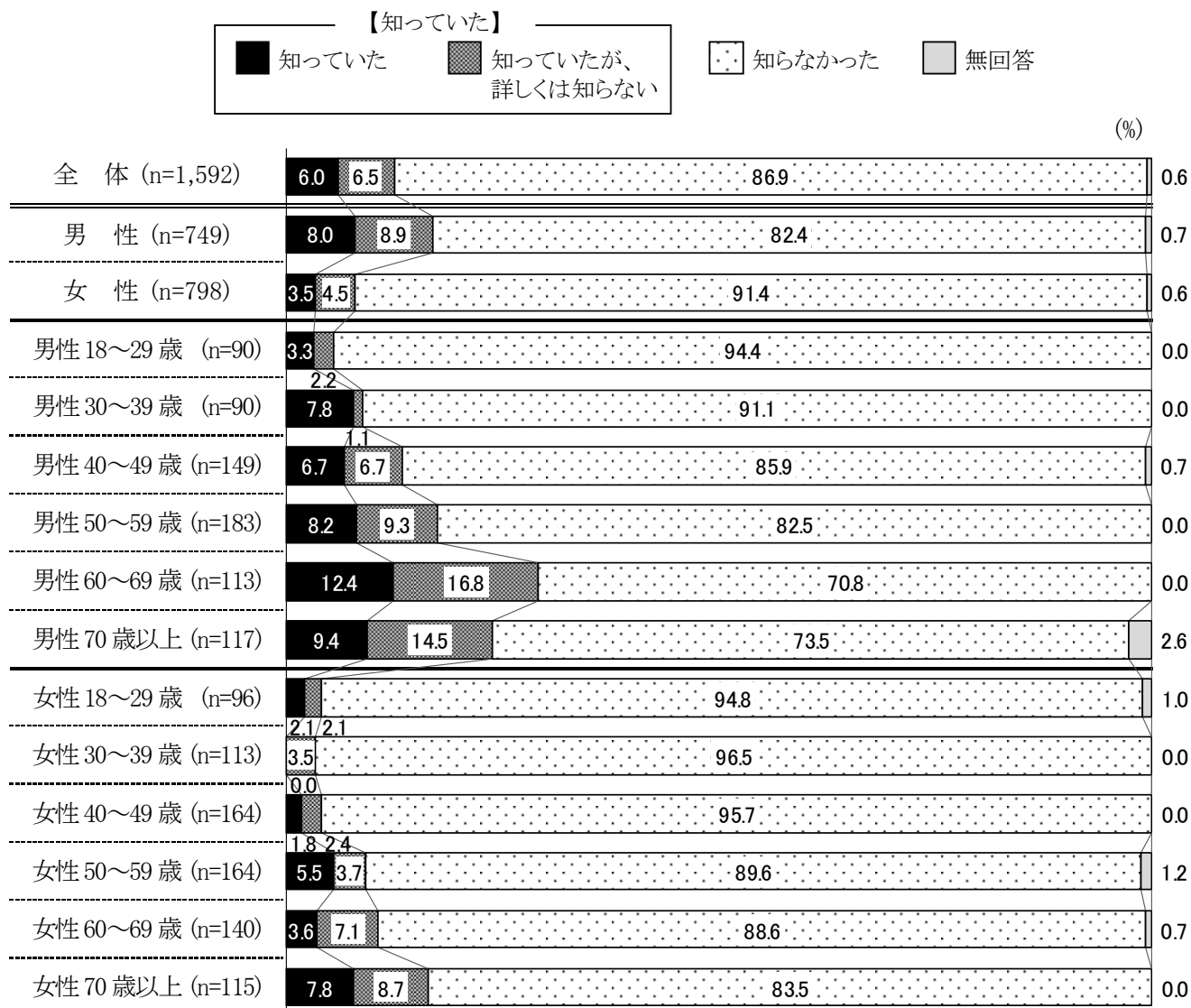
【図表 153】 残骨灰を売却し、自治体の財源としている例があることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（8.0%）よりも男性（17.0%）の方が9.0ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の40歳代以上と女性の60歳代以上で1割を超えており、男性60歳代（29.2%）で最も高い。

【図表 154】 残骨灰を売却し、自治体の財源としている例があることの認知状況（性別、性／年齢別）

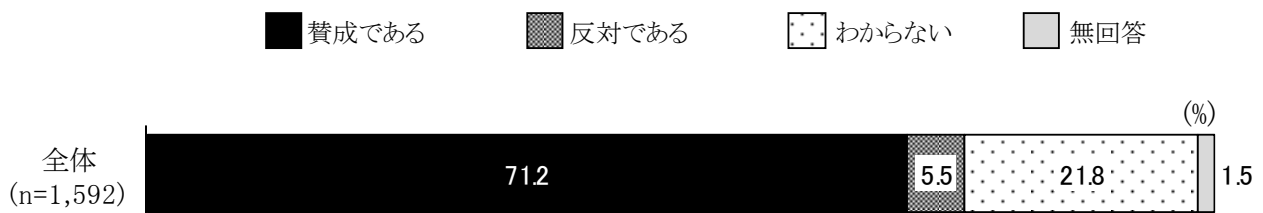


(5) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否

問 22. 川崎市では残骨灰について、外部の業者に委託し、残骨灰に含まれる御遺骨については埋葬、供養したうえで、それ以外の灰は有害物質を除去して処分しています。
あなたは川崎市が他都市のように残骨灰を業者に売却し、残骨灰に含まれる御遺骨を埋葬、供養したうえで、収益を葬祭場等の運営に役立てることについてどう思いますか。

「賛成である」が71.2%、「わからない」が21.8%、「反対である」が5.5%となっている。

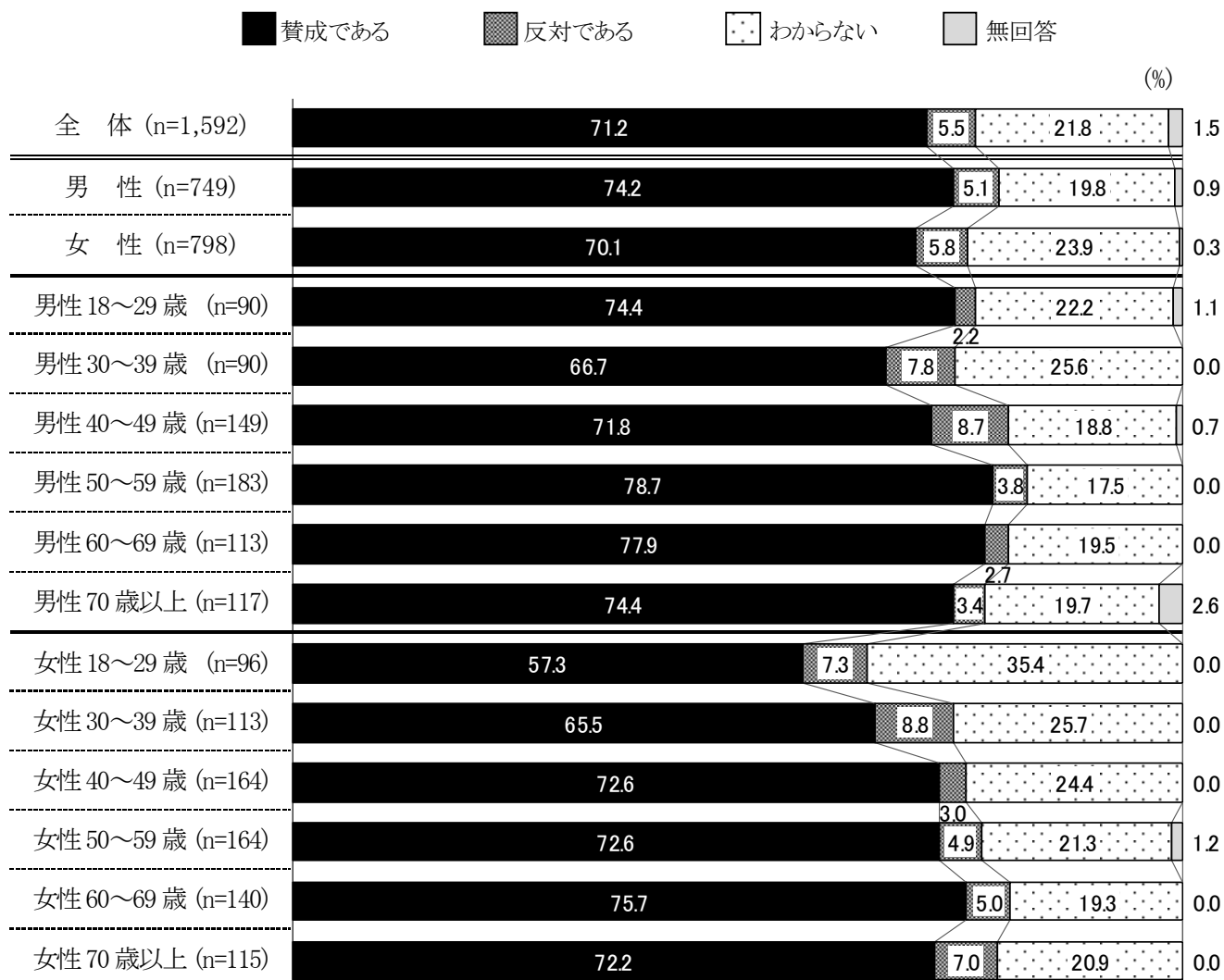
【図表 155】 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「賛成である」の割合は男性 50 歳代～60 歳代が 7 割台後半で高く、「わからない」の割合は女性 18～29 歳（35.4%）が最も高くなっている。

【図表 156】 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに賛否（性別、性／年齢別）



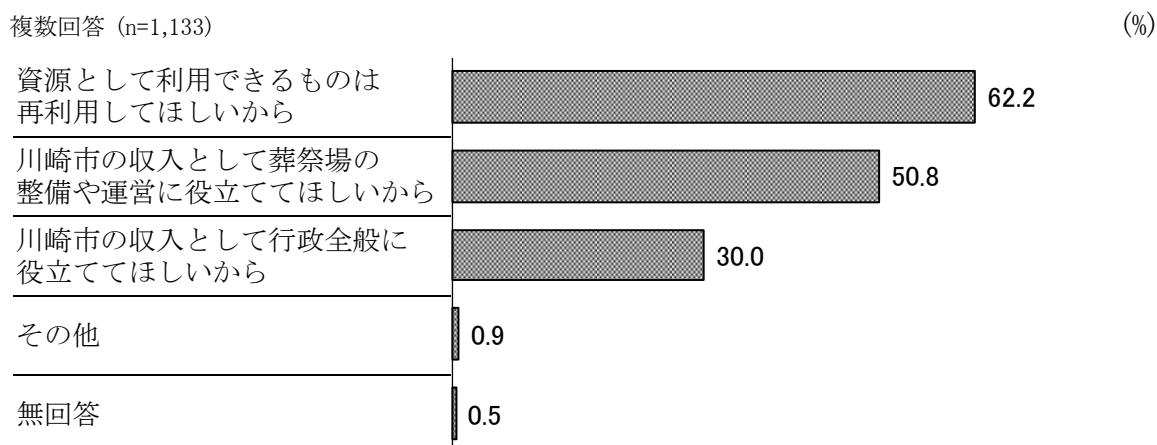
(6) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否の理由

① 残骨灰の収益化に賛成の理由

問 22-1. 賛成の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。

残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに「賛成である」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「資源として利用できるものは再利用してほしいから」(62.2%)が最も高く、次いで「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」(50.8%)、「川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから」(30.0%)と続いている。

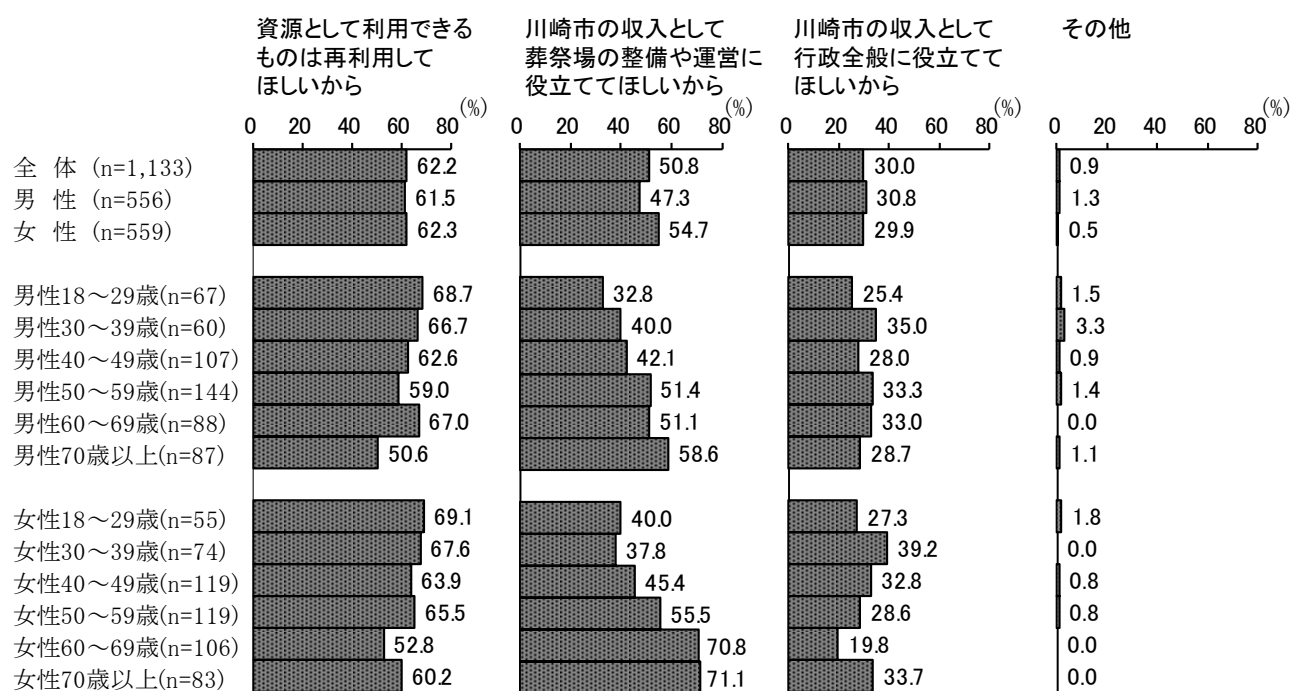
【図表 157】 残骨灰の収益化に賛成の理由 (複数回答)



性別に見ると、「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」は男性(47.3%)よりも女性(54.7%)の方が7.4ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、「資源として利用できるものは再利用してほしいから」は男女ともに18～29歳が最も高く、「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」は男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高く、女性の60歳代以上で7割を超えている。「川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから」は男女ともに30歳代が最も高くなっている。

【図表 158】 残骨灰の収益化に賛成の理由（複数回答）
（性別、性/年齢別）

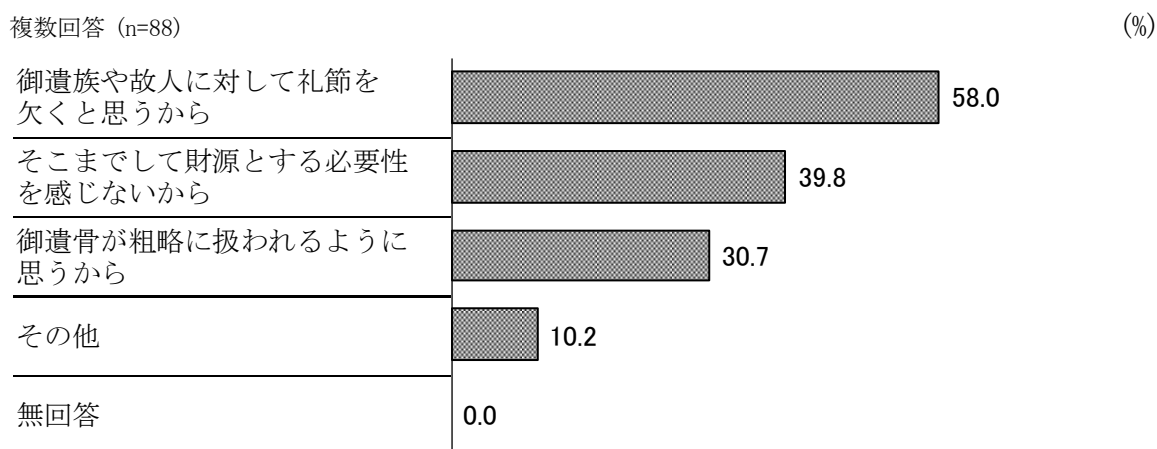


② 残骨灰の収益化に反対の理由

問 22-2. 反対の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。

残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに「反対である」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「御遺族や故人に対して礼節を欠くと思うから」(58.0%)が最も高く、次いで「そこまでして財源とする必要性を感じないから」(39.8%)、「御遺骨が粗略に扱われるように思うから」(30.7%)と続いている。

【図表 159】 残骨灰の収益化に反対の理由（複数回答）



性別に見ると、「御遺骨が粗略に扱われるように思うから」は男性(26.3%)よりも女性(32.6%)の方が6.3ポイント高くなっている。

性/年齢別の回答結果は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 160】 残骨灰の収益化に反対の理由（複数回答）
（性別、性/年齢別）

